

令和6年度

能代市

市民健康意識調査結果

令和7年3月

健康づくり課

I 調査の概要

1. 実施時期

令和6年6月3日（月）から6月28日（金）まで

【参考】 R3 調査時期 令和3年5月31日から令和3年6月18日

H29 調査時期 平成29年5月8日から平成29年5月31日

2. 対象者

市内にお住まいの20歳以上の方の中から、以下の通り抽出された2,000人

《 令和6年度 調査対象者 》

- ・年齢基準日 令和6年4月1日
- ・年齢構成

	能代地区	二ツ井地区	計
20歳代	257人	50人	307人
30歳代	235人	51人	286人
40歳代	256人	51人	307人
50歳代	249人	51人	300人
60歳代	250人	52人	302人
70歳代	250人	51人	301人
80歳代以上	167人	30人	197人
計	1,664人	336人	2,000人

【参考】 R3 調査対象者 2,000人

H29 調査対象者 2,000人

3. 調査項目

令和3年度の調査項目をもとに、一部変更・追加して、以下の通りとした。

- ① 健康状態や健康管理の方法について（5項目）
- ② 食生活について（10項目）
- ③ 運動習慣について（4項目）
- ④ ストレスや悩み事について（4項目）
- ⑤ たばこについて（7項目）
- ⑥ お酒について（3項目）
- ⑦ 歯の健康について（4項目）
- ⑧ フレイル予防について（2項目）
- ⑨ 健（検）診について（5項目）

4. 調査方法・回収状況

郵送による回答方式	回収率 40.6%	回収数 811件
【参考】	R3 回収率 43.3%	回収数 865件
	H29 回収率 42.7%	回収数 854件

5. 調査結果

- ・調査結果は、H29、R3年調査と類似の設問があった場合、今回調査と対比する形で表している。
- ・複数回答の設問の場合、各設問の調査数（回答者数）を基数として回答割合を算出するため、すべての選択肢の比率の合計は100.0%を超える。

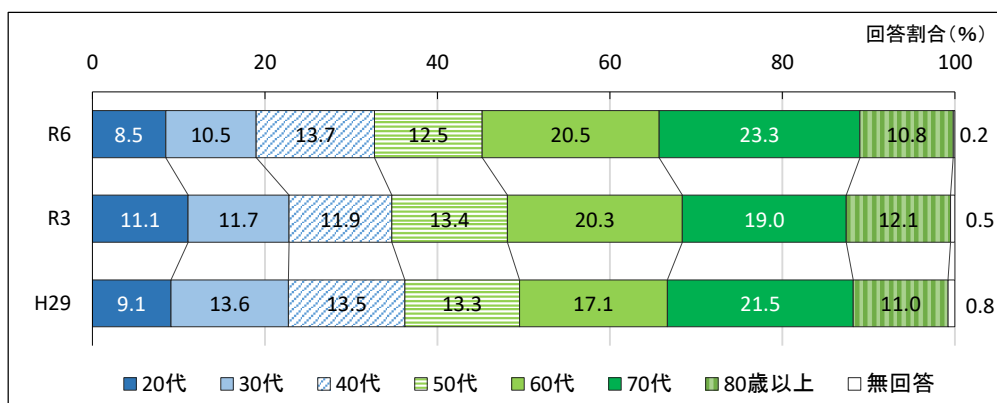
Ⅱ 調査の結果

回答者プロフィール

(1) 年齢

「70代」(23.3%)と「60代」(20.5%)の割合が比較的高く、その他の年代はいずれも1割未満から1割台前半となっており、「60代」「70代」の健康に対する関心度が高いことが伺える。

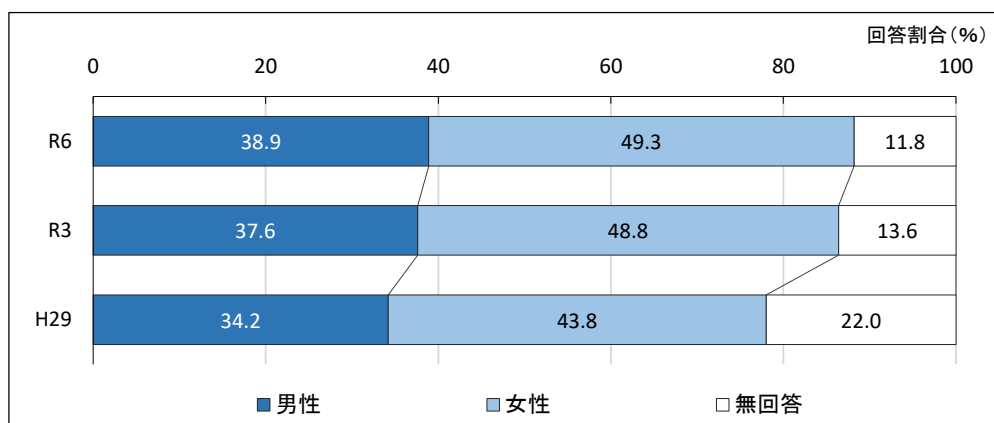
前回調査と比べると、「40代」、「60代」、「70代」の割合が上昇している。



(2) 性別

「女性」(49.3%)の割合が「男性」(38.9%)より高くなっている。

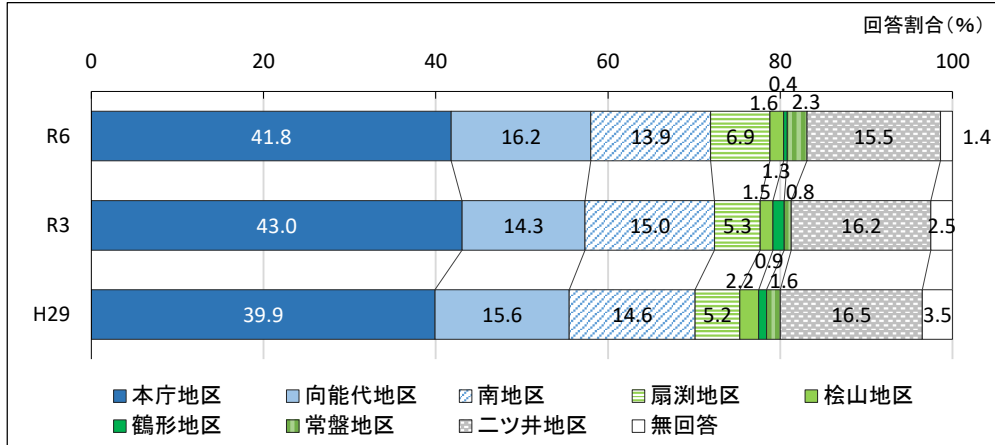
前回調査と比べると、「男性」「女性」の割合がともに上昇しており、「無回答」の割合が低下している。



(3) お住まいの地区

「本庁地区」の割合が41.8%でもっとも高く、これに「向能代地区」(16.2%)、「二ツ井地区」(15.5%)、「南地区」(13.9%)が続いている。その他の地域はいずれも1割未満の低い割合となっている。

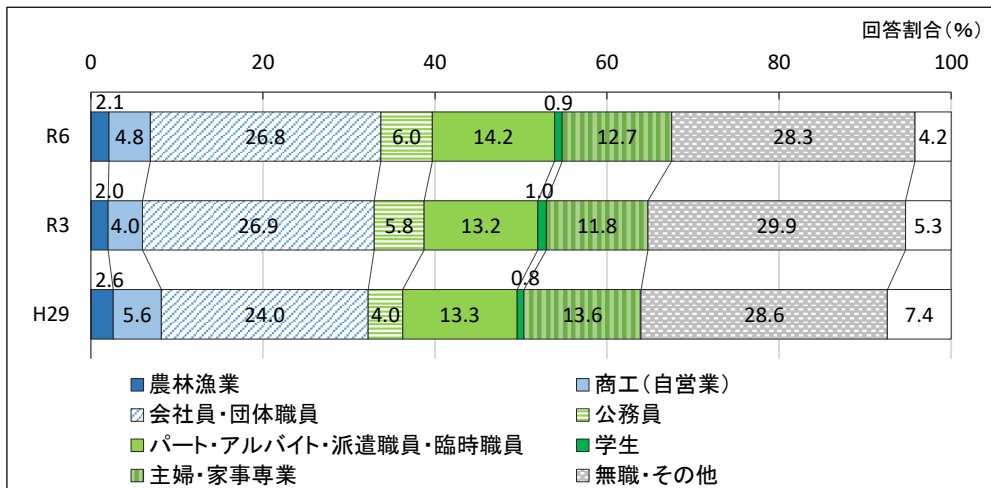
前回調査と比べると、「向能代地区」、「扇淵地区」等の割合が上昇している。



(4) 職業

「無職・その他」の割合が28.3%でもっとも高く、次いで「会社員・団体職員」(26.8%)が続く。以下は「パート・アルバイト・派遣職員・臨時職員」(14.2%)、「主婦・家事専業」(12.7%)の順となっている。

「無職・その他」の割合が高い要因として、高齢者からの回答が多いことが考えられる。前回調査と比べると、「商工(自営業)」、「パート・アルバイト・派遣職員・臨時職員」、「主婦・家事専業」等の割合が上昇している。

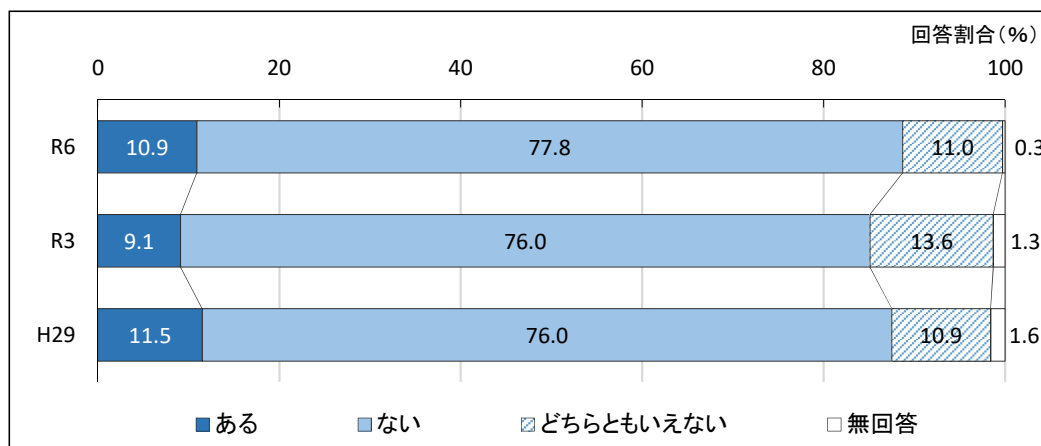


① 健康状態や健康管理の方法について

(5) 現在、健康上の理由から、日常生活に制限がありますか。

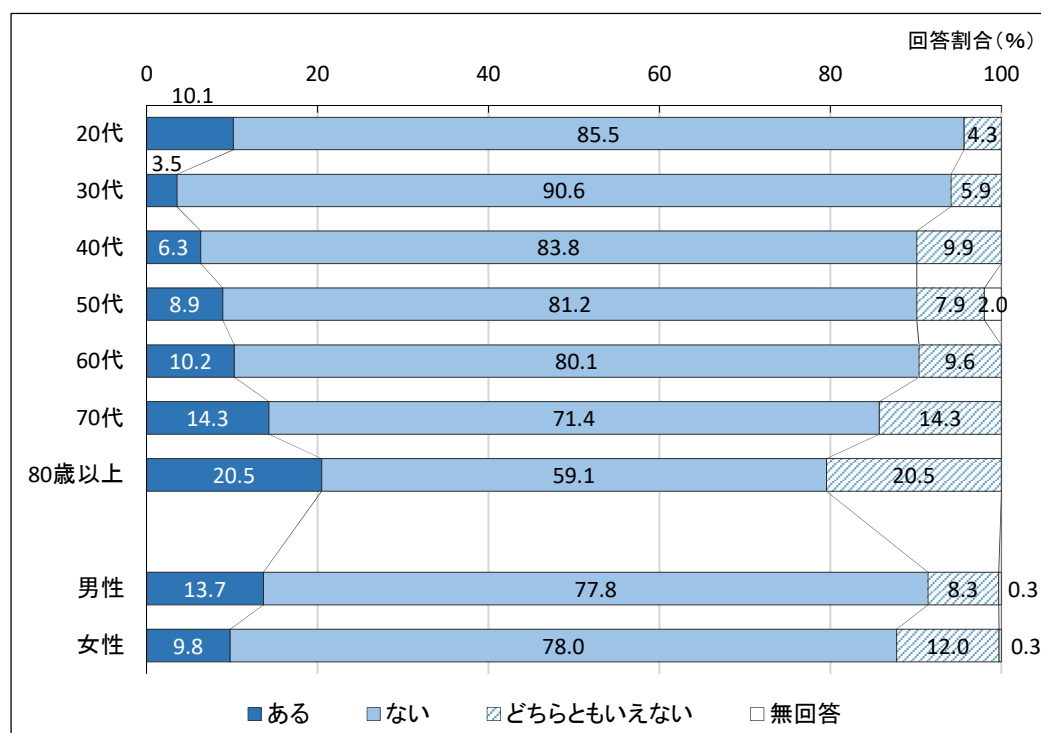
「ない」の割合が77.8%となり、「ある」(10.9%)を大きく上回った。

過去調査と比べると、「ある」の割合が上昇している一方、「ない」の割合も上昇しており、「どちらともいえない」の割合が低下している。これは、各年代における健康づくりや、高齢者の介護予防の一定の成果が表れているものと推測される一方、健康状態が悪化している方も一定数いるものと推測される。



年代別にみると、すべての年代で「ない」の割合が5割台から9割台となり「ある」の割合を上回った。80歳以上では「ある」の割合が2割台と、他の年代に比べて高くなった。「ある」の割合は、年代が上がるにつれて上昇する傾向が見られるが、20代の「ある」の割合が30～50代に比べて高くなっており、動向を注視する必要がある。

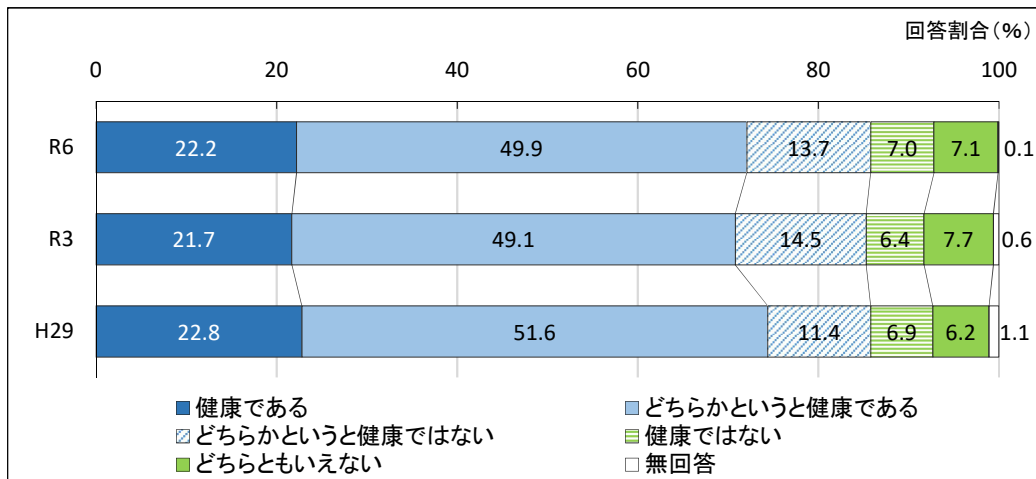
性別にみると、男女ともに「ない」が7割台と高い割合となった。



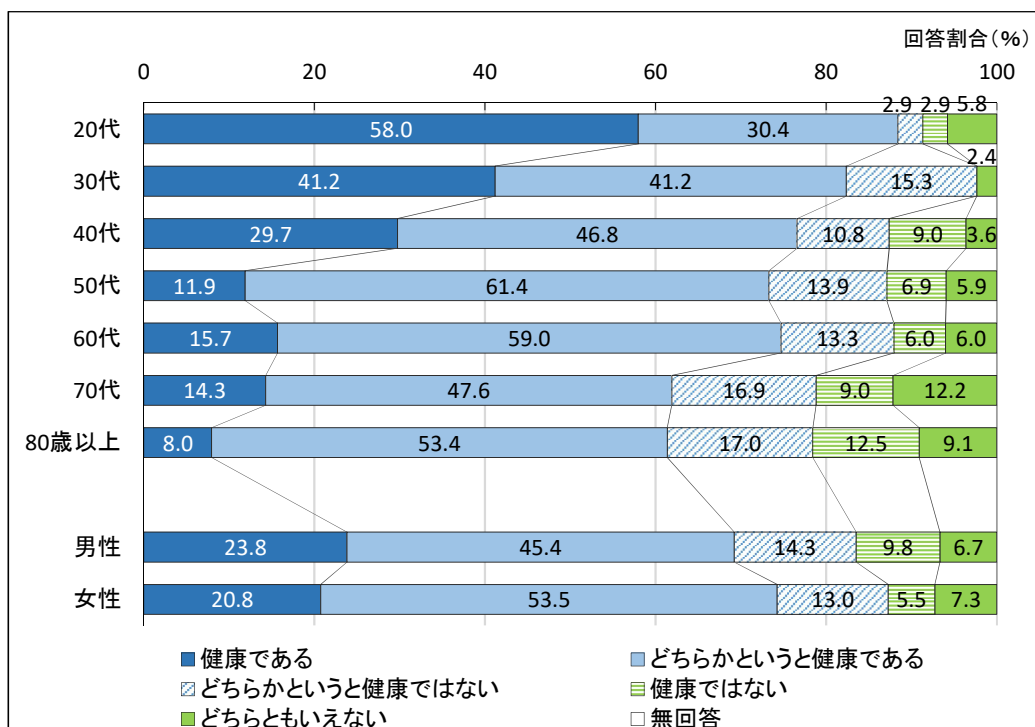
(6) 現在の健康状態についてどのように感じていますか。

「どちらかという健康である」の割合が49.9%でもっとも高く、これに「健康である」(22.2%)を合わせた『健康だと感じている』の割合は7割台となった。一方、『健康ではないと感じている』(「どちらかという健康ではない」と「健康ではない」の合計)の割合は2割台となっている。

前回調査と比べると、『健康だと感じている』の割合が上昇するとともに、『健康ではないと感じている』の割合は低下しており、健康状態が改善傾向にあることが伺える。



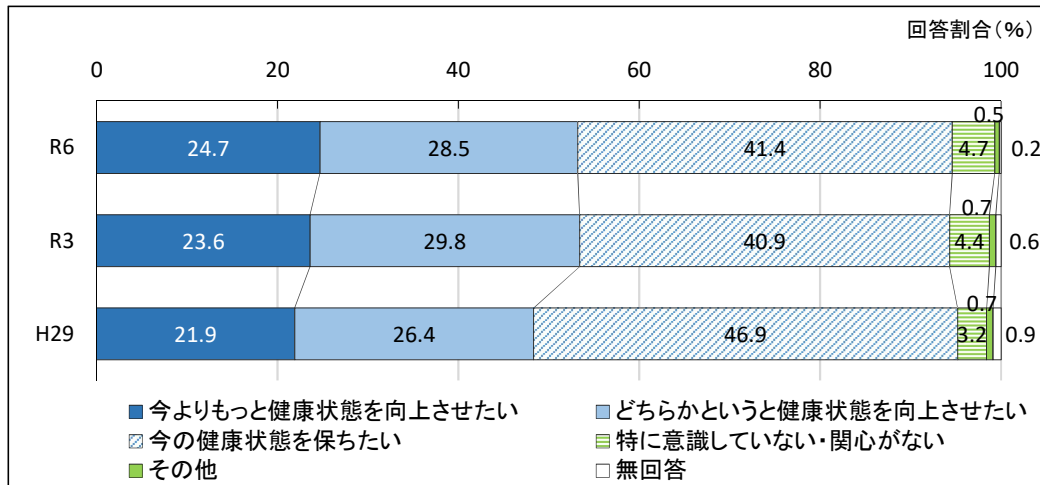
年代別にみると、「健康である」の割合は年代が上がるにつれ低下する傾向が見られるが、『健康だと感じている』の割合は20～30代で8割台、40～60代で7割台、70～80歳以上で6割台となった。性別にみると、『健康だと感じている』の割合は男女ともに7割前後と高い割合となった。



(7) 今後の健康状態をどうしていきたいと考えていますか。

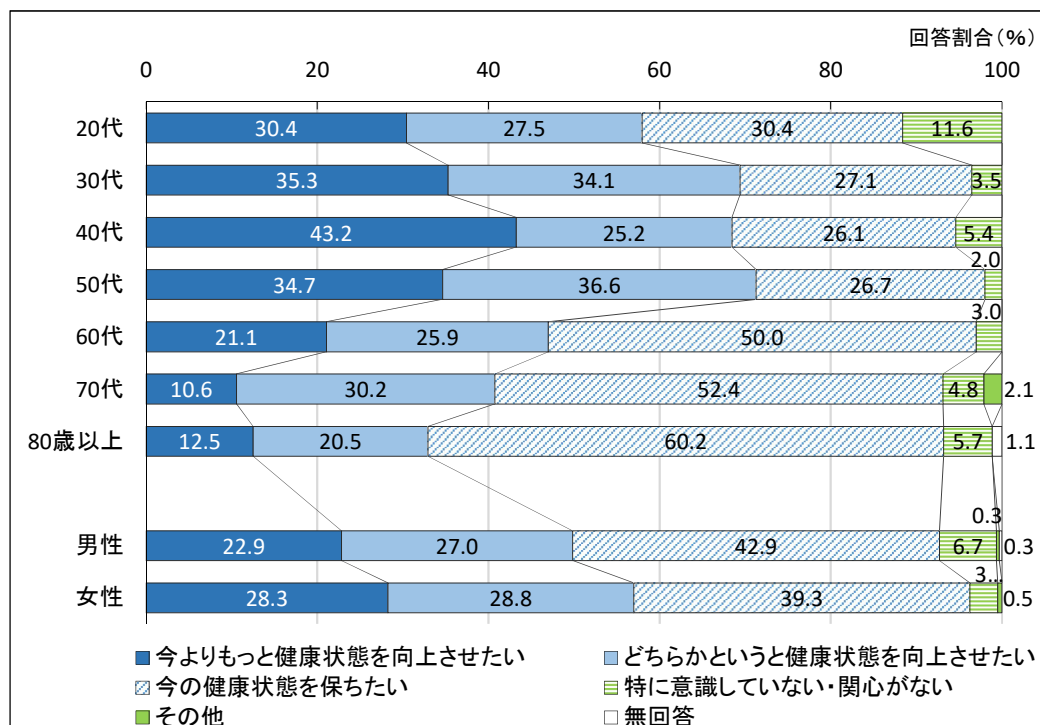
「今の健康状態を保ちたい」の割合が41.4%でもっとも高くなった。次いで「どちらかという健康状態を向上させたい」(28.5%)と「今よりもっと健康状態を向上させたい」(24.7%)が続き、これらを合わせた『健康状態を向上させたい』の割合は53.2%と過半数を占めた。

前回調査と比べると、『健康状態を向上させたい』の割合は0.2ポイント低下した一方、「今の健康状態を保ちたい」の割合が0.5ポイント上昇した。



年代別にみると、『健康状態を向上させたい』の割合は50代の7割台をピークに、60代以降は年代が上がるにつれて低下しており、40代までの比較的若い年代で健康状態を向上させたいという意識が高いことが伺えた。

性別にみると、『健康状態を向上させたい』の割合は男女ともにほぼ5割台となった。



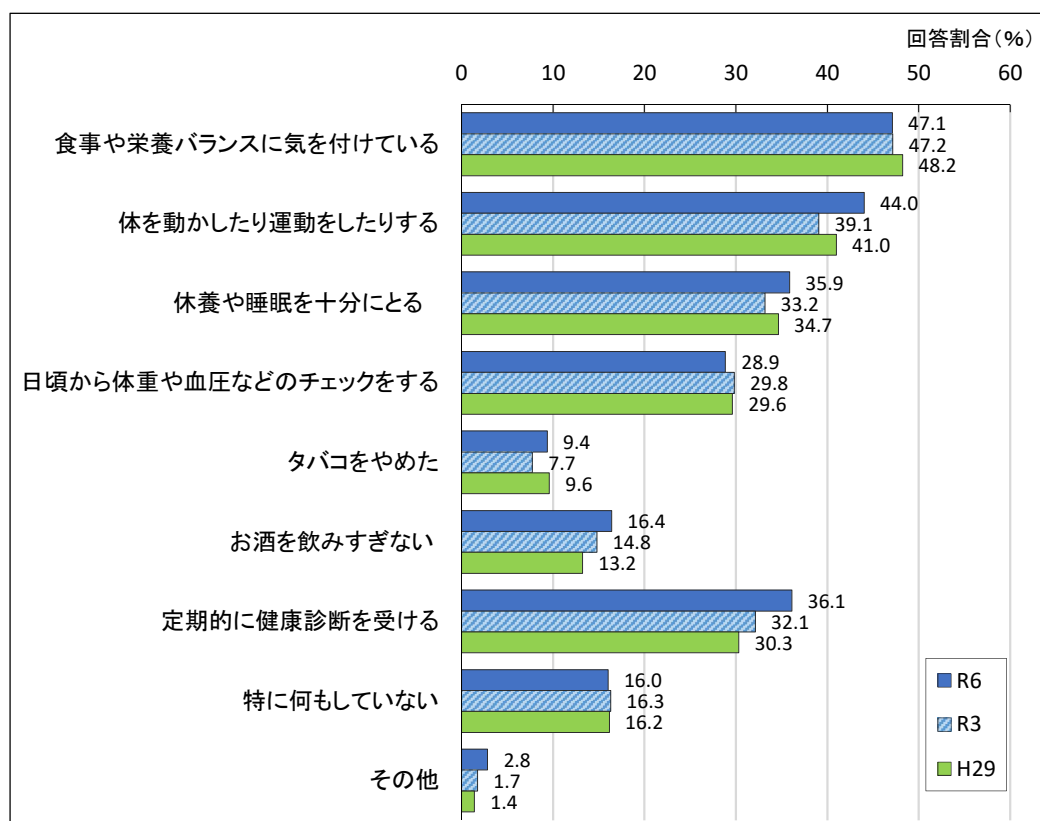
◆ その他を選択した方の回答

少しでも健康になりたい。
具合の悪い時は医師に相談しながら健康に思っている。
血糖値が高いので甘い物には気をつけている。
半ばあきらめている。ヤブばかり治してくれない。

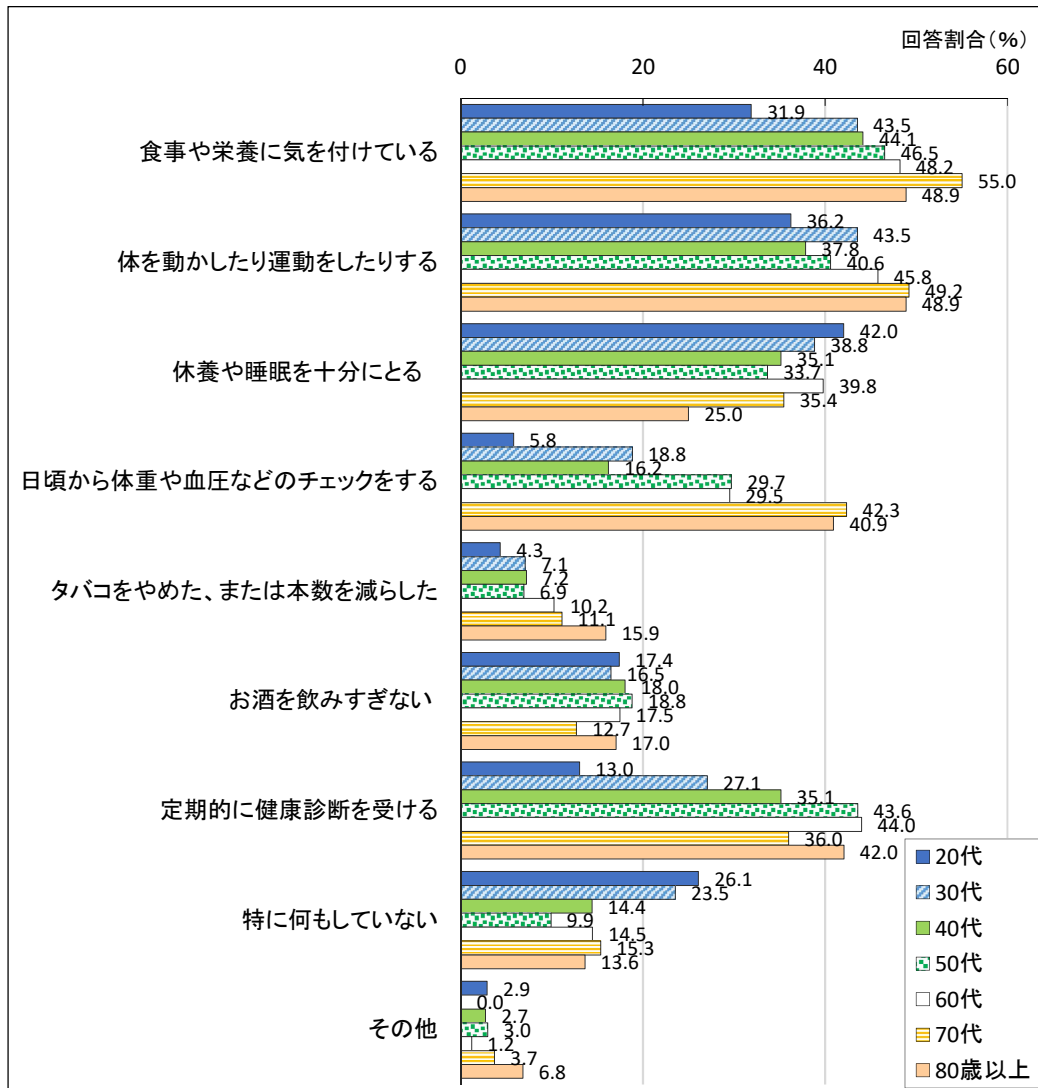
(8) 健康のために行っていることはありますか。(複数回答可)

「食事や栄養バランスに気を付けている」の割合が47.1%でもっとも高く、これに「体を動かしたり運動をしたりする」(44.0%)、「定期的に健康診断を受ける」(36.1%)、「休養や睡眠を十分にとる」(35.9%)が続いた。

前回調査と比べると、「体を動かしたり運動をしたりする」、「定期的に健康診断を受ける」の割合が上昇しており、健康に対する意識が向上していることが伺える。



年代別にみると、20代では「休養や睡眠を十分にとる」の割合がもっとも高く、その他の年代ではいずれも「食事や栄養に気を付けている」の割合がもっとも高くなった。また、「体を動かしたり運動をしたりする」、「定期的に健康診断を受ける」、「休養や睡眠を十分にとる」の割合がどの年代も比較的高い割合となっている。



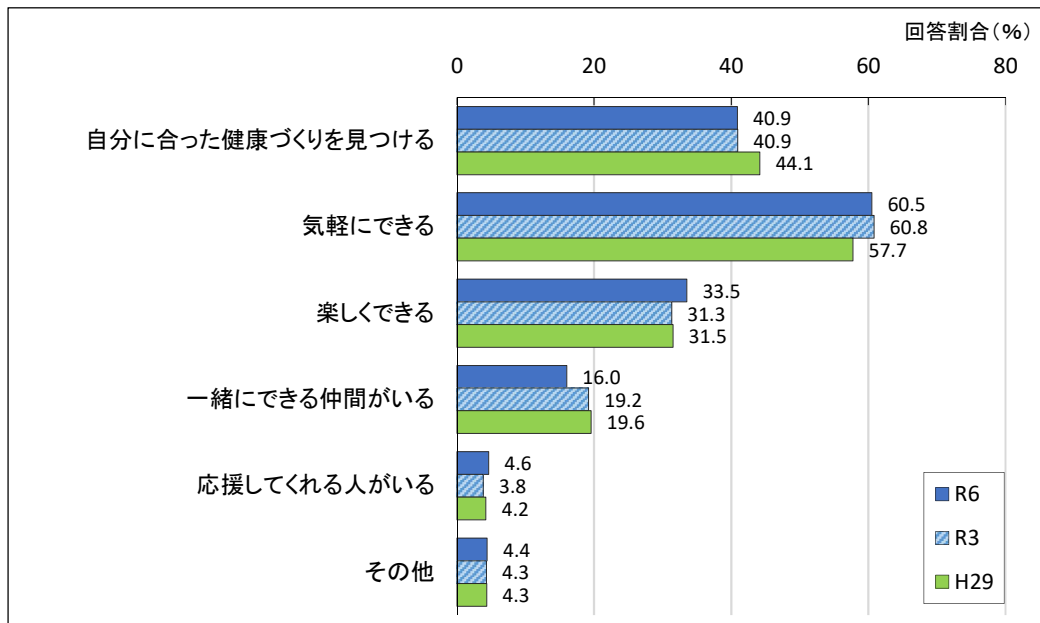
◆ その他を選択した方の回答

ストレスになりそうなものを回避してる。
治療/体調を記録する日記をつけている。
サウナに行く。
定期受診
ストレッチをしている。
もともとタバコお酒は飲まない。
1か月に1回かかりつけ医に受診している。
塩分
更年期でもありますので、メンタル安定の為極度のストレスを感じる事は避けるようにしている。
サプリメントを飲んでいる(野菜、骨)。
趣味に没頭。
定期的にかかりつけの先生が検査しているので安心している。
圧迫骨折をしてから同じ動作ができない。腰痛になる。それでもなるべく体を動かしている。
寿大学で詩吟、民謡で大きな声を出している。
ウォーキング
お酒をやめた。
毎週訪問看護師さんに来宅してもらっている。
散歩
週1回声出しをしている。
特に行っていることはありませんが、毎日の野良仕事で体を動かしている。
今現在施設入居中。
朝早めに起き散歩する。1時間ほど。

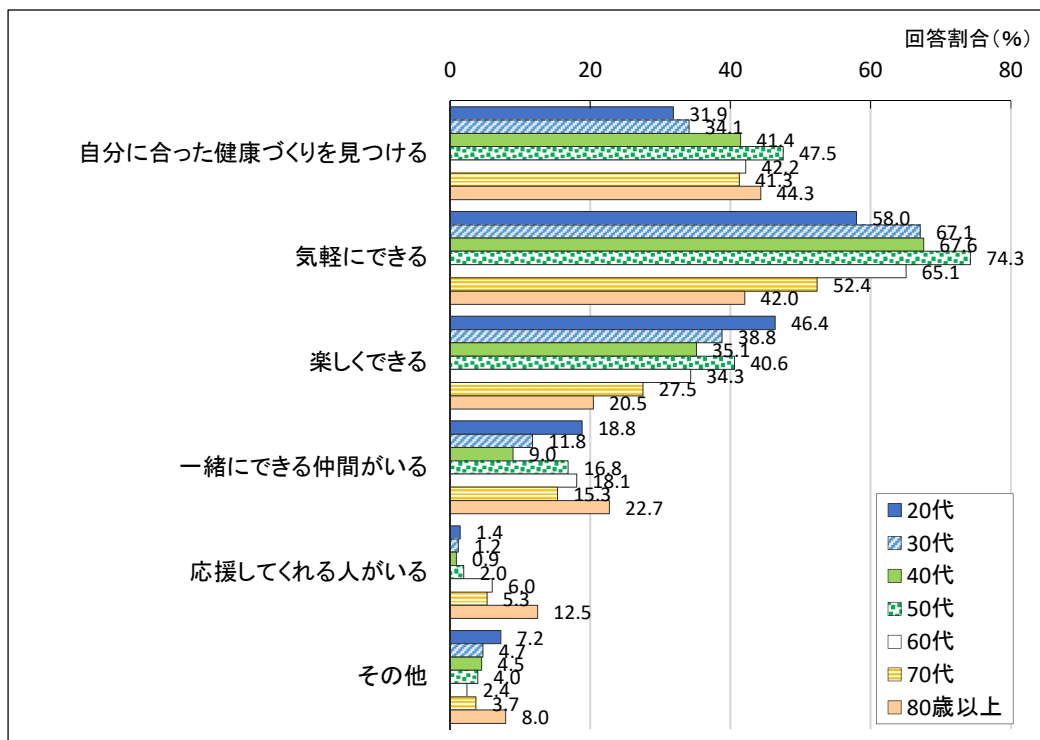
(9) どのような条件があれば、健康づくりを実践してみようと思いますか。
(複数回答可)

「気軽にできる」の割合が60.5%で突出して高く、次いで「自分に合った健康づくりを見つける」(40.9%)が続き、以下は「楽しくできる」(33.5%)、「一緒にできる仲間がいる」(16.0%)などの順となった。

前回調査と比べても、順位に変化は見られなかった。



年代別にみると、20代から70代までの各年代では「気軽にできる」の割合がもっとも高く、特に30～60代では6割を超え高い割合となっている。80歳以上では「自分に合った健康づくりを見つける」の割合がもっとも高かった。



◆ その他を選択した方の回答

お金がかからない。
1人でできる、家でできる。
根拠があるか/矛盾がないか/再現性はあるか。
わからない。
仕事の休みが増えれば。
父子家庭なので子供と一緒にできる、または子供がいない時間をつくる。
多分しない。
時間に余裕ができれば。
金と暇があれば。
死を感じたとき。
子供がいても(時間がなくても)できる。
これを行ったらこのような効果がありますよとか、具体的にわかれば。
東能代地区に安全にウォーキングする(できる)場所が欲しい。
トレーニング指導をしてくれる場所がない。パーソナルジムに行きたい。→遠くムリ
スポーツジムのような施設。
短い時間でストレッチなどしている。
特に思わない。
時間があれば。
時間が欲しい。
ジムに行っているが、年金生活者には金額が高い。少しでも補助金があると通いやすく運動する人は増えると思う。
健康づくりはしている。
家の周りの草取り、花を植えたり、水をかけたり、家の中の掃除、ごはんの準備、買い物など、結構動いている。
ゴルフプレイヤー
思わない。
同好会等に入会している。
近くに運動できる場所が欲しい。
ヒザ痛のため無理な健康づくりはできません。
送迎があると助かる、実施できる。
今現在施設入居中。
現在ラージ卓球と太極拳やっているが、仲間とだから楽しくできている。

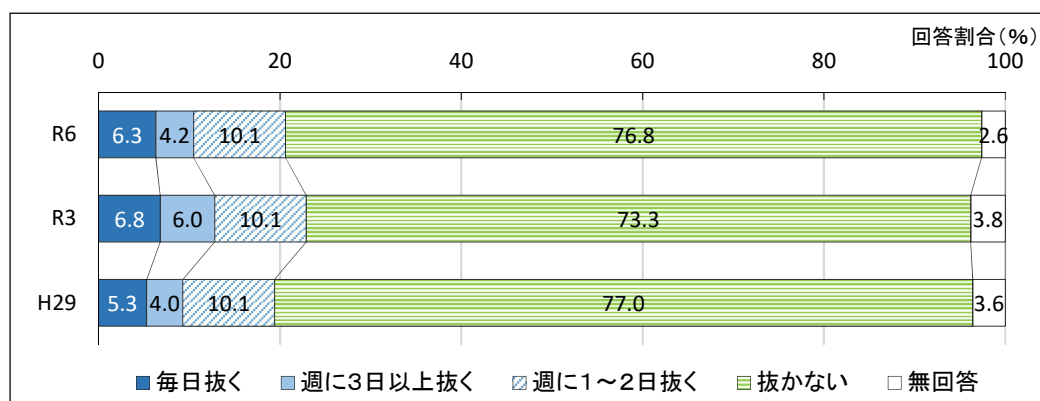
② 食生活について

(10) 朝食、昼食、夕食を抜くことがありますか。

【朝食】を抜くことがありますか。

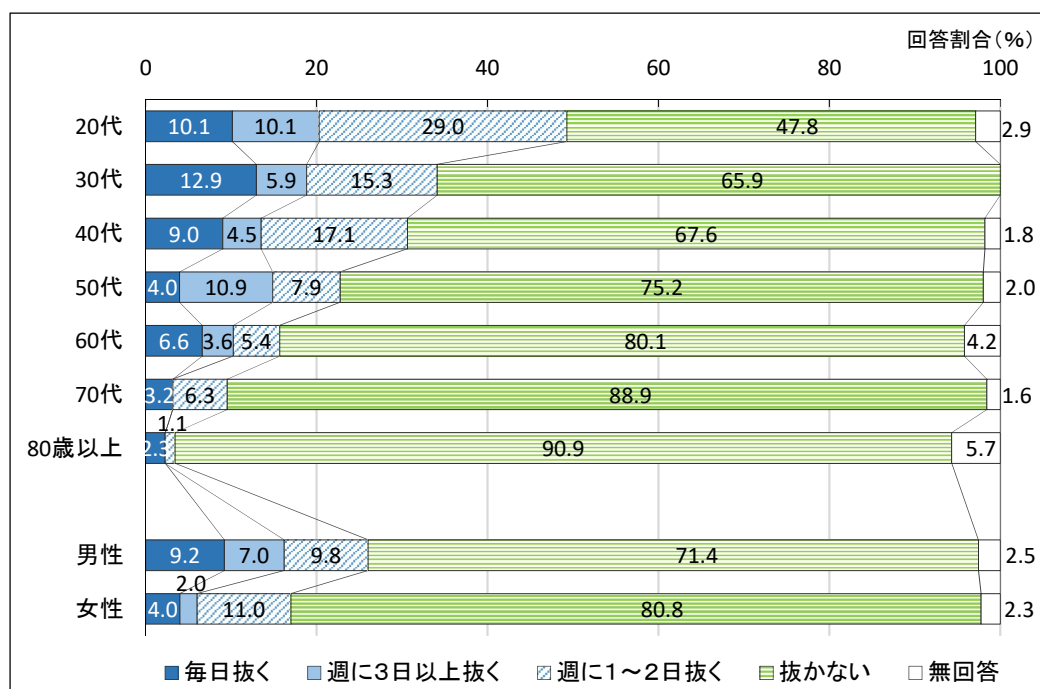
「抜かない」の割合が76.8%でもっとも高く、『抜くことがある』(「毎日抜く」、「週に3日以上抜く」、「週に1~2日抜く」の合計)の割合は20.6%となっている。

前回調査と比べると、『抜くことがある』の割合は2.3ポイント低下した。



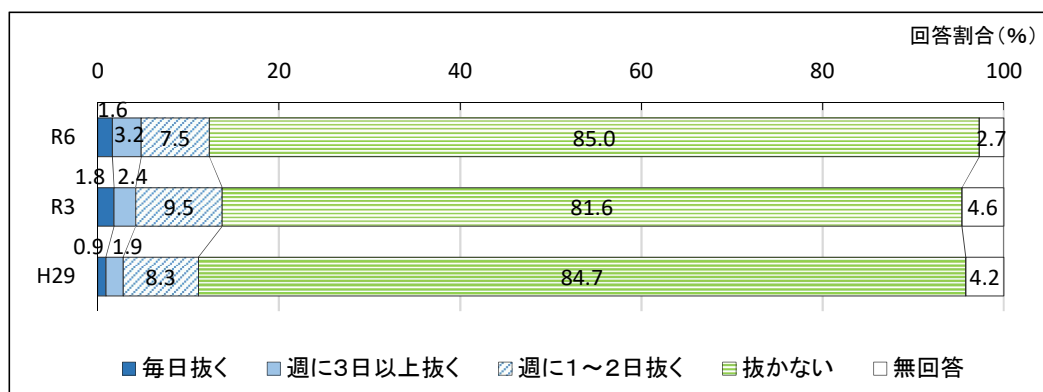
年代別にみると、『抜くことがある』の割合は、20代で5割近く、30代で3割台と高くなっているが、この割合は年代が上がるにつれて低下する傾向が見られる。

性別にみると、『抜くことがある』の割合は男性で2割台、女性で1割台と、男性の方が高くなった。

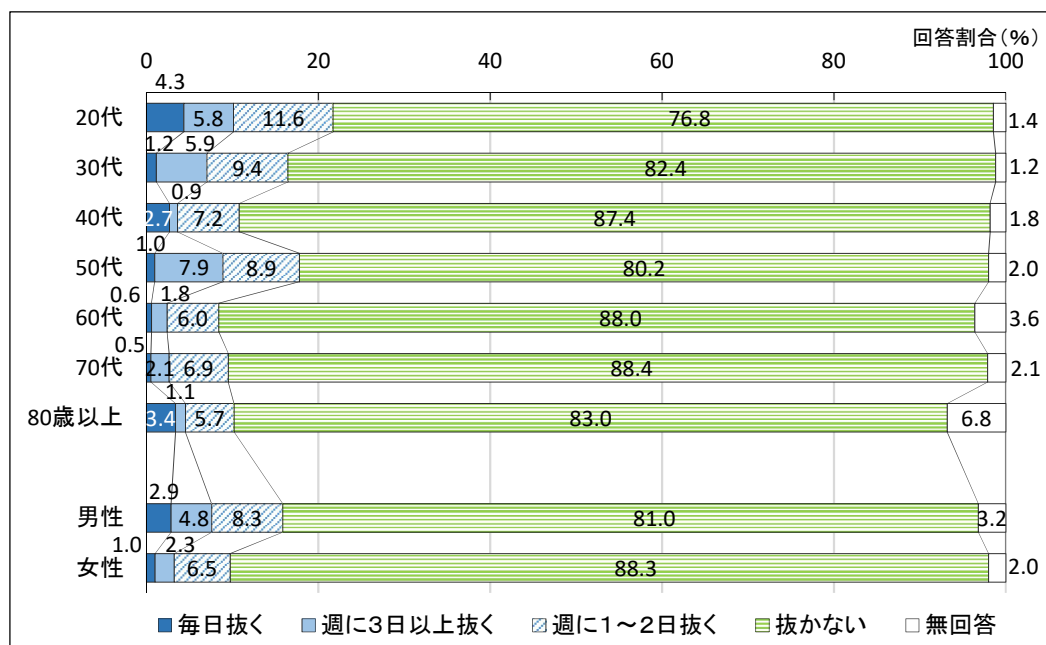


【昼食】を抜くことがありますか。

「抜かない」の割合が85.0%と非常に高く、『抜くことがある』の割合は12.3%となっている。前回調査と比べると、『抜くことがある』の割合は1.4ポイント低下した。



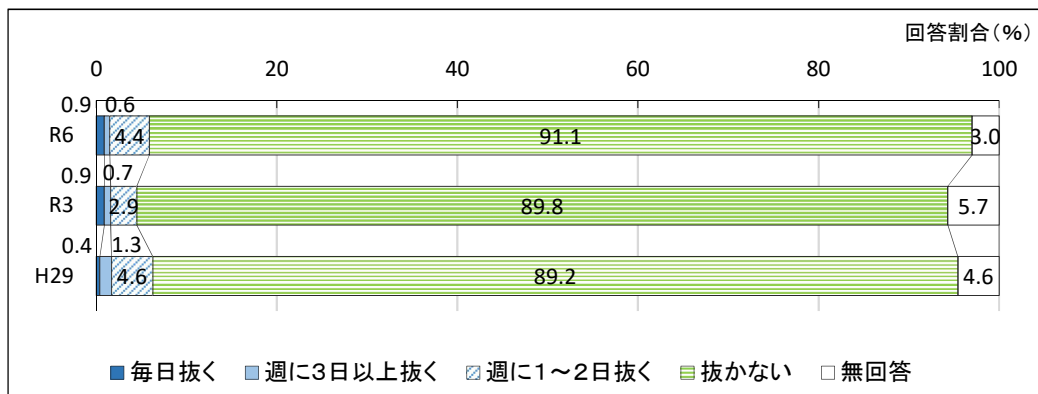
年代別にみると、『抜くことがある』の割合は、20~30代と50代に多くみられた。性別にみると、『抜くことがある』の割合は男性が1割台、女性が1割未満となった。



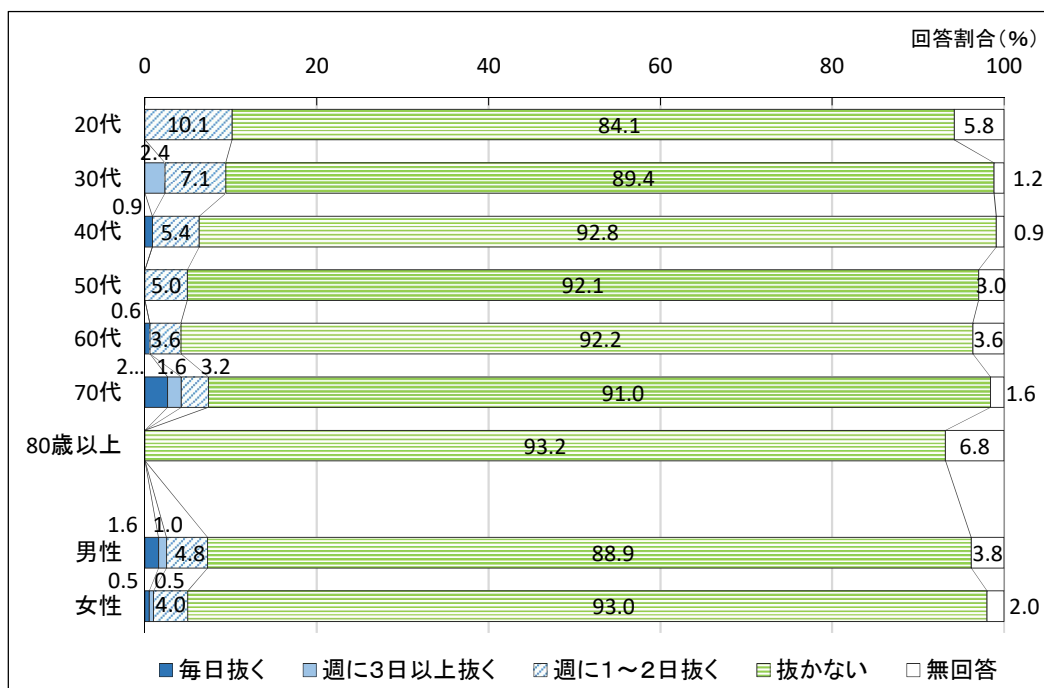
【夕食】を抜くことがありますか。

「抜かない」の割合が91.1%と非常に高く、『抜くことがある』の割合は5.9%と1割未満となっている。また、「抜かない」の割合は、3食の中でもっとも高く、ほとんどの人が夕食を食べる習慣となっていることが伺える。

前回調査と比べると、『抜くことがある』の割合は1.4ポイント上昇した。



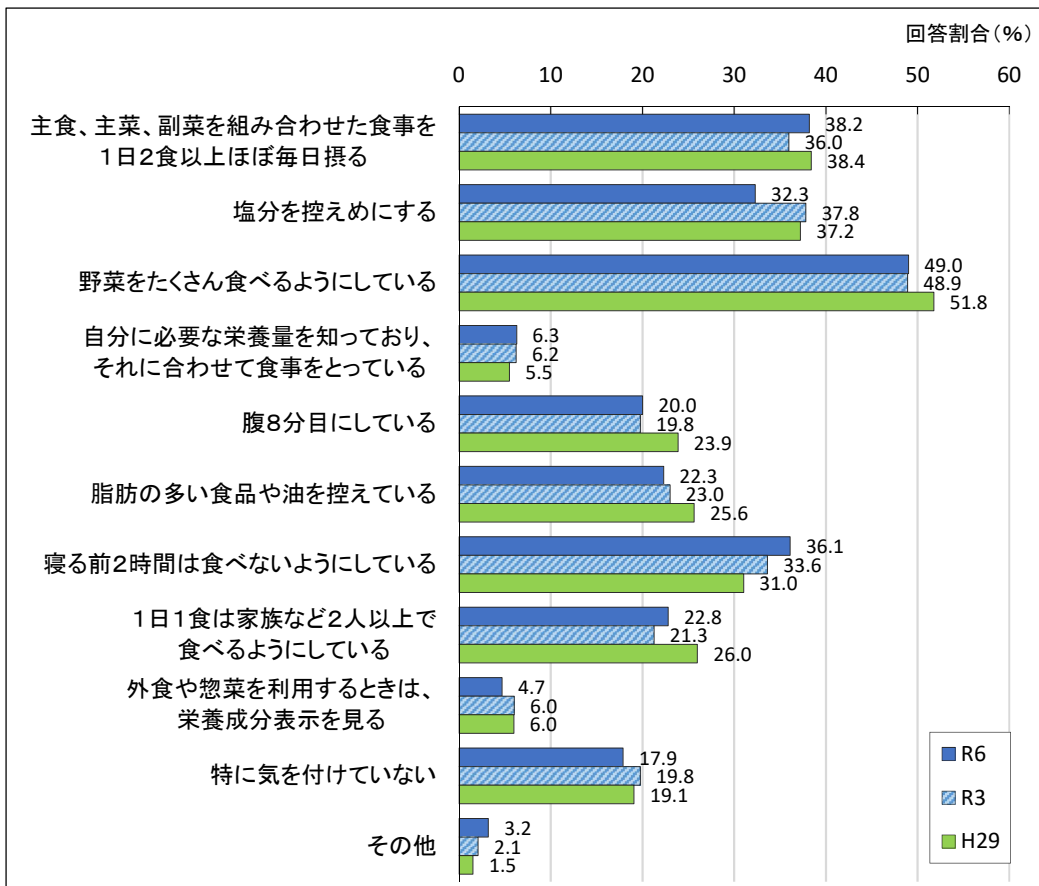
年代別にみると、『抜くことがある』の割合は、20~30代で多くみられた。性別にみると、『抜くことがある』の割合は男女ともに1割未満となった。



(11) 普段の食生活で気を付けていることはありますか。(複数回答可)

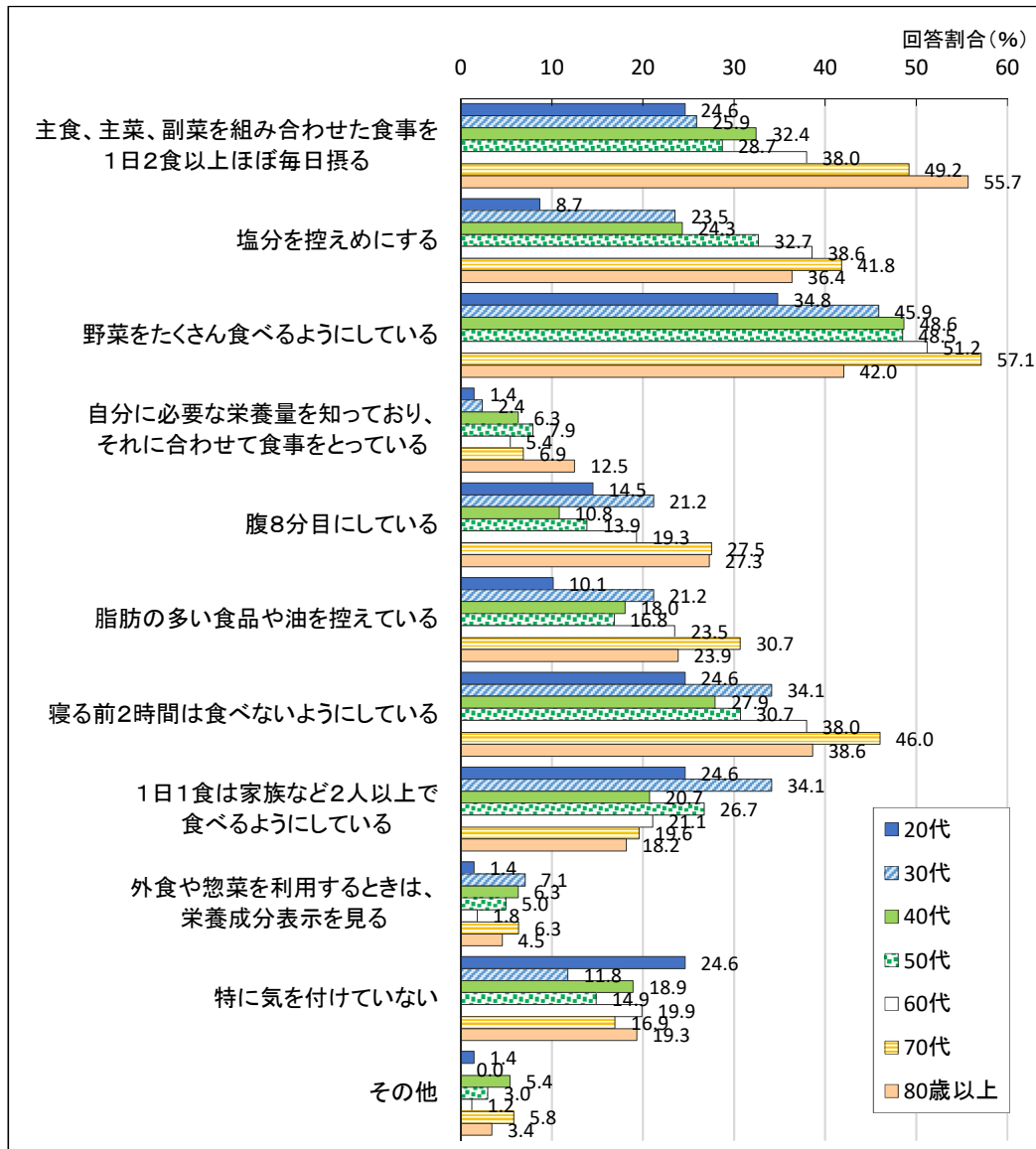
「野菜をたくさん食べるようにしている」の割合が49.0%でもっとも高く、これに「主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日2食以上ほぼ毎日摂る」(38.2%)、「寝る前2時間は食べないようにしている」(36.1%)が続いた。「自分に必要な栄養量を知っており、それに合わせて食事をとっている」と「外食や惣菜を利用するときは、栄養成分表示を見る」の割合が低い要因として、両項目ともに栄養に関する具体的な知識が必要であることが考えられる。

また、「特に気を付けていない」の割合が減っており、食生活に対する意識の向上が伺える。前回調査と比べると、第2位以降の項目で順位の変動が見られた。



年代別にみると、80歳以上では「主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日2食以上ほぼ毎日摂る」の割合がもっとも高く、その他の年代ではいずれも「野菜をたくさん食べるようにしている」の割合がもっとも高くなった。

「塩分を控えめにする」の割合は、60代以上の各年代では4割近くと高くなった一方、20代から40代では1割未満から2割台と低くなった。



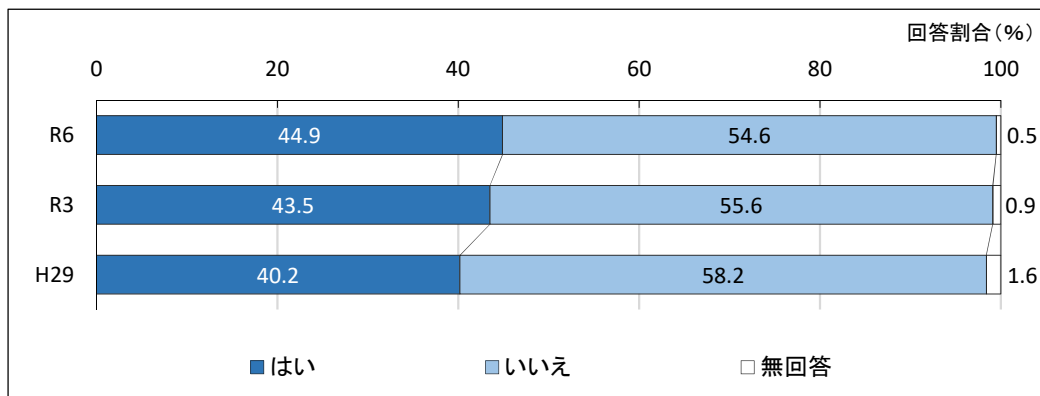
◆ その他を選択した方の回答

アレルギーを摂取しない、夜間低血糖を避けるため午後は糖質を控える。
くすりを忘れない。
カロリー計算する。
会話を楽しみながらおいしく食べる(時々かたよっていてもOK)。
外食は副菜を中心に20品目以上の食材を食べる。
気にしすぎるとストレスたまるので、食べたいものを食べただけ食べる。
サプリで補充している。
おいしく食べる。
水分をこまめにとることを心がけている。
あまり真面目に考えすぎないようにしている。
タンパク質をたくさん摂るようにしている。
外食はしない。
塩分はなるべく多めにとる。
物が高いので食べたいものも食べれない。
なるべく野菜を食べる。
パート仕事後、某スーパーで半額印(赤印)を買う!
自分の好きな物を食べる傾向にある。
妻にまかせている。
甘いものを控える、たんぱく質を摂り過ぎない、ストレスを持ち込まない。
タンパク質と大豆製品の摂取を意識している。
寝る前4時間は食べない。
75歳すぎると食事の作るのが、いやになってきた。
1人身のため気軽に。
年と共に食べる量も少なくなったので野菜は特に少ないので種類の多い野菜ジュースをとるようにしている。
週1回禁酒。

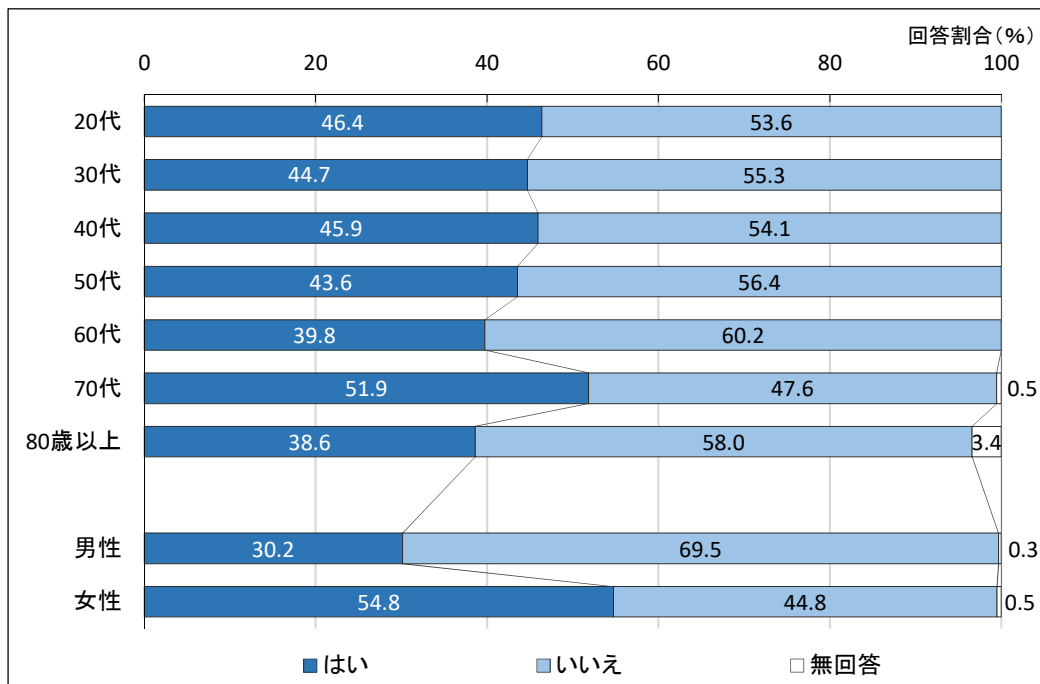
(12) 国は成人の1日の野菜摂取量を350g(*)とすることを目標としていますが、そのことを知っていますか。

(*)野菜100gの目安は、キャベツ千切り両手一杯、とまと小1個、きゅうり1本、レタス小1/2個、ピーマン小5個、もやし1/2袋、にんじん小1本など

「いいえ」の割合が54.6%となり、「はい」(44.9%)を上回った。
過去調査と比べると、「はい」の割合は上昇傾向で推移しており、依然として「いいえ」が過半数を占める状況ながら、国の野菜摂取量の目標値についての認知度は着実に高まっていると推察される。

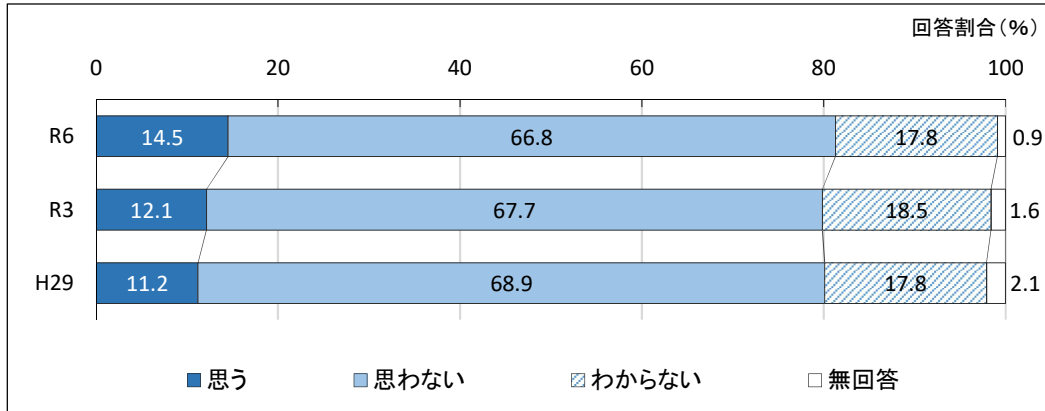


年代別にみると、70代では「はい」が5割以上を占め「いいえ」を上回ったが、その他の各年代では、「いいえ」が5割から6割台を占め「はい」を上回った。
性別にみると、「はい」の割合は女性の方が男性より高く、野菜摂取量についての認知度が高いことが伺える。



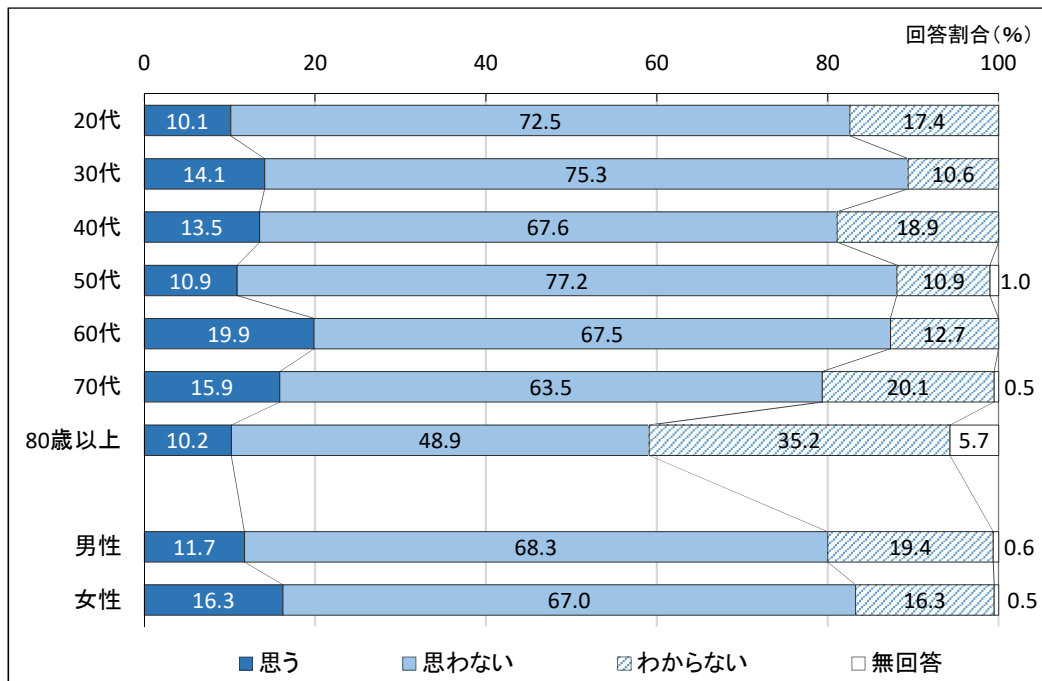
(13) 野菜を1日350g食べていると思いますか。

「思わない」の割合が66.8%と高く、「思う」(14.5%)を大きく上回った。国の野菜摂取量の目標値についての認知度は4割台ながら、実践していると思われる人は1割台と少なくなっている。前回調査と比べると、「思う」の割合は2.4ポイントと小幅ながら上昇した。



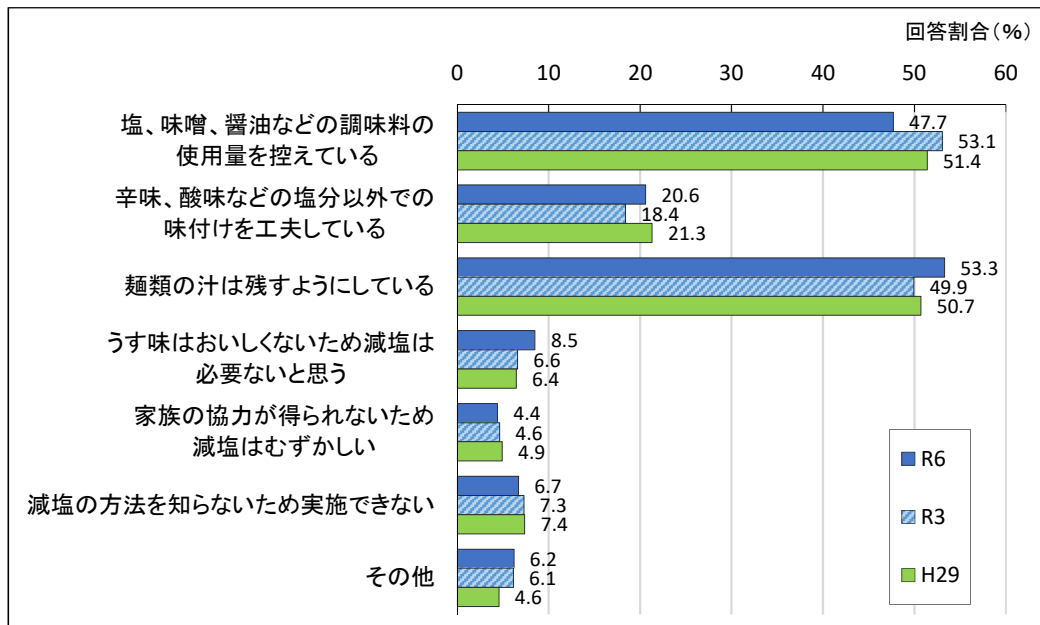
年代別にみると、「思う」の割合はすべての年代で1割台と低く、総じて「思わない」が「思う」の割合を上回った。「わからない」の割合は、20代から70代までの各年代で1割から2割台となっているが、80歳以上では3割台と高くなった。

性別にみると、男女ともに「思う」の割合は1割台と低い割合となった。

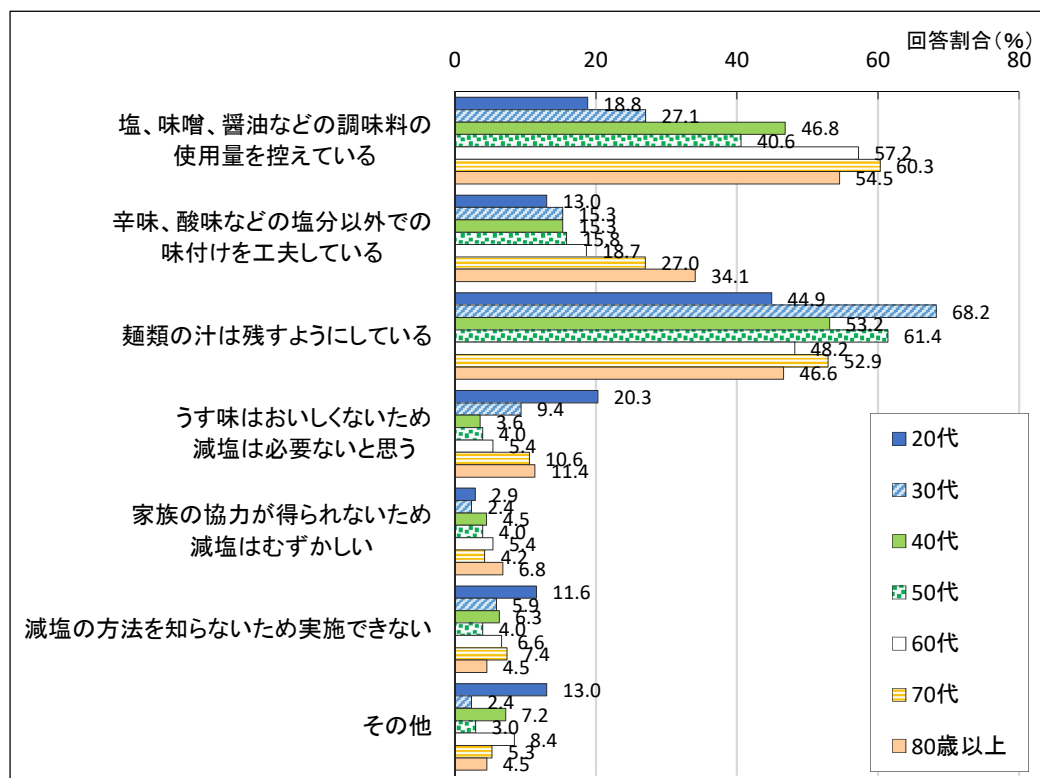


(14) 減塩について、当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

「麺類の汁は残すようにしている」の割合が53.3%でもっとも高く、次いで「塩、味噌、醤油などの調味料の使用量を控えている」(47.7%)が続く、この2項目が5割前後と突出して高い割合となった。
 前回調査と比べると、いずれも小幅な変化ながら、「麺類の汁は残すようにしている」の割合が上昇した一方、「塩、味噌、醤油などの調味料の使用量を控えている」の割合は低下した。



年代別にみると、20代から50代までの各年代では「麺類の汁は残すようにしている」の割合がもっとも高くなった一方、60代以降の各年代では「塩、味噌、醤油などの調味料の使用量を控えている」の割合がもっとも高くなった。また、20代では、減塩の方法を知らないため実施できない人が1割程度となった。



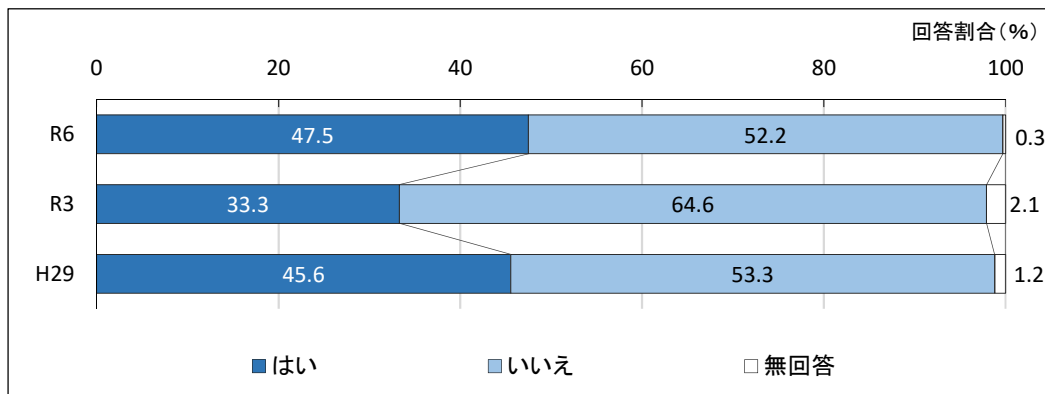
◆ その他を選択した方の回答

特に気にしていない。
減塩はしていない。
意識していない。
何も考えていない。
特に意識していない。
醤油などをつけないでそのまま野菜を食べる。
必要性は理解しているが実施に至らない。
減塩醤油を使用している。
起立性調節障害などになりやすい若年層には無理に減塩を推奨しない。
減塩していないがそもそも少ない。
興味ない。
分かっているが実施していない。
気にしていない。
減塩表示の調味料を利用する。
塩分計を使用している。
だし使う。
何もしていない。
減塩は必要だと思うが、特に何もしていない。
体に良いのは知っているが、好みの味付けにしてしまう。
減塩は必要だと思わない。
考えたことがない。
該当なし。
特に何もしていない。
特に気をつかっていない。
減塩したいと思うがそうでないかな。
減塩は必要だが味の濃い物が好き。
やむを得ず塩辛い食事になってしまった時は、水や白湯などをたっぷり摂って塩分を薄めるようにしている。
あまり気にせず作る。
もともと塩辛いものは好きじゃない。
減塩する必要はないと思っている。
なるべく塩分をひかえている。
最後のカップめんの汁がうまいから、最後まで飲む。
4に回答しましたが、必要ないとは思わない。ある程度濃い口は旨いと思う。
減塩にあまりこだわらない。
妻の協力は最大である。減塩、米パン自家製、米粉を大潟村から取り寄せ！
減塩調味料を使用。
ほとんどどうす味にしている。
もういつ死んでもいいので減塩はしないが醤油はあまりかけない。
既製品
特に気をつけていない。

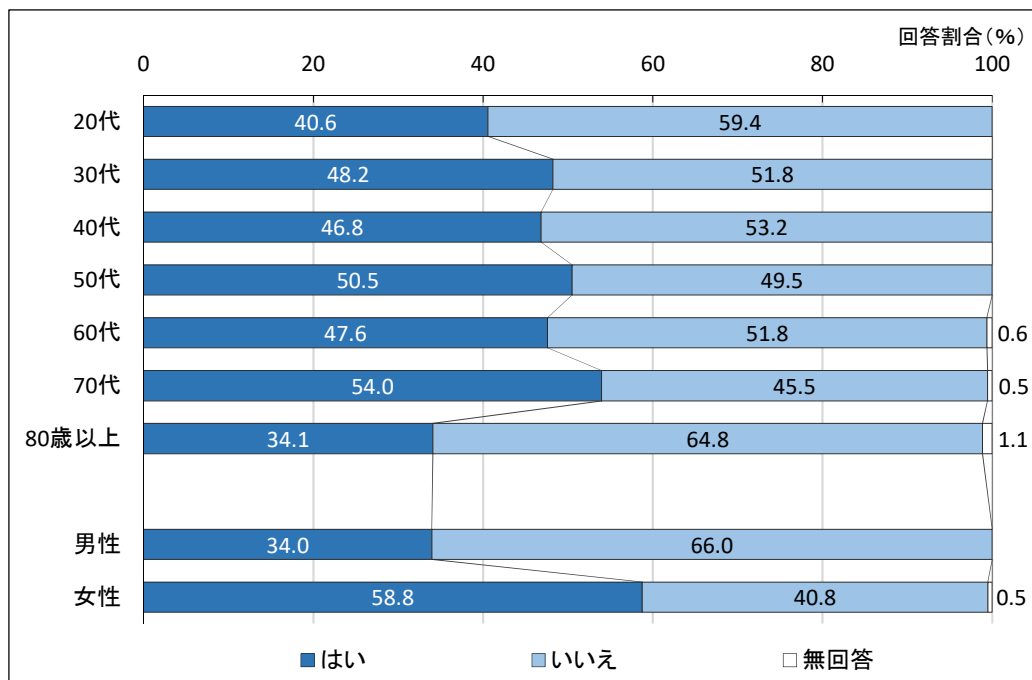
(15) 国は成人の1日の塩分摂取量を7g未満(*)とすることを目標としていますが、そのことを知っていますか。

(*)塩分目安量は、みそ汁1杯(1.6g)、たくあん2切れ20g(0.9g)、食パン1枚(0.8g)、醤油大さじ1杯15ml(2.7g)、かけそば1杯(4g)、梅干し1個10g(1.8g)

「いいえ」の割合が52.2%を占め「はい」(47.5%)を上回った。
 前回調査と比べると、「はい」の割合は14.2ポイント上昇しており、国の塩分摂取量の目標値についての認知度は着実に高まっていると推察される。

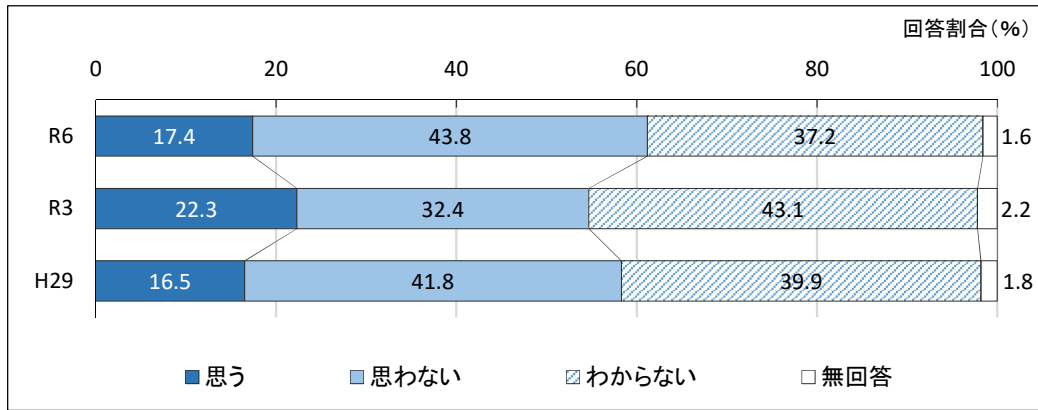


年代別にみると、「はい」の割合は20代から70代で4割から5割台となり、50代と70代では「いいえ」の割合を上回った。80歳代以上では、「はい」の割合が3割台と低かった。
 性別にみると、「はい」の割合は女性で5割台、男性で3割台と、女性の方が大幅に高めの割合となり、「いいえ」の割合を上回った。

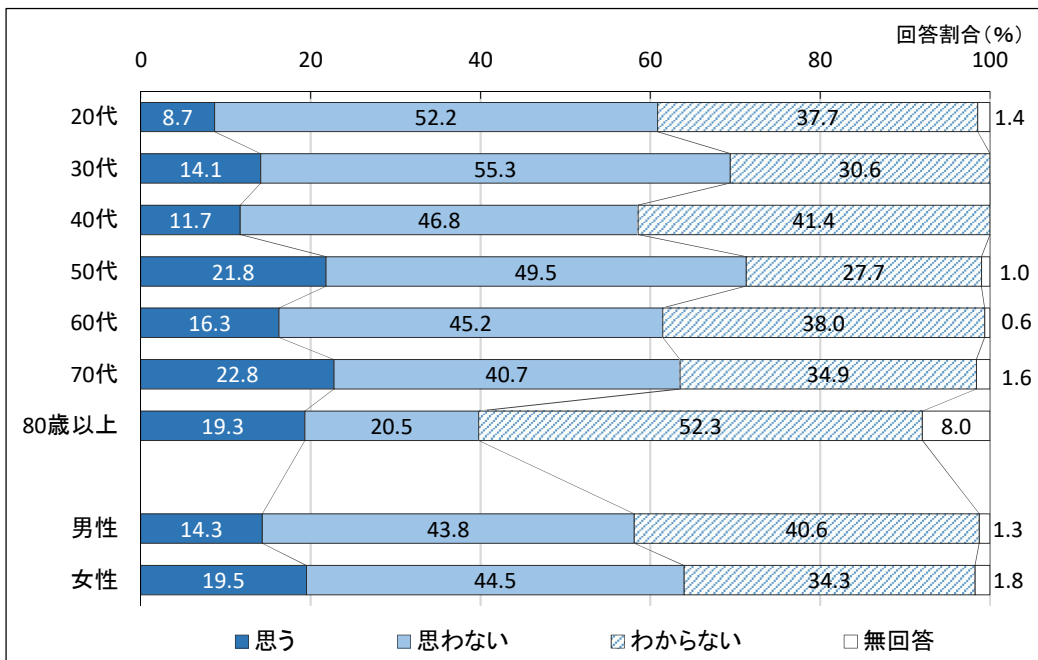


(16) 塩分摂取量を1日7g未満にしていると思いますか。

「思わない」の割合が43.8%でもっとも高く、「わからない」は37.2%、「思う」は17.4%となった。前回調査と比べると、「思わない」の割合が11.4ポイント上昇し、「思う」の割合は4.9ポイント低下した。



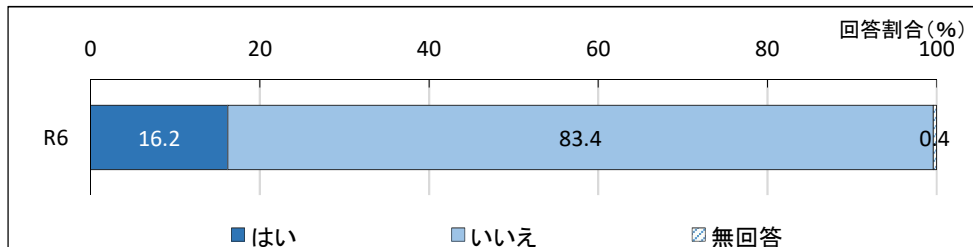
年代別にみると、「思う」の割合はすべての年代で1割未満から2割台となり、20代から70代では「思わない」の割合がもっとも高く、80歳以上では「わからない」の割合がもっとも高くなった。性別にみると、男女ともに「思う」の割合は1割台にとどまり、「思わない」の割合が4割台でもっとも高くなった。7gという量についての摂取の制限や量のイメージをしづらいものと考えられる。



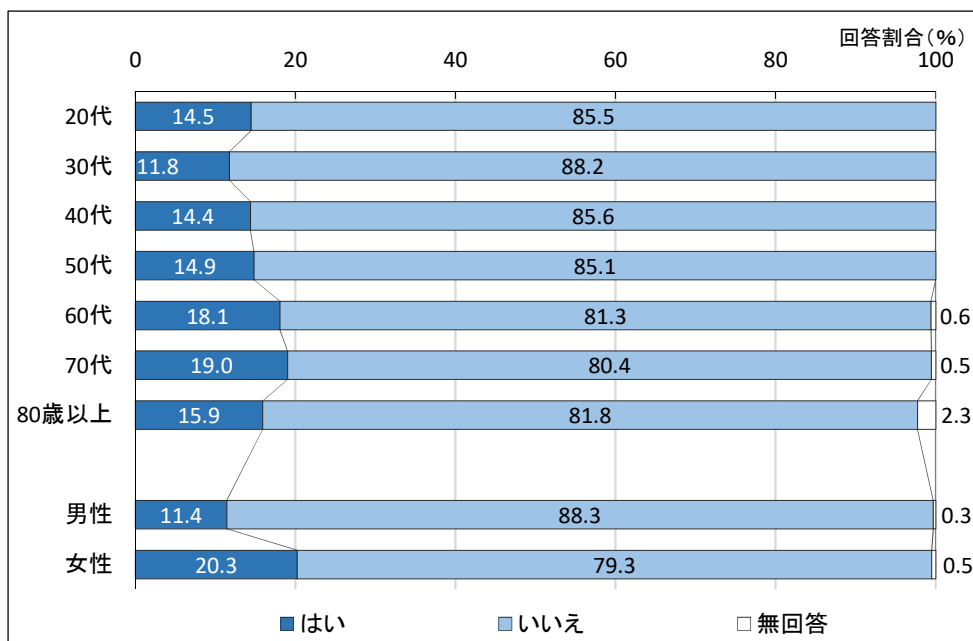
(17) 国は成人の1日の果物摂取量を200g程度(*)とすることを目標としています
が、そのことを知っていますか。

(*)果物200gの目安は、みかん2個、りんご1個、ぶどう1房、バナナ2本など。

「いいえ」の割合が83.4%でもっとも高く、「はい」は16.2%となった。これは、令和5年度に国の計画の目標指標として新たに設定された項目のため、認知度が低いものと推察される。

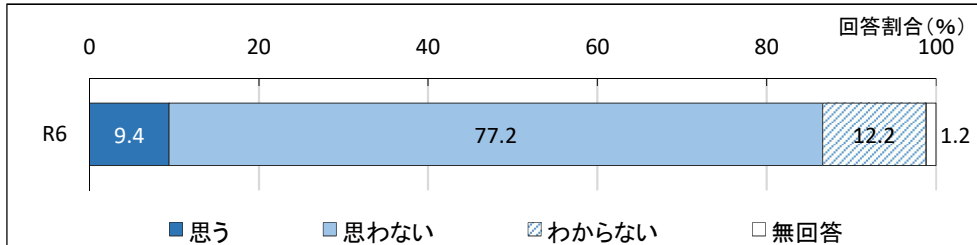


年代別に見ると、「いいえ」の割合がすべての年代で8割台となり、認知度が低いことが伺える。
性別に見ると、男女ともに「いいえ」の割合が8割近くとなり、認知度が低いことが伺える。



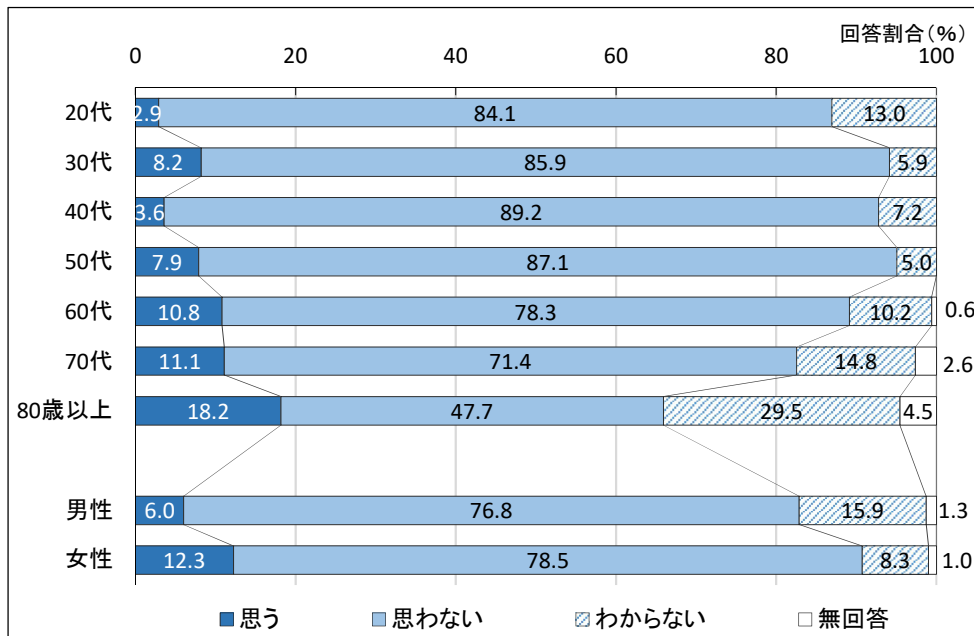
(18) 果物を1日200g程度食べていると思いますか。

「思わない」の割合が77.2%でもっとも高く、「わからない」は12.2%、「思う」は9.4%となった。野菜の摂取量に比べて、「思わない」の割合が高いため、果物の摂取量が足りていない方が多いものと推察される。



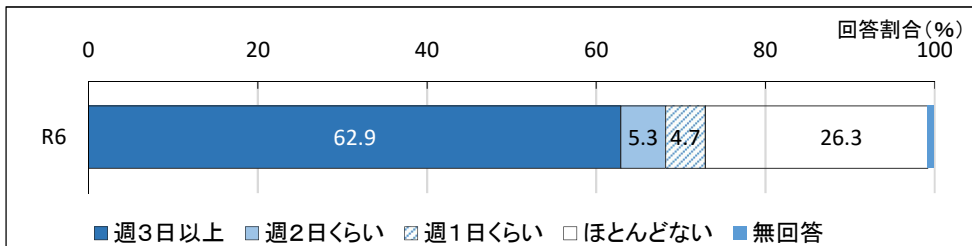
年代別に見ると、20代から70代で「思わない」の割合は7割から8割台となり、認知度が低いことが伺える。

性別に見ると、男女ともに「思わない」の割合が7割台となった。



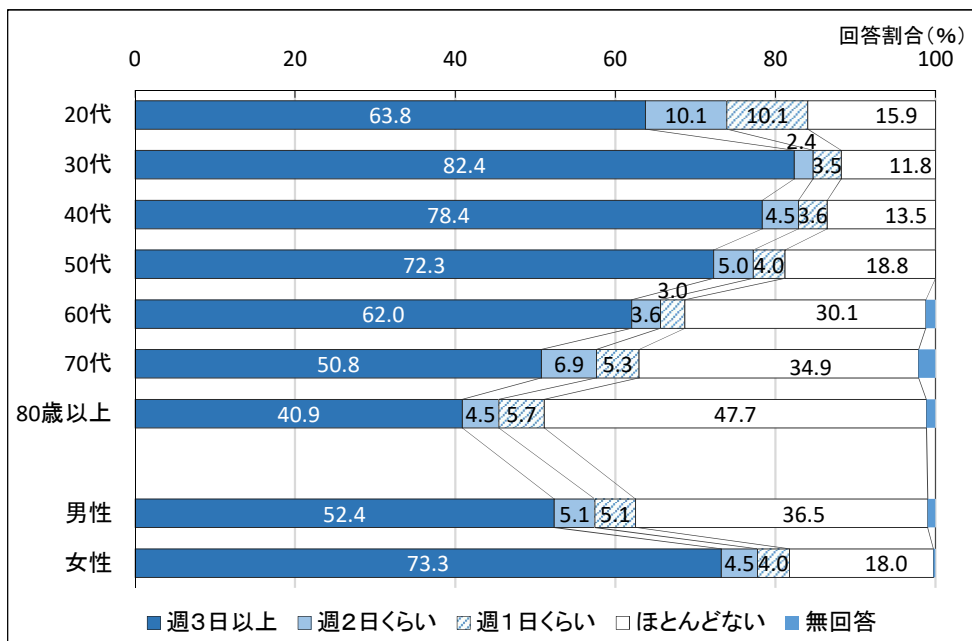
(19) 家族や誰かと一緒に食事をする機会は週に何日くらいありますか。

「週3日以上」の割合が62.9%でもっとも高く、「ほとんどない」は26.3%、その他の割合は1割未満となった。『週に1日以上』（「週3日以上」、「週2日くらい」、「週1日くらい」の合計）の割合は72.9%となり、共食する機会がある方が多いことが伺える。



年代別に見ると、20代から60代までは「週3回以上」の割合が6割から8割台となり、70代以上は4割から5割台となった。30代以上は、年齢が進むに連れて共食する機会が減少傾向にあることが伺える。

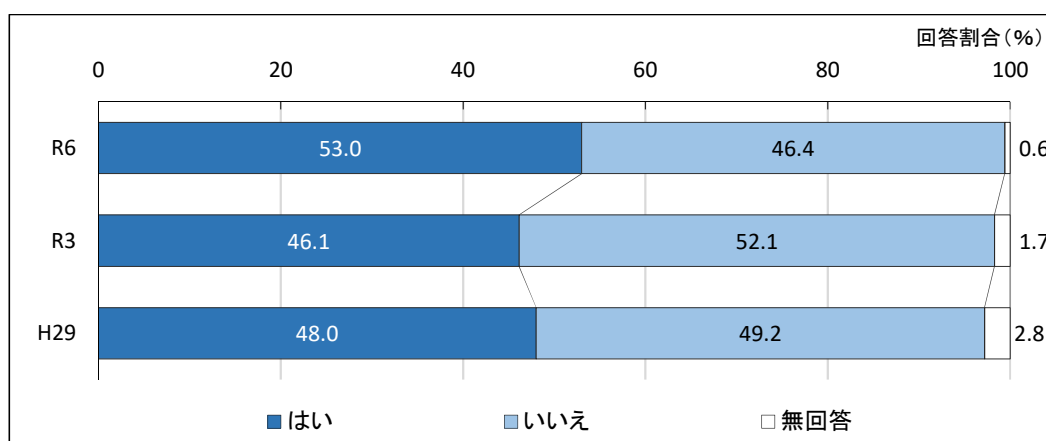
性別に見ると、「週3日以上」の割合が女性が7割台、男性が5割台となり、女性の方が共食する機会が多いことが伺える。



③ 運動習慣について

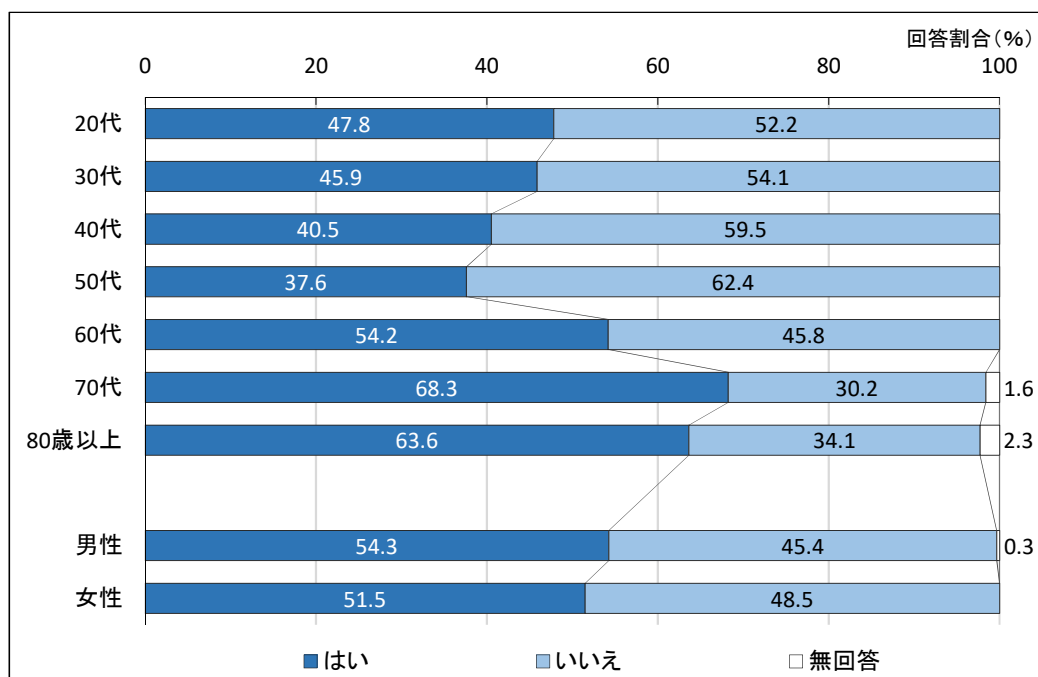
(20) 普段、週に2回以上運動をする習慣はありますか。(運動とは、おおむね30分以上続けて体を動かすことで、散歩や通勤、農作業なども含む。)

「はい」の割合が53.0%となり、「いいえ」(46.4%)を上回った。
 前回調査と比べると、「はい」の割合は6.9ポイント上昇しており、新型コロナウイルス感染拡大防止のための外出自粛がなくなったことが影響していると考えられる。



年代別にみると、60代以降の各年代では「はい」の割合が「いいえ」の割合を上回った一方、20代から50代までの各年代では「いいえ」の割合が「はい」の割合を上回っており、高齢層で運動が習慣化していることが伺える。

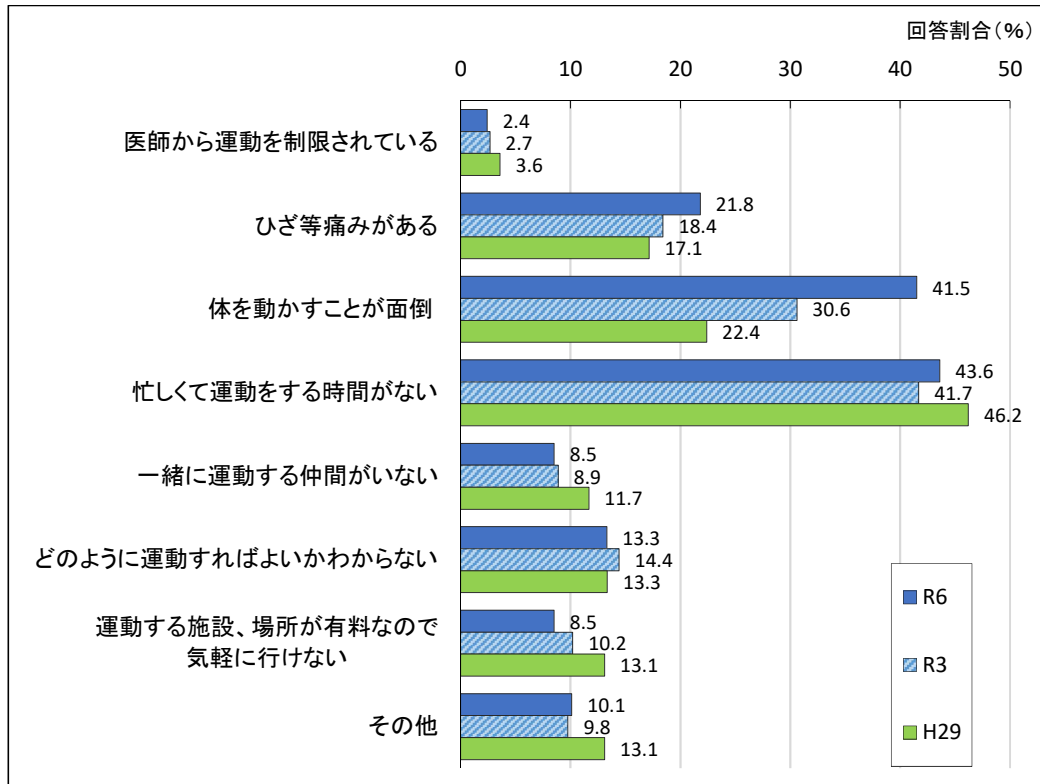
性別にみると、「はい」の割合は男女ともに5割台で男性の方が若干高くなった。



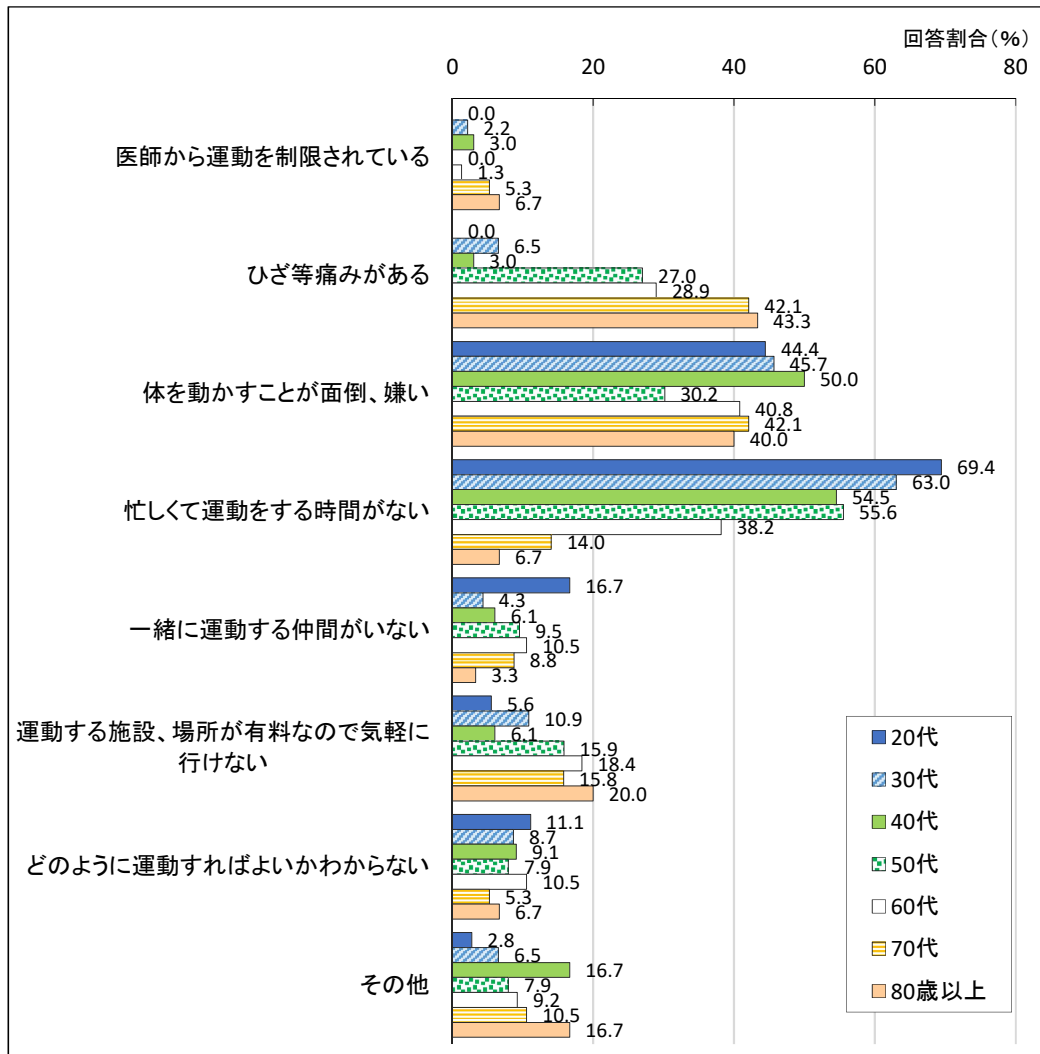
(21) (20)で「2. いいえ」とお答えになった方にお聞きします。運動ができない理由は何ですか。(複数回答可)

「忙しくて運動をする時間がない」の割合が43.6%でもっとも高く、次いで「体を動かすことが面倒」が41.5%で続き、以下は「ひざ等痛みがある」(21.8%)、「どのように運動すればよいかわからない」(13.3%)等の順となった。

前回調査と比べると、上位3項目の順位に違いはないものの、「体を動かすことが面倒」の上昇割合が10.9ポイントと大きかった。



年代別にみると、20代から50代までの各年代では、「忙しくて運動をする時間がない」の割合が5割から6割台でもっとも高く、70代と80歳以降では「ひざ等痛みがある」の割合がもっとも高くなった。

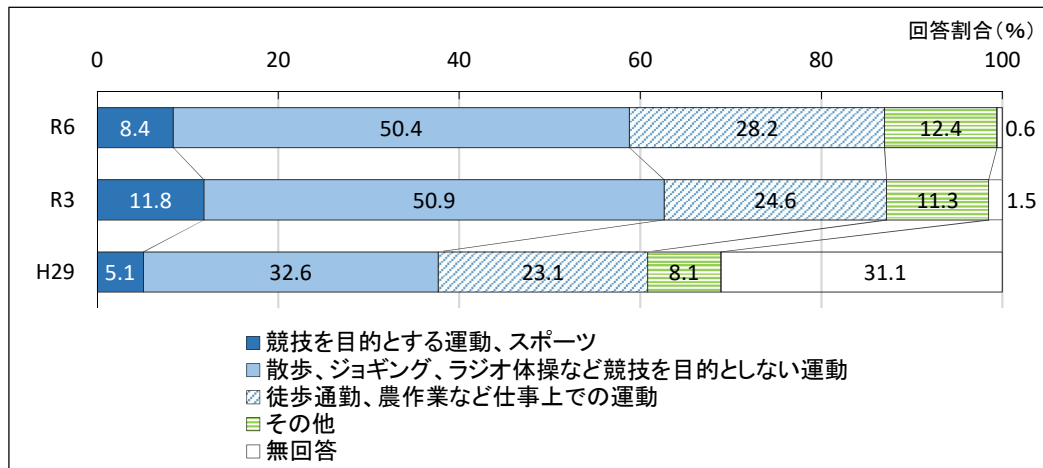


◆ その他を選択した方の回答

人目が気になる。見られたくない。
月に2回ヨガ。
妊娠中。まだ不安定なので控えている。
何をするにもお金がかかる。運動より体と心を休めたい。
事務職のため。
あまり動けない。
疲れている。
仕事がつい為、休みの日は動きたくない。
仕事上トータル30分以上体は動かしているが。
月に1, 2回プールに行ったりする。
体を動かすのが面倒くさい。
自転車で買い物に行くが、またちょこちょこ体をうごかすが30分以上続けて…に当てはまらない。
歩きたいが天気側いことが多い。
近場に運動施設がない。
30分以上ではないが、ストレッチや家の中をあるきまわったりしている。
朝晩10分ずつのストレッチ、続けて30分はできていない。
病気(がん)
習慣がない、30分未満なら該当ある。
風の松原に熊が出るので散歩に行かれなくなった。
持病
仕事で1万歩くらい歩いています。
今、引っ越しに向けて準備している最中なので、その作業で十分とは言えないが運動に匹敵する疲労感がある。
持病があり、思うように体が動かせない。
腰痛がある。体へろへろで帰ってからなんて無理です。仕事が運動です。
初から夏場は山菜採り、冬は除雪作業している。
ヘルニア
同じ動作で10分もすれば腰が痛くなる。その繰り返し。
適当な答えがない。
高齢者なので。
屋内運動できる場が近くに欲しい。近くになくて行けない。
30分以内の運動はしている。
家の中に階段が2か所あるのでそれで十分だと思っている。
腸が悪いため。

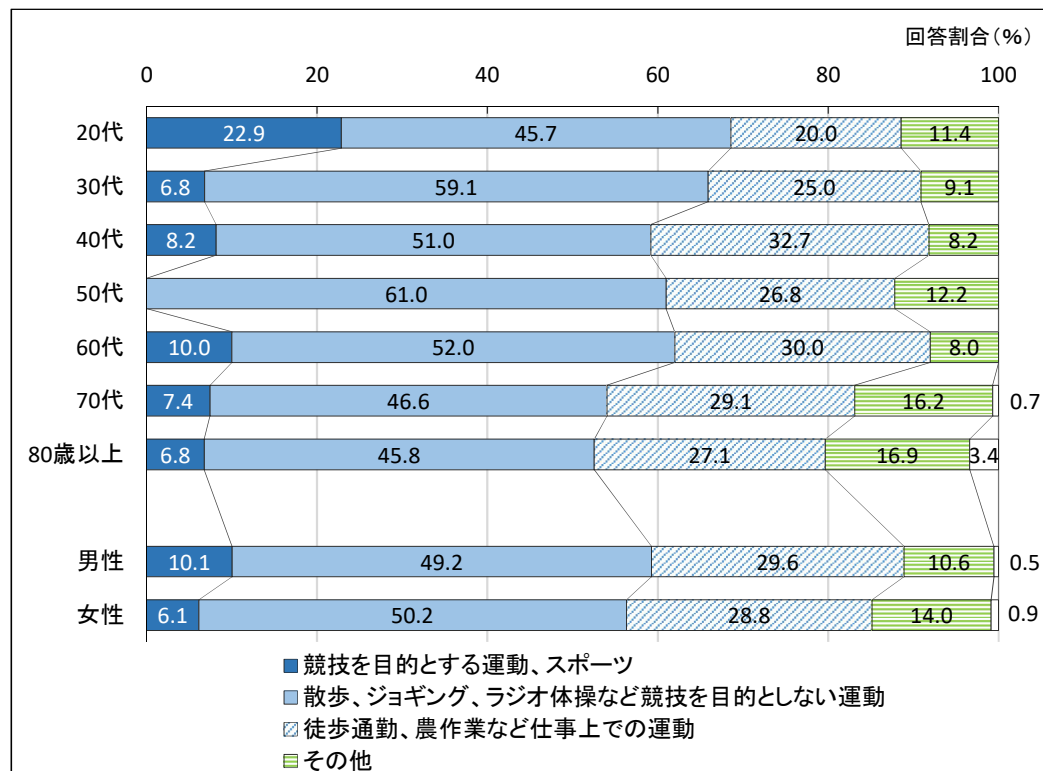
(22) 普段、行っている運動は、どんな内容ですか。

「散歩、ジョギング、ラジオ体操など競技を目的としない運動」の割合が50.4%でもっとも高く、「徒歩通勤、農作業など仕事上での運動」は28.2%、「競技を目的とする運動、スポーツ」は8.4%となった。前回調査と比べると、「徒歩通勤、農作業など仕事上での運動」と「その他」の割合が上昇したが、「散歩、ジョギング、ラジオ体操など競技を目的としない運動」と「競技を目的とする運動、スポーツ」の割合が低下している。



年代別にみると、総じて「散歩、ジョギング、ラジオ体操など競技を目的としない運動」の割合がもっとも高くなった。また、各年代で、「徒歩通勤、農作業など仕事上での運動」の割合が2割から3割台となり、特に40代の割合が高くなった。

性別にみると、男女ともに「散歩、ジョギング、ラジオ体操など競技を目的としない運動」の割合がほぼ5割ともっとも高くなった。また、「競技を目的とする運動、スポーツ」の割合は男性が1割台、女性が1割未満と、男性の方が高くなっている。



◆ その他を選択した方の回答

自重トレーニング
ストレッチ、筋トレ
トレーニングジムで機械を使った運動。
自転車
筋トレ
ストレッチ
仕事
腹筋、背筋、腕立て伏せ、スクワット
子供のスポ少の指導。
YouTubeに流れているエクササイズ等。
ペット犬と一緒に30分～1時間1日に。
仕事で自転車に乗ってる。週2～3日、2～3時間。
仕事で歩いて移動することが多い。
太極拳
ヨガ
ラージ卓球、ゴルフ練習
水中ウォーキング
家庭菜園
卓球、テニス
買い物等
土木工事の仕事なので体は動かしている。
自転車の有酸素運動週3～4、1回40分。
スクワット、腕立て、足ストレッチ
速歩と筋トレ。
趣味で菊の栽培をしています。毎日が農作業です。
庭の手入れ、草とり
登山
新聞配達1時間(徒歩とバイク)、犬との散歩(夕刻30分)、家庭大工
フォークダンス
仕事(3H,掃除)
水泳
仕事上体を動かす。
全身を動かす運動。
体育館でイスを使っの筋トレなどやってる。
掃除の仕事をしている。
ストレッチ体操
家の回りの草取り、掃除。
荷物の持ち運びなど30分以上行っている。
自転車
ストレッチ、毎朝50分365日続けてる!!
公的施設で機具体操。
太極拳等
ストレッチ、スクワット

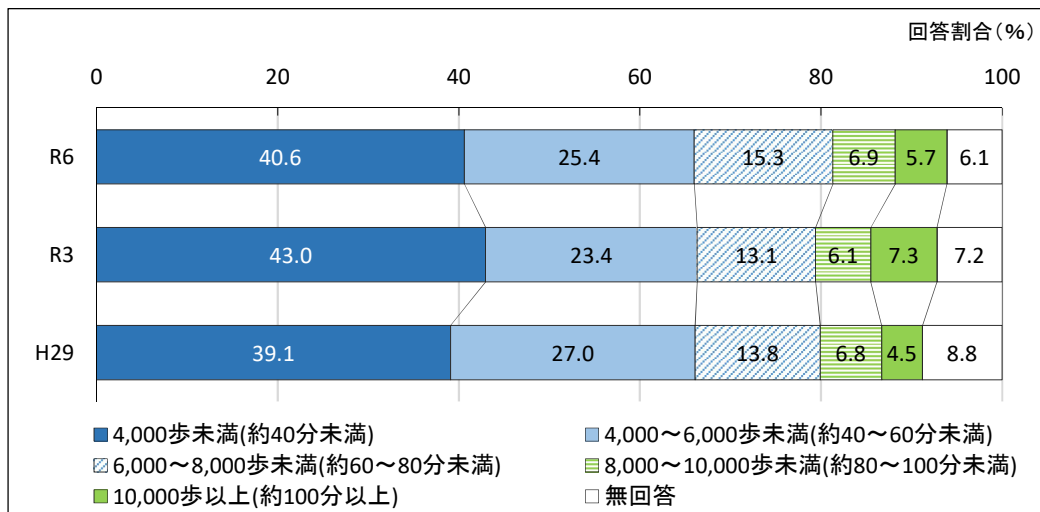
仕事上1日5千～1万。歩階段を含む。
近くのスーパー、郵便局等に。おとも苑月3回参。
草取り、庭の手入れ等。
ほとんど毎日スーパーに食品を買い出しに出かける。
卓球週2回、フォークダンス週2回
社交ダンス

(23) 日常生活動作または運動を1日の歩数に換算するとどれくらいですか。

(※)10分の歩行で、およそ1,000歩に相当します。

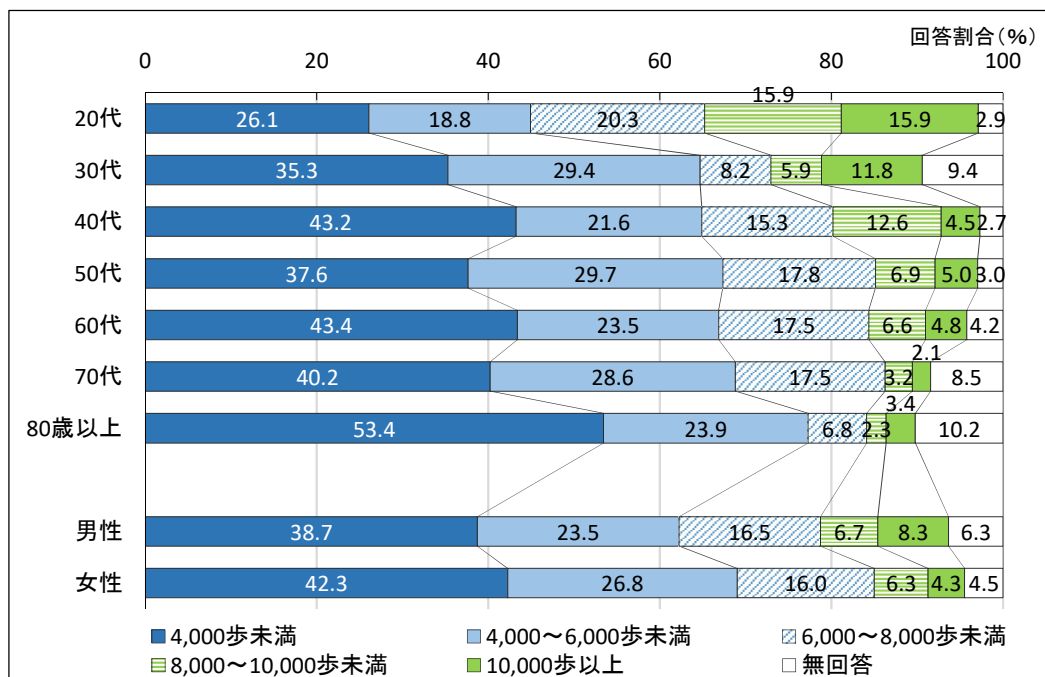
「4,000歩未満」の割合が40.6%でもっとも高く、次いで「4,000～6,000歩未満」が25.4%で続き、「6,000～8,000歩未満」(15.3%)、「8,000～10,000歩未満」(6.9%)、「10,000歩以上」(5.7%)は1割未満から1割台の低い割合となった。

過去調査と比べると、「4,000歩未満」の割合は低下しており、普段の運動量が若干増えているものと推察される。



年代別にみると、各年代で「4,000歩未満」の割合がもっとも高く、この割合は概ね年代が上がるにつれて上昇する傾向がみられる。

性別にみると、男女ともに「4,000歩未満」の割合がもっとも高く、女性の方でより割合が高くなっている。

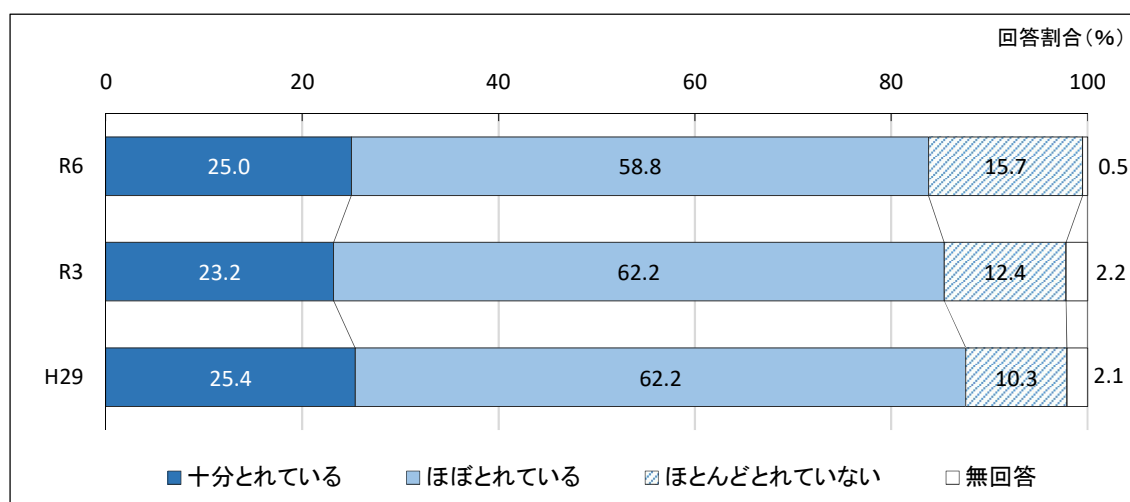


④ ストレスや悩み事について

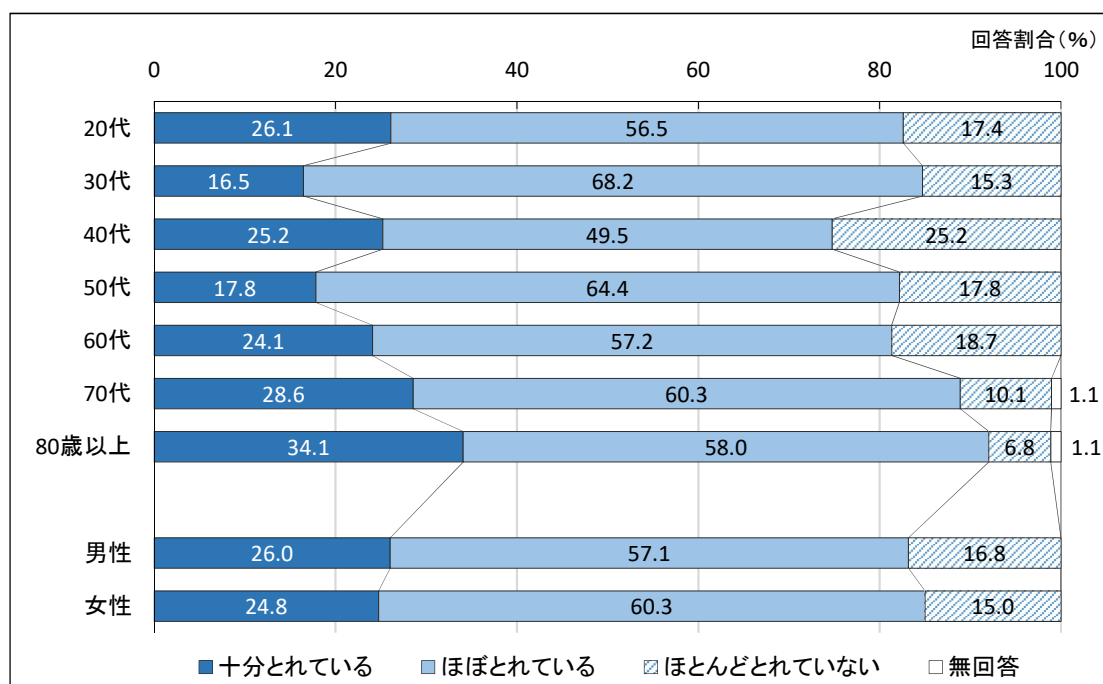
(24) 睡眠による休養が十分とれていますか。

「ほぼとれている」の割合が58.8%でもっとも高く、次いで「十分とれている」が25.0%となり、「ほとんどとれていない」は15.7%となった。

過去調査と比べると、「十分とれている」の割合は1.8ポイント上昇しているが、「ほぼとれている」の割合は3.4ポイント低下し、一方で「ほとんどとれていない」の割合は3.3ポイント上昇しており、十分な睡眠をとれていると感じている人は減少しているものと推測される。



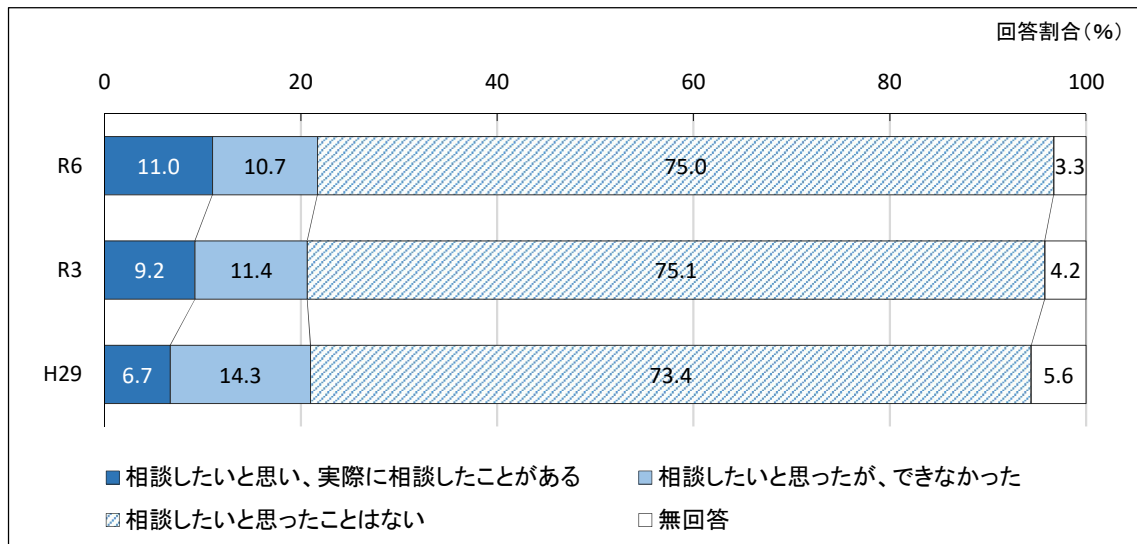
年代別にみると、すべての年代で「ほぼとれている」の割合が概ね5割以上を占め、もっとも高くなった。「ほとんどとれていない」の割合は総じて1割未満から2割台ながら、40代ではやや高くなっている。性別にみると、男女ともに「ほぼとれている」の割合が5割から6割台となった。



(25) ストレスや悩み事などを専門機関に相談したことはありますか。

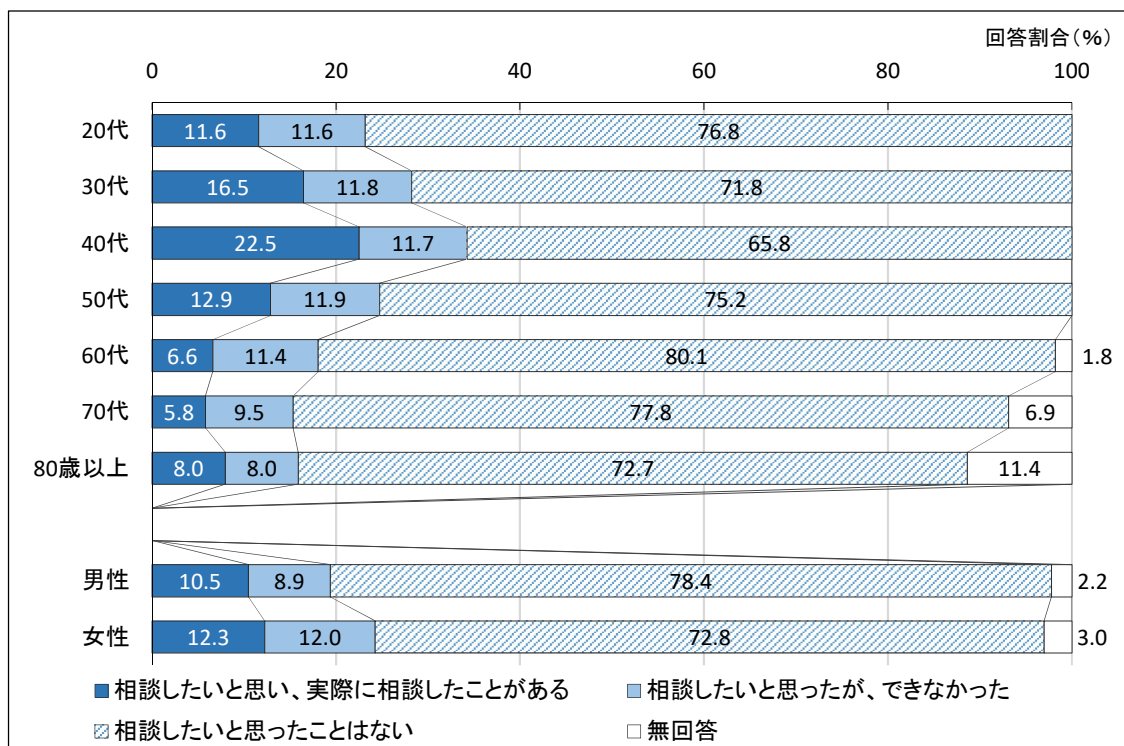
「相談したいと思ったことはない」の割合が75.0%を占めた一方、「相談したいと思ったが、できなかった」と「相談したいと思い、実際に相談したことがある」を合わせた『相談したいと思ったことがある』の割合は21.7%となった。

過去調査と比べると、『相談したいと思ったことがある』の割合は緩やかに増加している。



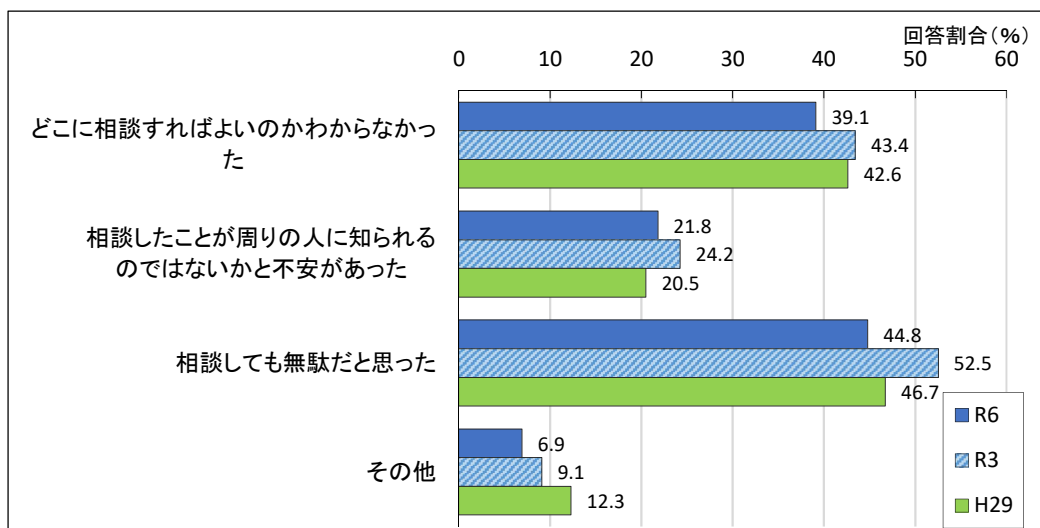
年代別にみると、すべての年代で「相談したいと思ったことはない」の割合が7割以上を占めた。「相談したいと思ったが、できなかった」の割合は各年代とも1割未満から1割台となっている。

性別にみると、男女ともに「相談したいと思ったことはない」の割合が7割以上でもっとも高くなった。

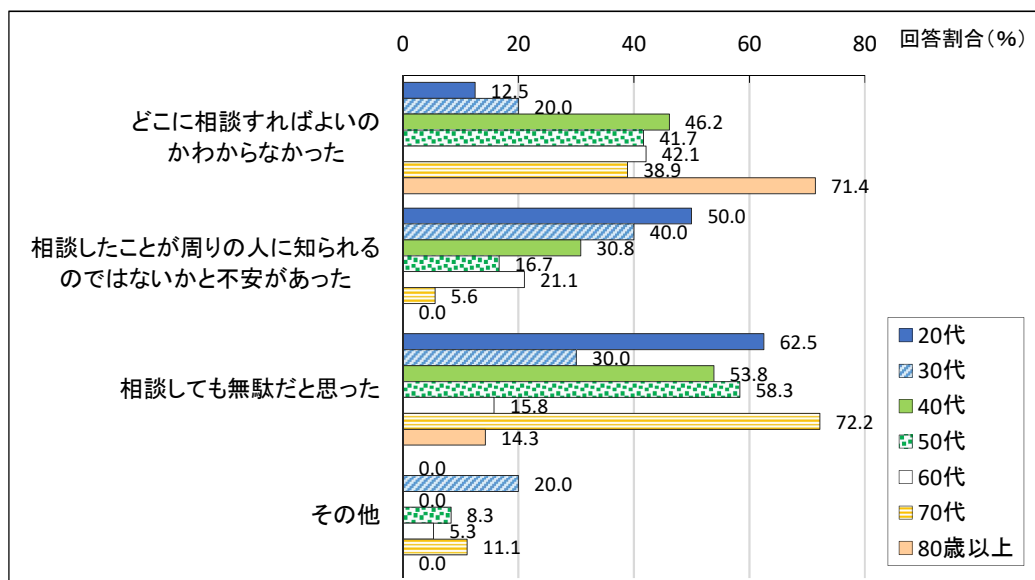


(26) (25)で「2. 相談したいと思ったが、できなかった」とお答えした方にお聞きします。相談できなかった理由にはどのようなものがありますか。(複数回答可)

「相談しても無駄だと思った」の割合が44.8%でもっとも高く、これに「どこに相談すればよいのかわからなかった」(39.1%)、「相談したことが周りの人に知られるのではないかと不安があった」(21.8%)が続いた。相談しても無駄だという諦めの気持ちが、相談に踏み切れない大きな理由となっている。前回調査と比べると、「相談しても無駄だと思った」の割合は7.7ポイント低下している。



年代別にみると、60代と80歳以上では「どこに相談すればよいのかわからなかった」、30代を除く各年代では「相談しても無駄だと思った」の割合がもっとも高くなった。



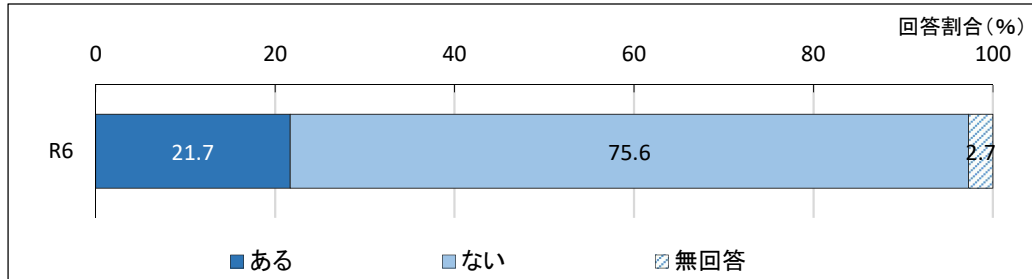
◆ その他を選択した方の回答

仕事の休みが無いから。
時間がなく、費用もかかる印象(通院等)。
めんどろだった。
自力で解決することが自分の心の安定につながると考えたから。
上手に伝えられない。
子供の事なので。

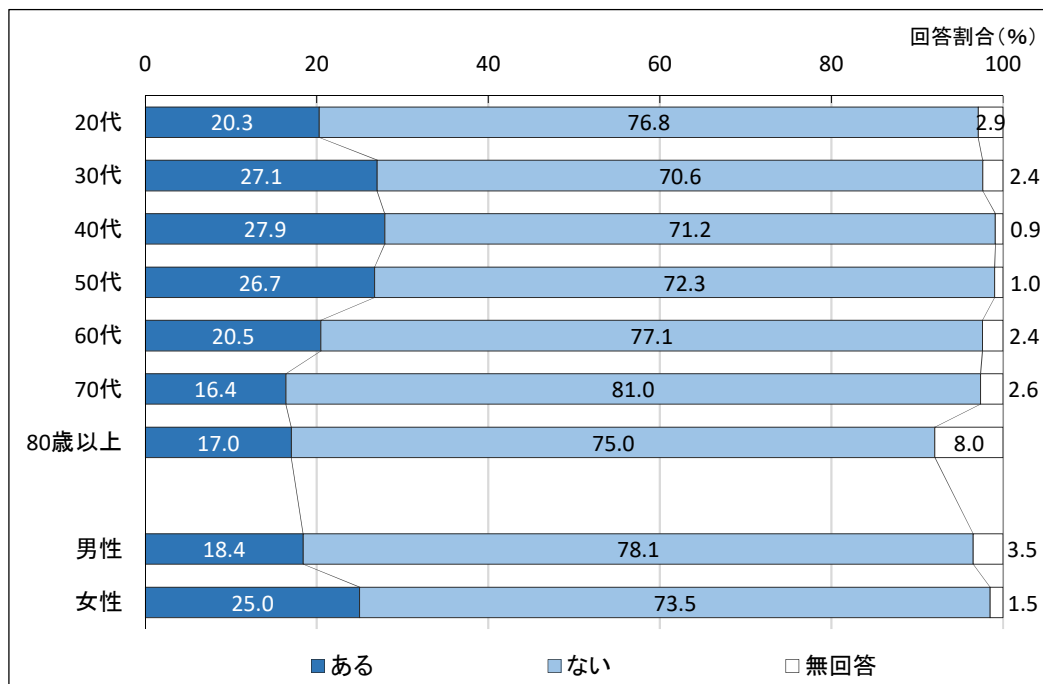
(27) 自殺予防対策における「ゲートキーパー」(*)という言葉を知っていますか。

(*)ゲートキーパー:悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて必要な支援につなげ、見守る人。

「ない」の割合が75.6%となり、「ある」(21.7%)を大きく上回った。これは、「ゲートキーパー」の認知度が低い傾向にあることが伺える。



年代別にみると、すべての年代で「ない」の割合が7割以上を占めた。性別にみると、男女ともに「ない」の割合が7割以上で、認知度が低い傾向にあることが伺える。



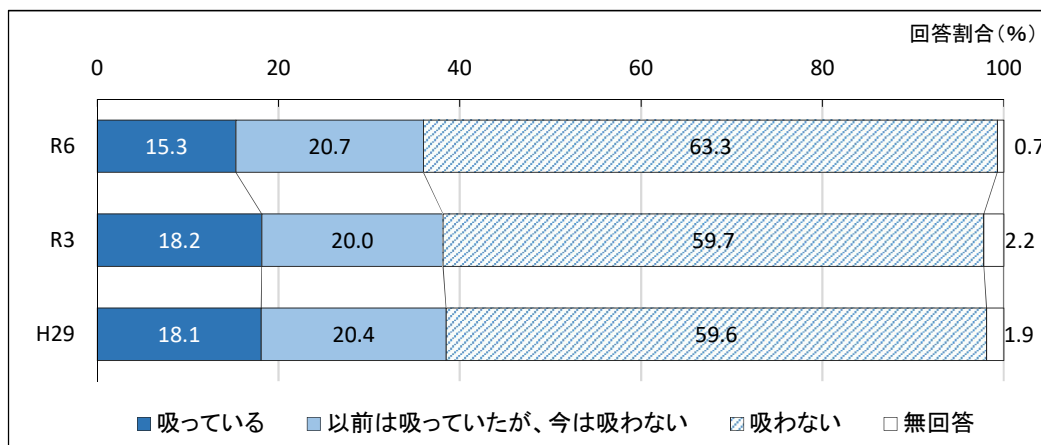
⑤ たばこについて

(28) 現在、たばこを吸いますか。

※加熱式たばこ、電子たばこを含みます。

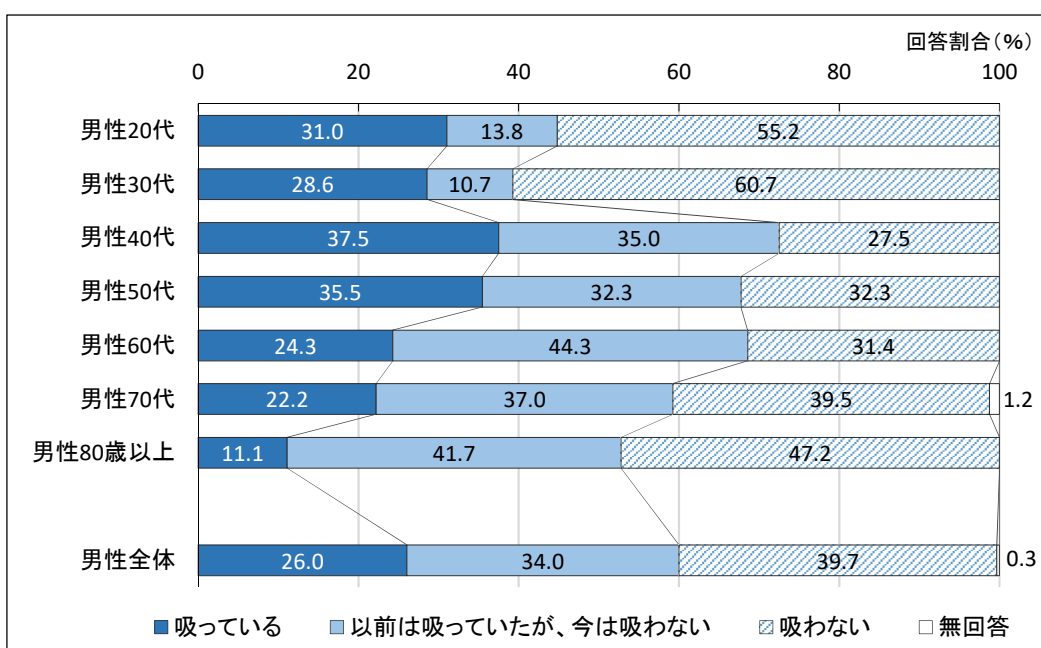
「吸わない」の割合が63.3%でもっとも高く、次いで「以前は吸っていたが、今は吸わない」が20.7%で続き、この2項目を合わせた『現在たばこを吸っていない』の割合は8割台となり、上昇傾向で推移している。

前回調査と比べると、「吸っている」の割合は15.3%と減少傾向となっており、禁煙が進んでいる様子が伺える。



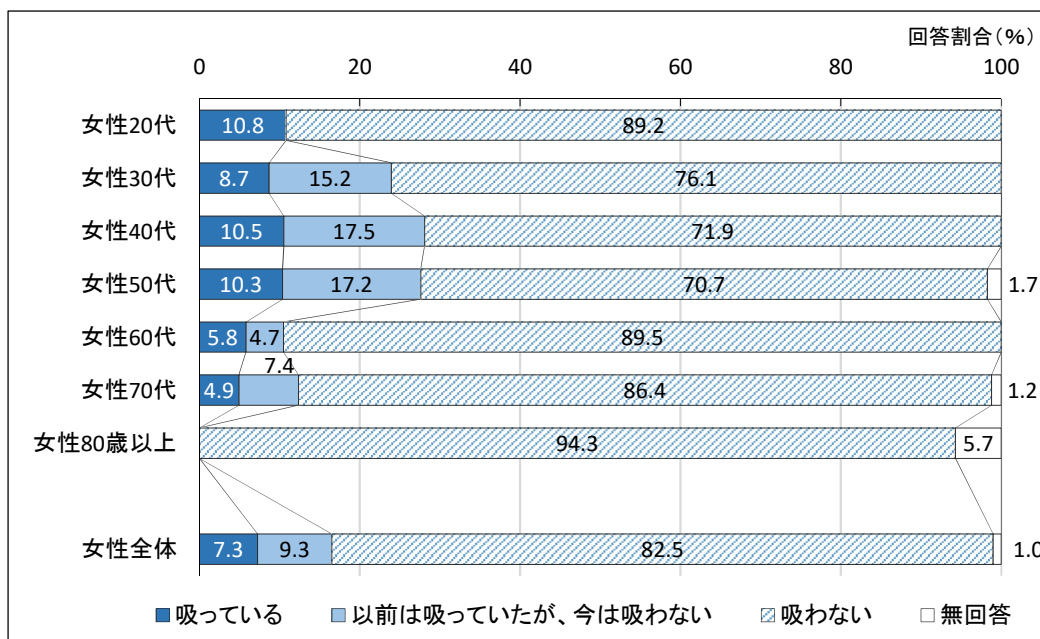
男性全体では、「吸っている」の割合が2割台、『現在はたばこを吸っていない』の割合が7割台となった。

年代別にみると、「吸っている」の割合は20代から50代で概ね3割台、60代から70代で2割台となっている。「以前は吸っていたが、今は吸わない」の割合は、40代から50代で3割台、60代以降の各年代で概ね4割台と、60代以降で高くなっている。また、20代と30代では、5割を超える人が吸わないと答えしており、若い人ほど喫煙しないことが伺える。



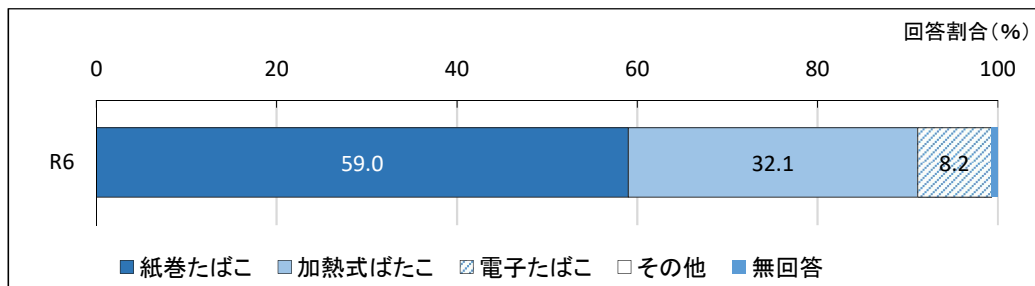
女性全体では、「吸っている」の割合が1割未満と低い割合となり、『現在はタバコを吸っていない』の割合が9割以上を占めた。

年代別にみると、「吸っている」の割合は20代、40代から50代の1割台がもっとも高く、その他の年代では1割未満と低くなっている。

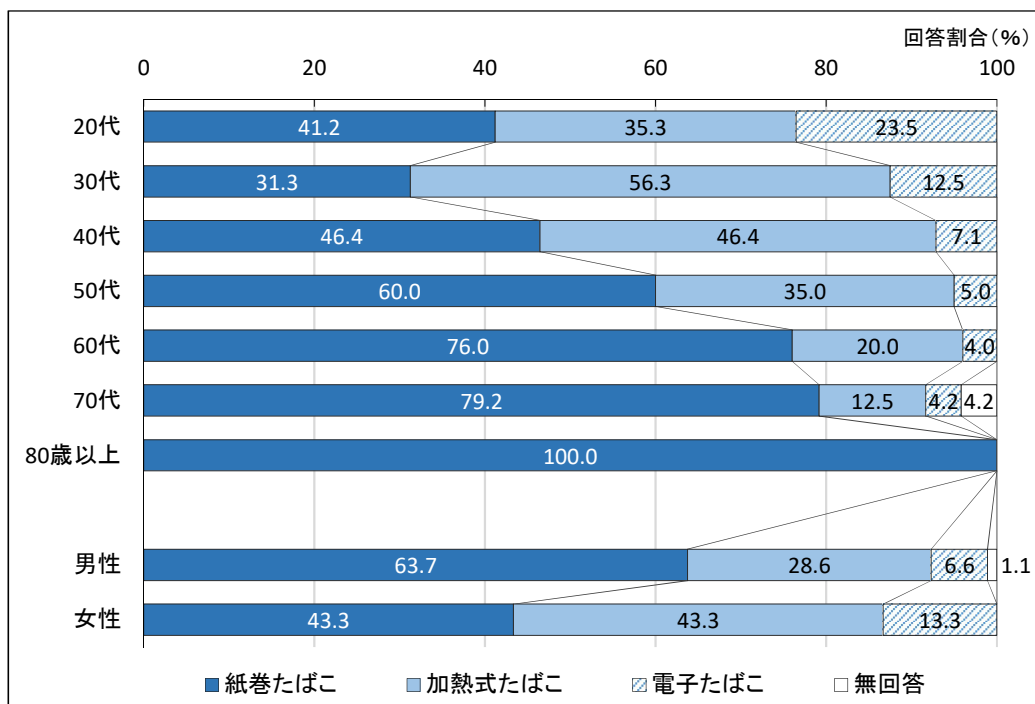


(29) (28)で「1. 吸っている」とお答えした方にお聞きします。
吸っているたばこの種類は何ですか。

「紙巻たばこ」の割合が59.0%でもっとも高く、次いで「加熱式たばこ」が32.1%、「電子たばこ」が8.2%となった。
「紙巻たばこ」の割合が6割近くと高くなっており、受動喫煙に対する意識が定着していないことが伺える。



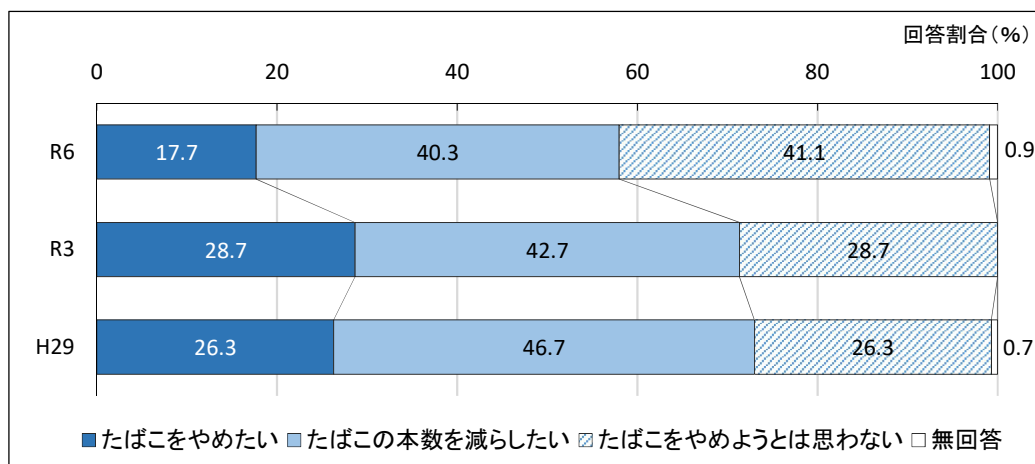
年代別にみると、30代では「加熱式たばこ」の割合がもっとも高く、その他の年代では「紙巻たばこ」の割合がもっとも高くなった。
性別にみると、男性は「紙巻たばこ」の割合が高く、女性は「紙巻たばこ」と「加熱式たばこ」の割合が同率となった。



(30) (28)で「1. 吸っている」とお答えした方にお聞きします。
 今後の喫煙に対してどのように考えていますか。

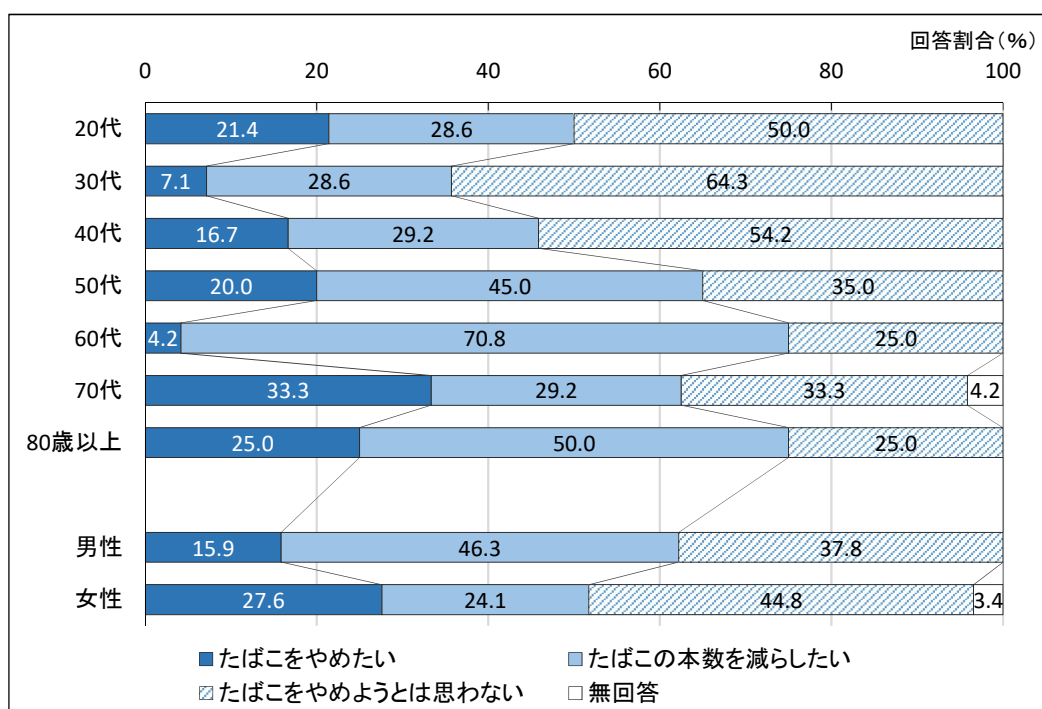
「たばこをやめようとは思わない」の割合が41.1%でもっとも高く、次いで「たばこの本数を減らしたい」が40.3%、「たばこをやめたい」が17.7%となった。

前回調査と比べると、「たばこをやめたい」の割合は10.0ポイント低下した一方、「たばこをやめようとは思わない」の割合が、12.4ポイント上昇した。



年代別にみると、「たばこをやめたい」の割合は30代と60代では1割未満の低い割合となった一方、20代と40から50代までの各年代では1割から2割台、70代以降の各年代では2割から3割台となり、年代により違いが見られた。「たばこの本数を減らしたい」の割合は、60代で7割台、80歳以上で5割台と高い割合となった。

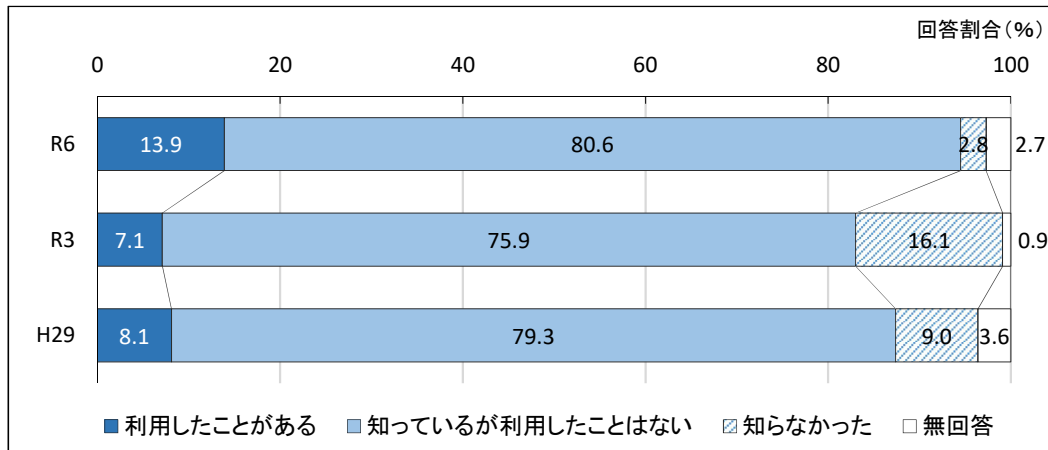
性別にみると、「たばこをやめたい」の割合は女性で2割台、男性で1割台と、女性の方が高い割合となった。また、「たばこの本数を減らしたい」の割合は男性で4割台、女性で2割台と、男性の方が高い割合となった。



(31) (30)で「1. たばこをやめたい」「2. 本数を減らしたい」とお答えになった方にお聞きします。禁煙教室や禁煙外来というものを利用されたことはありますか。

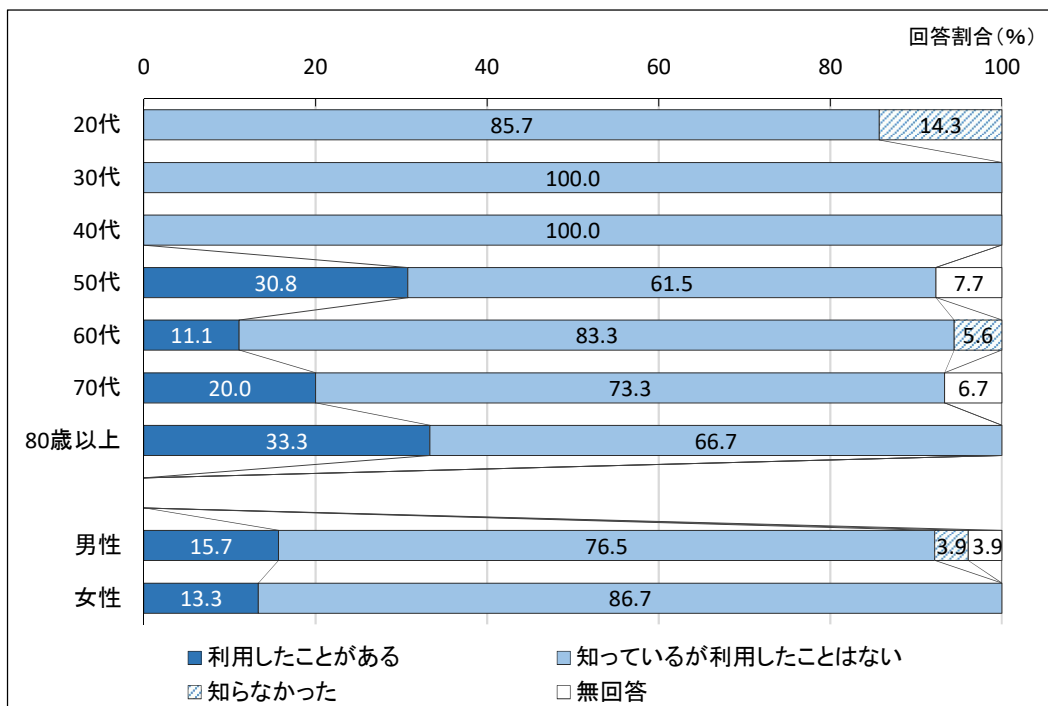
「知っているが利用したことはない」の割合が80.6%を占め、これに「利用したことがある」(13.9%)を合わせた『禁煙教室や禁煙外来を知っている』の割合は94.5%と高い割合となった。一方、「知らなかった」は2.8%となった。

前回調査と比べると、『禁煙教室や禁煙外来を知っている』の割合が上昇し、「知らなかった」の割合が低下していることから、周知や禁煙に対する意識が高まってきていると考えられる。



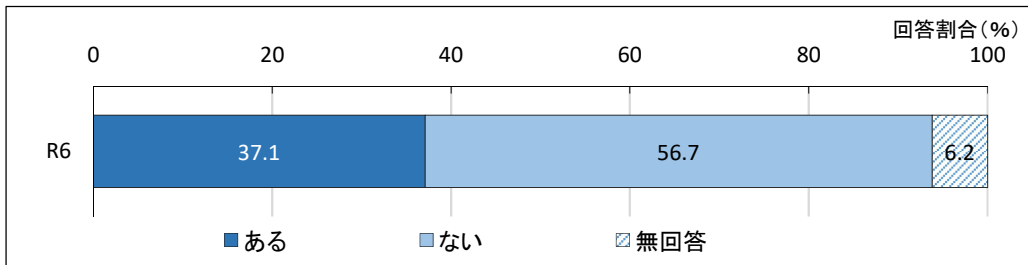
年代別にみると、「知っているが利用したことはない」の割合が20代から40代、60代で8割以上となるなど、すべての年代で6割以上を占め高い割合となった。

性別にみると、「知っているが利用したことはない」の割合は男女ともに7割以上となった。



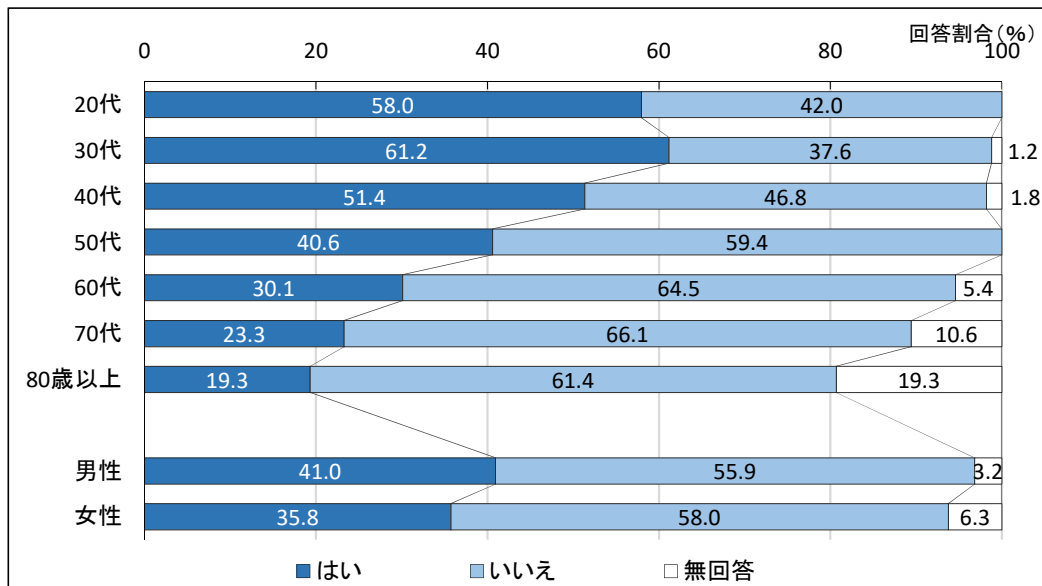
(32) 望まない受動喫煙(周囲で吸っている人の煙を吸うこと)の機会がありますか。

「ない」の割合が56.7%となり、「ある」(37.1%)を上回った。これは、各所において受動喫煙防止に対する意識が高まってきていることが要因と考えられる。



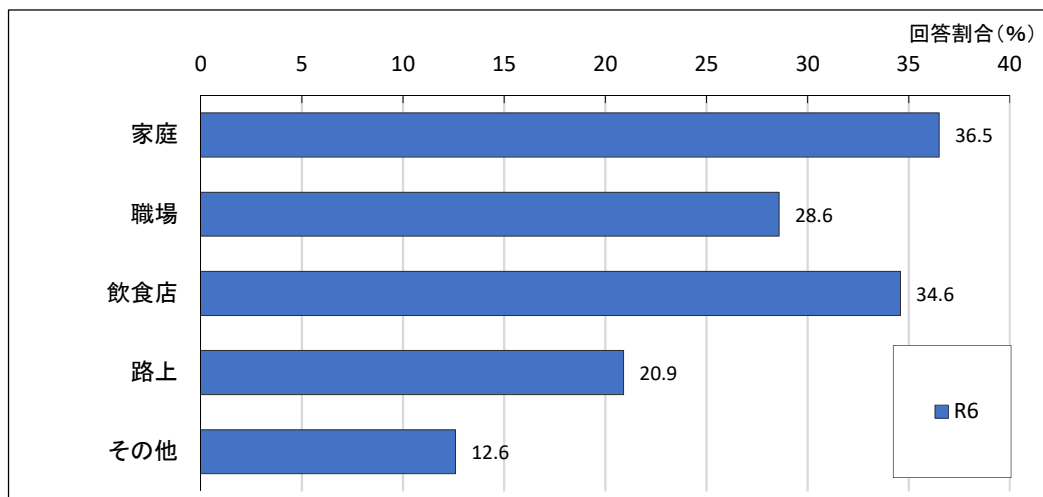
年代別にみると、20代から40代では「はい」の割合が、「いいえ」の割合を上回った一方、50代以上は「いいえ」の割合が、「はい」の割合を上回った。「はい」の割合は、年代が上がるに連れて低下する傾向が見られた。

性別にみると、「いいえ」の割合は男女ともに5割以上となった。

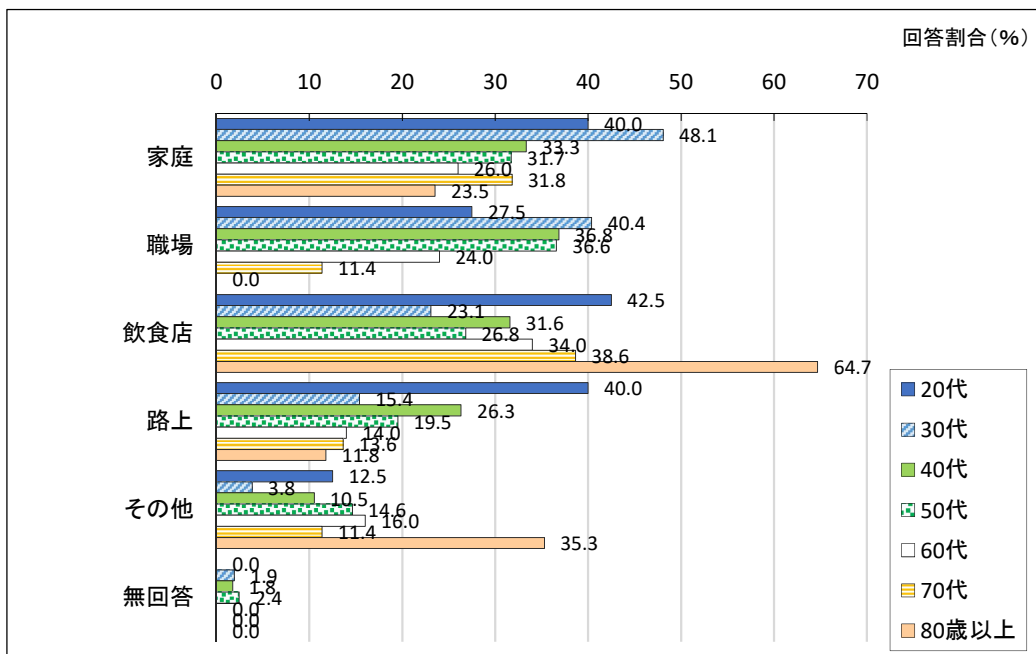


(33) (32)で「1. はい」とお答えした方にお聞きします。
受動喫煙があった場所はどこですか。(複数回答可)

「家庭」の割合が36.5%でもっとも高く、これに「飲食店」(34.6%)、「職場」(28.6%)が続いた。これは、紙巻たばこの喫煙割合が高いことや、家庭や飲食店などで分煙・禁煙が進んでいないことが要因と考えられる。



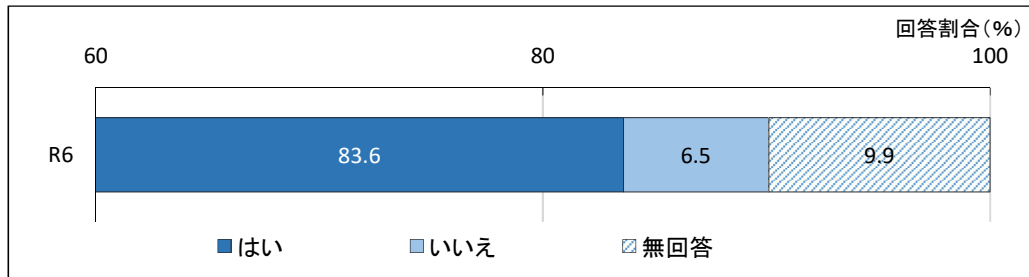
年代別にみると、20代と70代以上で「飲食店」の割合がもっとも高く、30代では「家庭」が、40代から50代は「職場」の割合がもっとも高く、各年代ごとに異なる結果となった。



(34) 喫煙もしくは受動喫煙によるたばこの害(*)について知っていますか。

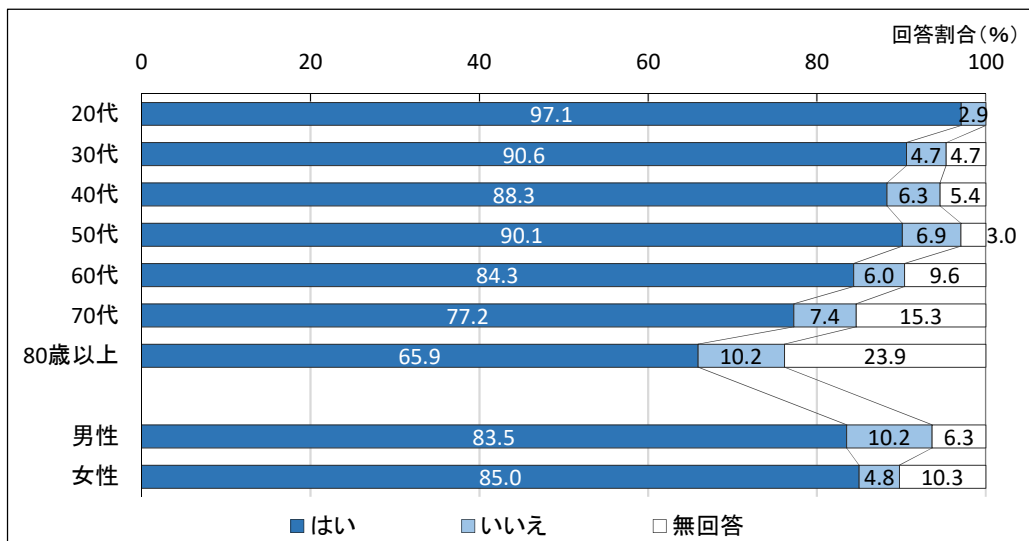
(*)たばこの煙などの有害物質を長年に吸入することで起こる、慢性閉塞性肺疾患(COPD)など。

「はい」の割合が83.6%となり、「いいえ」(6.5%)を大幅に上回った。これは、たばこの害に関する知識が浸透してきているためと考えられる。



年代別にみると、20代から60代では「はい」の割合が8割以上と特に高く、すべての年代で6割以上の高い割合となった。

性別にみると、男女ともに「はい」の割合が8割以上の高い割合となった。

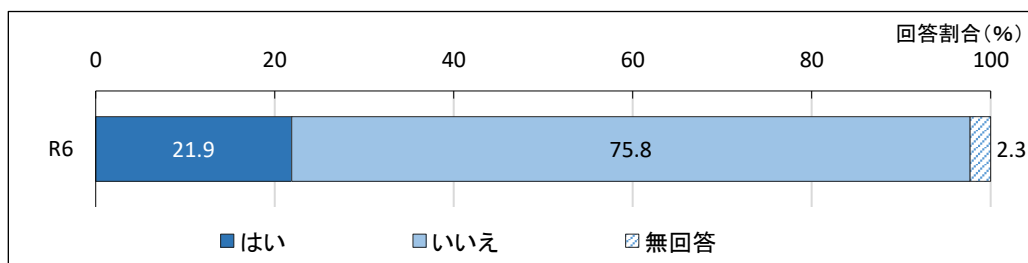


⑥ お酒について

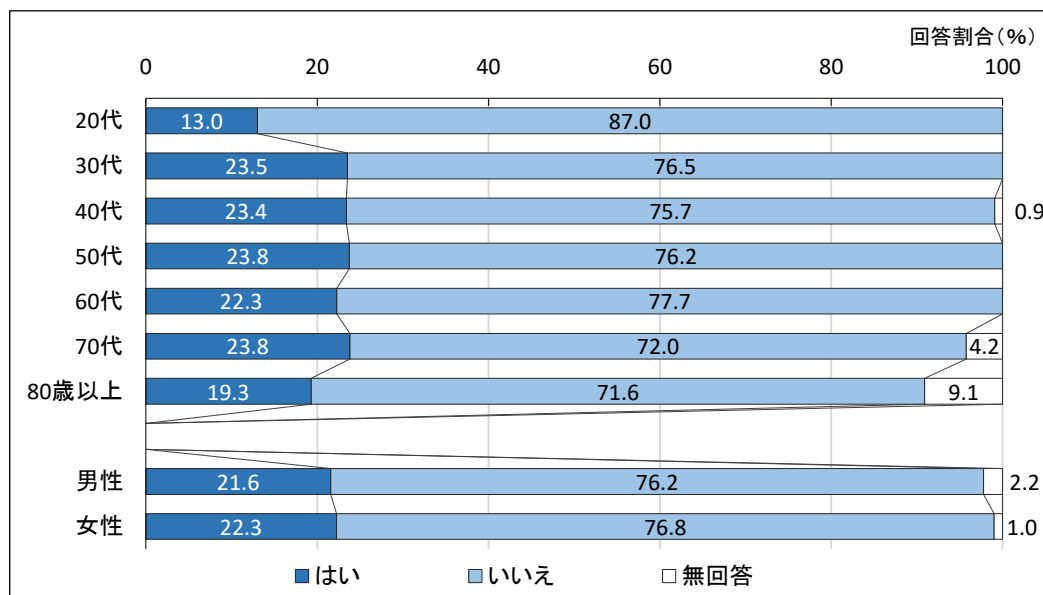
(35) 国には生活習慣病のリスクを高める飲酒量として、1日当たりの平均純アルコール摂取量を男性で40g、女性で20g以上(*)としていることを知っていますか。

(*)日本酒1合(180ml)で純アルコール摂取量は22g程度。

「いいえ」の割合が75.8%となり、「はい」(21.9%)を大幅に上回った。これは、1日当たりの飲酒量に対する意識が定着していないためと考えられる。



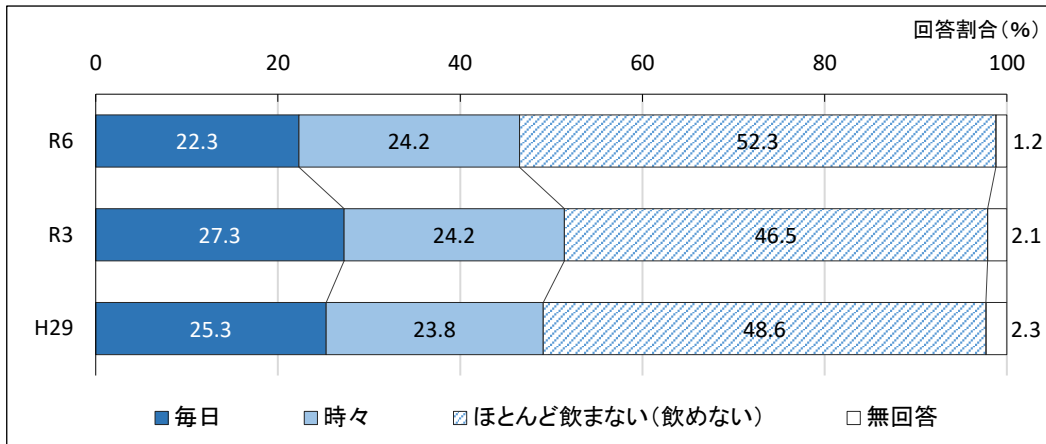
年代別にみると、全ての年代で「いいえ」の割合が7割以上の高い割合となった。性別にみると、男女ともに「いいえ」の割合が7割以上の高い割合となった。



(36) お酒をどのくらいの頻度で飲みますか。

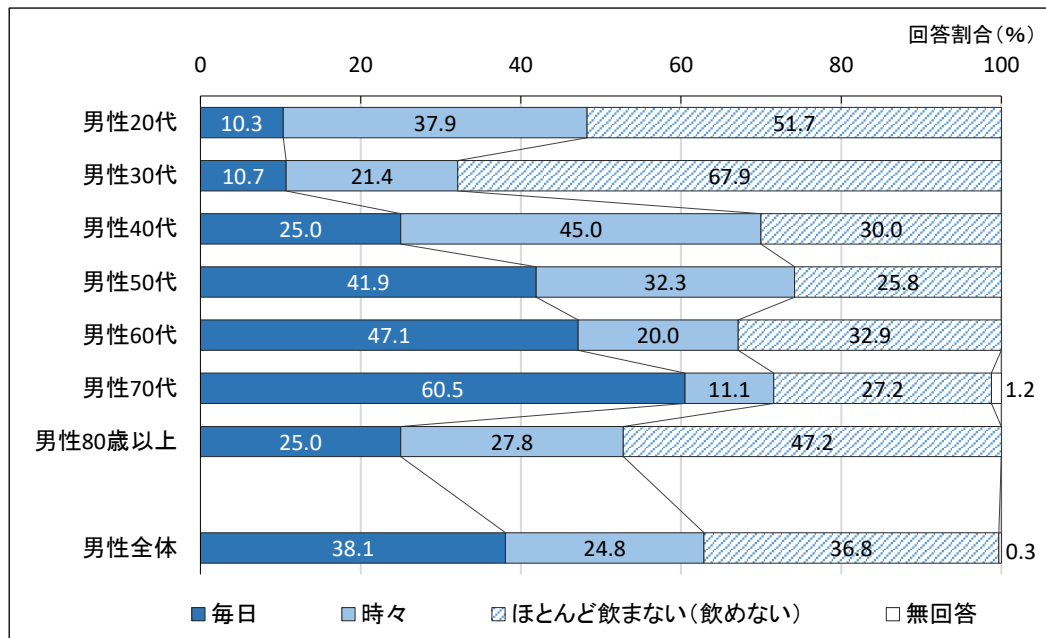
「ほとんど飲まない(飲めない)」の割合が52.3%でもっとも高く、次いで「時々」が24.2%、「毎日」が22.3%となった。

前回調査と比べると、「ほとんど飲まない(飲めない)」の割合は5.8ポイント上昇した一方、「毎日」の割合が低下しており、飲酒の機会が減少している様子が伺える。

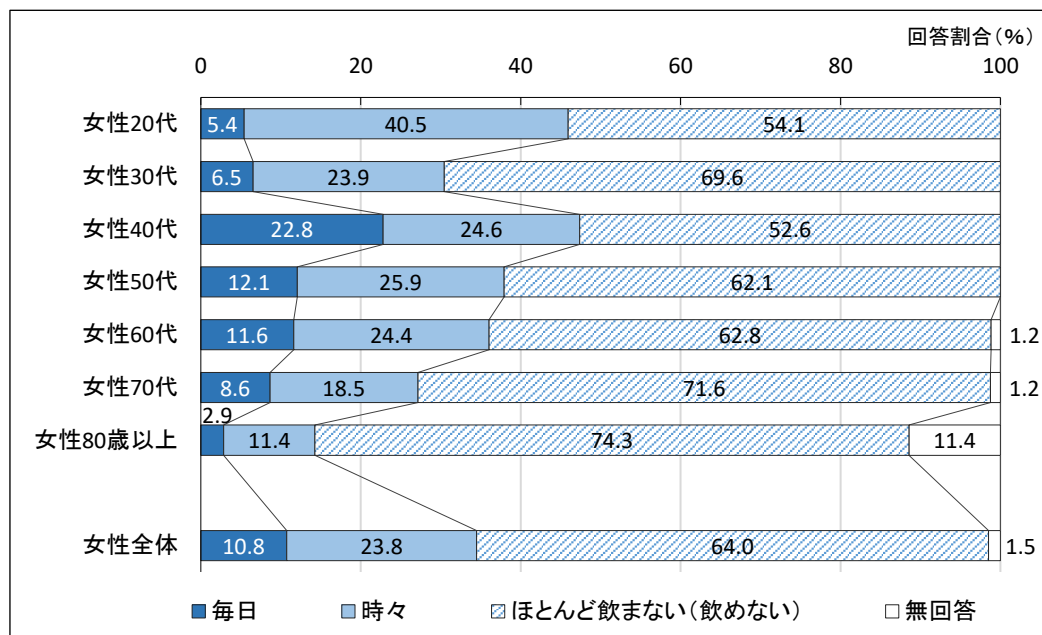


男性全体では、「毎日」の割合が4割近く、「時々」が2割台となった一方、「ほとんど飲まない(飲めない)」は3割台となった。

年代別にみると、「毎日」の割合は50代から70代までの各年代で4割以上と、特に高くなっている。



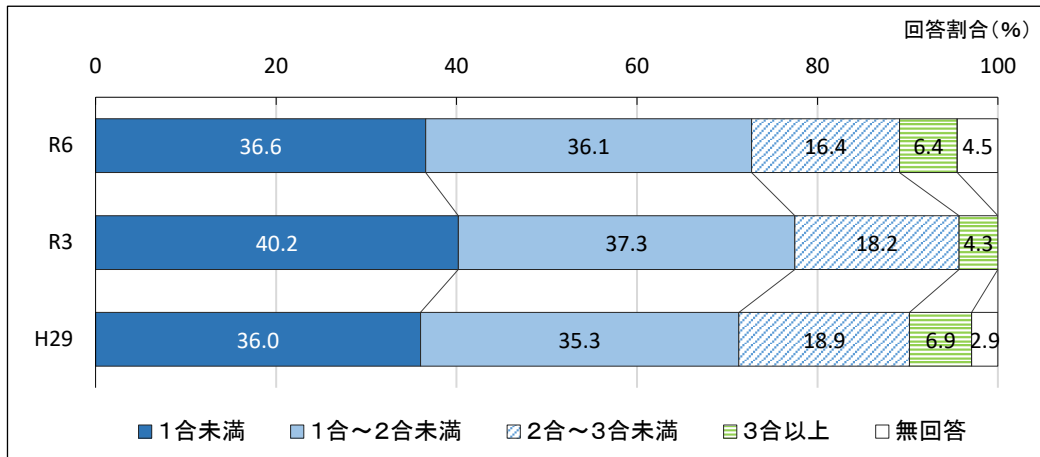
女性全体では、「毎日」の割合は1割台、「時々」は2割台となり、「ほとんど飲まない(飲めない)」が6割台でもっとも高くなった。
 年代別にみると、「毎日」の割合は40代で2割台と高くなっている。



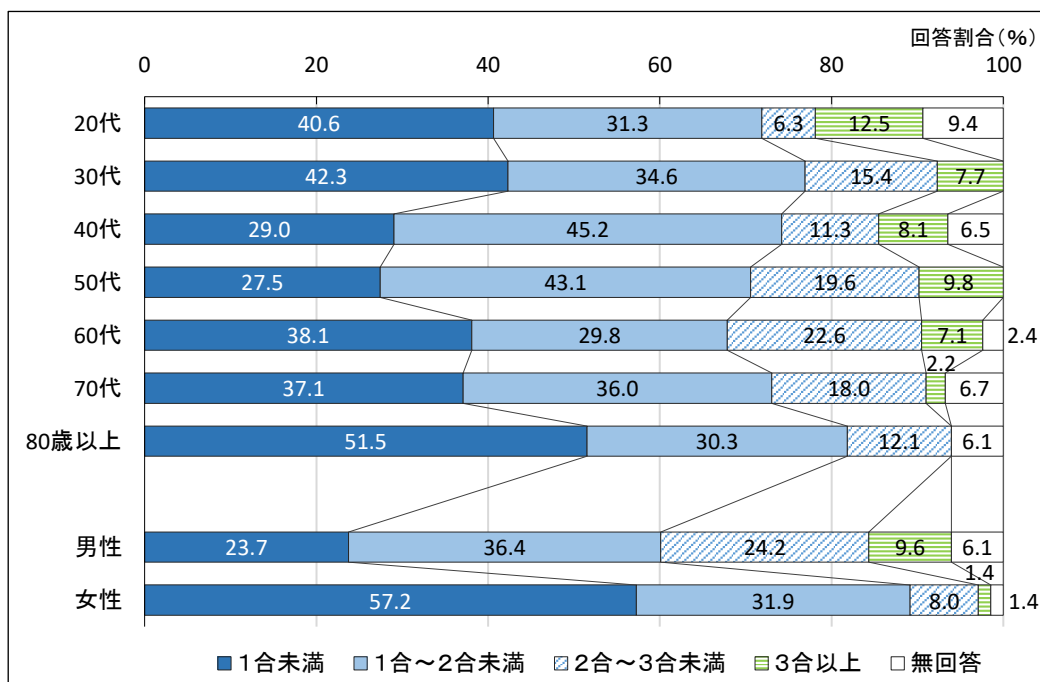
(37) (36)で「1. 毎日」、「2. 時々」とお答えになった方にお聞きます。
1回当たり平均してどのくらいの量をお飲みになりますか。

※日本酒1合(180ml)の目安:ビール500ml、焼酎(35度)80ml
ウイスキーダブル80ml、ワイン240ml

「1合未満」の割合が36.6%でもっとも高く、次いで「1合～2合未満」が36.1%で続き、「2合～3合未満」は16.4%、「3合以上」は6.4%となった。
前回調査と比べると、「3合以上」の割合が上昇した一方、それ以外は低下しており、飲酒量は減少傾向にあることが伺える。



年代別にみると、20代、30代、60代以上では「1合未満」の割合がもっとも高く、その他の年代では「1合から2合未満」の割合がもっとも高くなった。
性別にみると、男性では「1合～2合未満」、女性では「1合未満」がそれぞれもっとも高い割合となり、飲酒量は男性の方が高い傾向にあることが伺える。

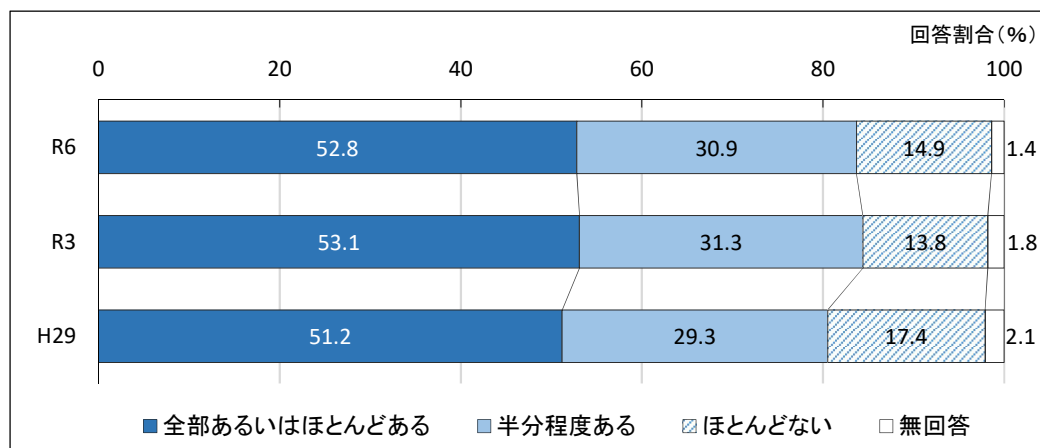


⑦ 歯の健康について

(38) 現在のご自身の歯の本数はどのくらいありますか。

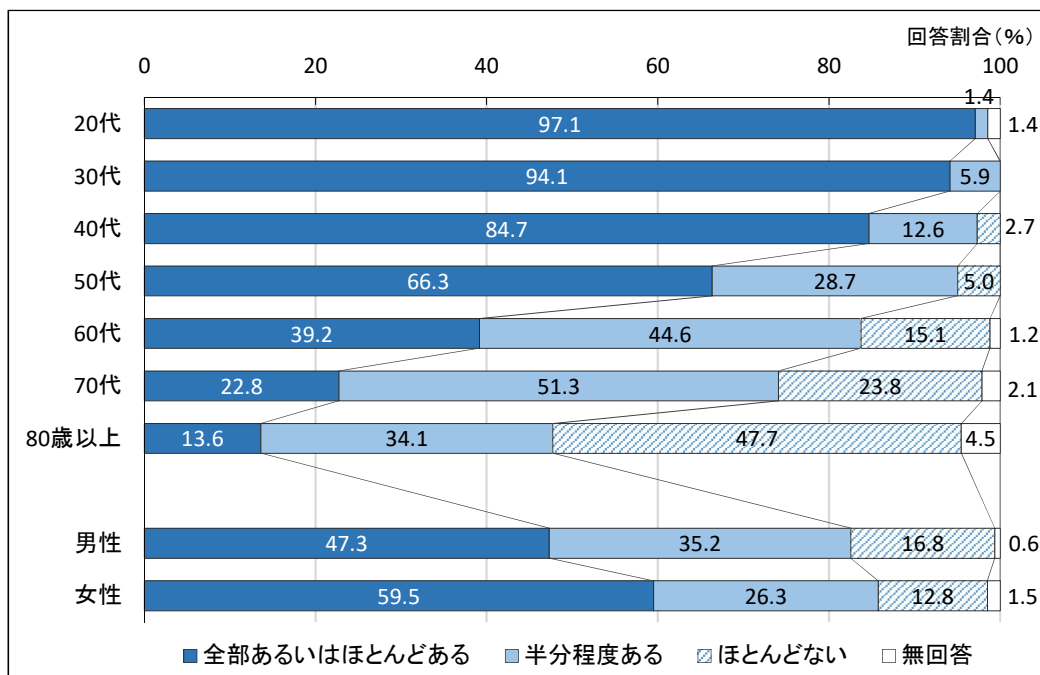
「全部あるいはほとんどある」の割合が52.8%でもっとも高く、次いで「半分程度ある」が30.9%、「ほとんどない」が14.9%となった。

前回調査と比べると、「全部あるいはほとんどある」と「半分程度ある」の割合は減少し、「ほとんどない」の割合が1.1ポイント上昇しており、歯の健康については悪化している様子が伺える。



年代別にみると、「全部あるいはほとんどある」の割合は年代が上がるにつれて低下する傾向にあり、60代以降は4割以下となっている。

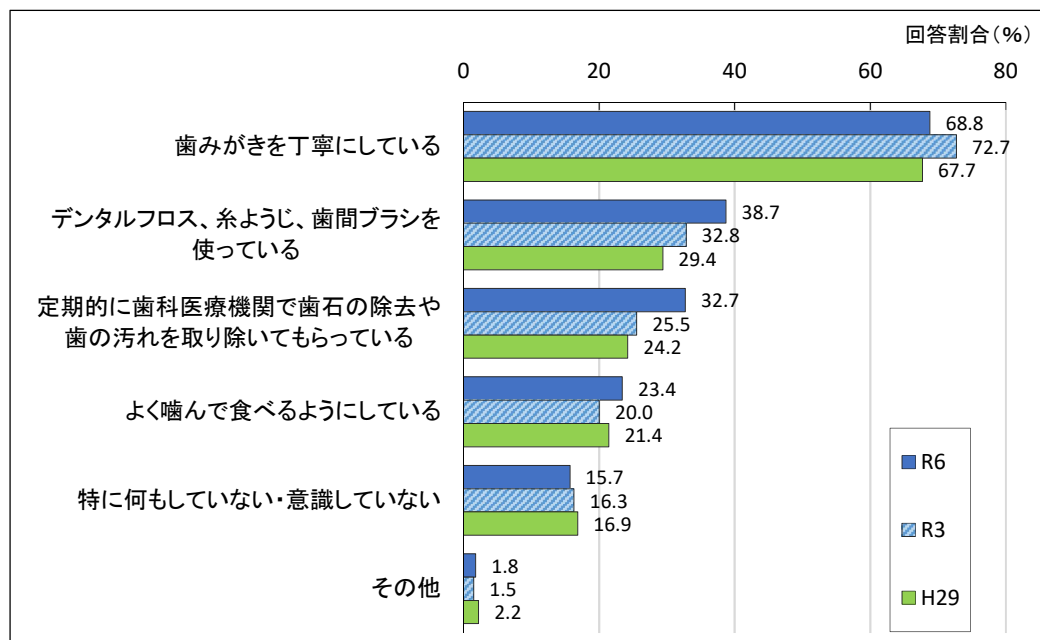
性別にみると、男女ともに「全部あるいはほとんどある」の割合がもっとも高く、女性では6割近く、男性では4割台と、女性の方が高くなった。



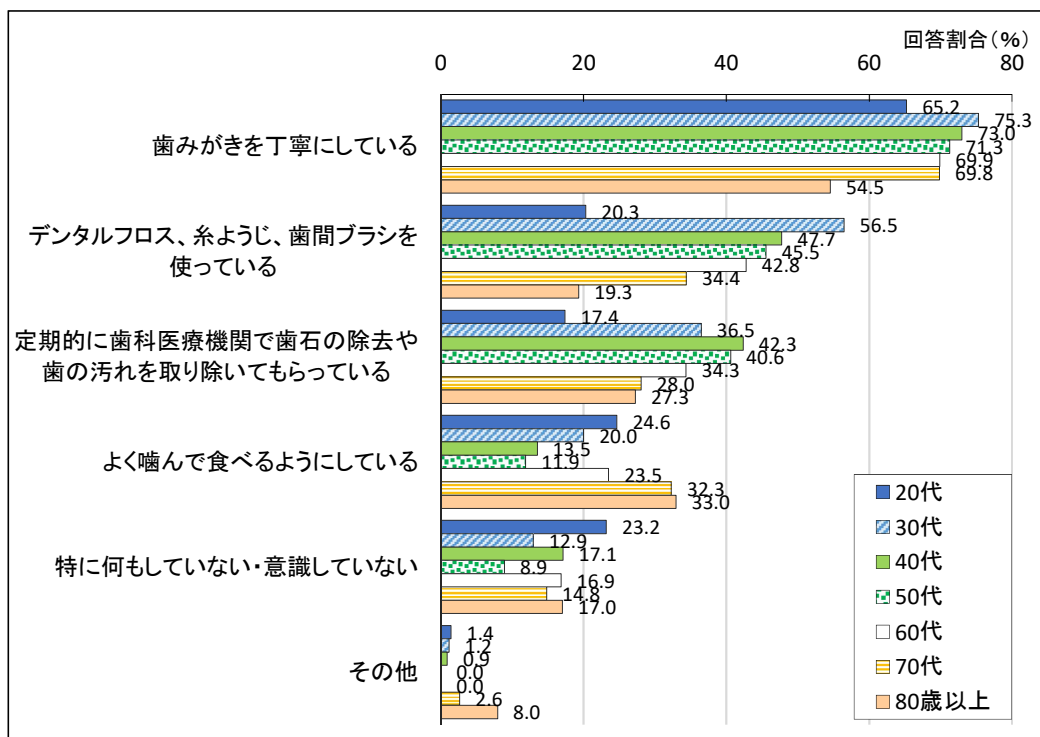
(39) 歯の健康のために行っていることはありますか。(複数回答可)

「歯磨きを丁寧にしている」の割合が68.8%で突出して高く、これに「デンタルフロス、糸ようじ、歯間ブラシを使っている」が38.7%、「定期的に歯科医療機関で歯石の除去や歯の汚れを取り除いてもらっている」が32.7%で続いた。

前回調査と比べると、上位3項目うち2項目の割合が上昇しており、歯の健康維持に対する意識が高まっている様子が伺える。



年代別にみると、すべての年代で「歯みがきを丁寧にしている」の割合がもっとも高くなった。この割合は70代までの各年代ではいずれもほぼ7割台となった一方、80歳以上では5割台とやや割合が低くなっている。

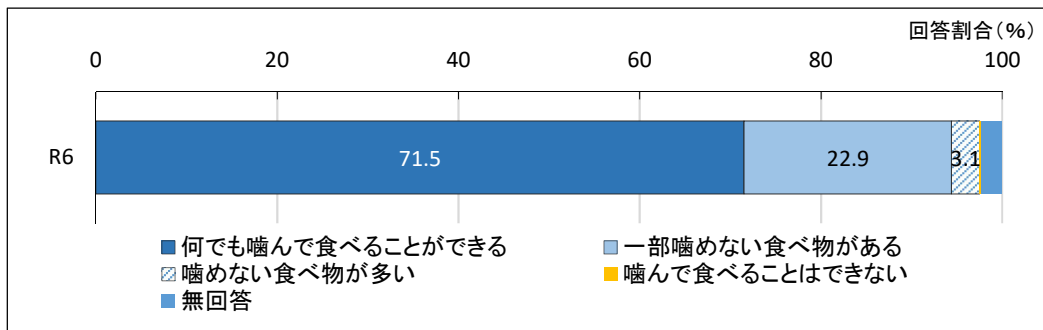


◆ その他を選択した方の回答

歯ブラシを2週間で変える。
口内洗浄液を使用している。
治療中。
自分の歯は半分だが残りはインプラント。
現在治療中。
入れ歯をしている。
入れ歯。
食後の歯みがきをしてる。
リステリンでうがい。
総入れ歯なので。ポリデントを毎日使用している。
入れ歯ですが寝る前に薬につける。
総入れ歯。
朝と夜寝る前に磨く。

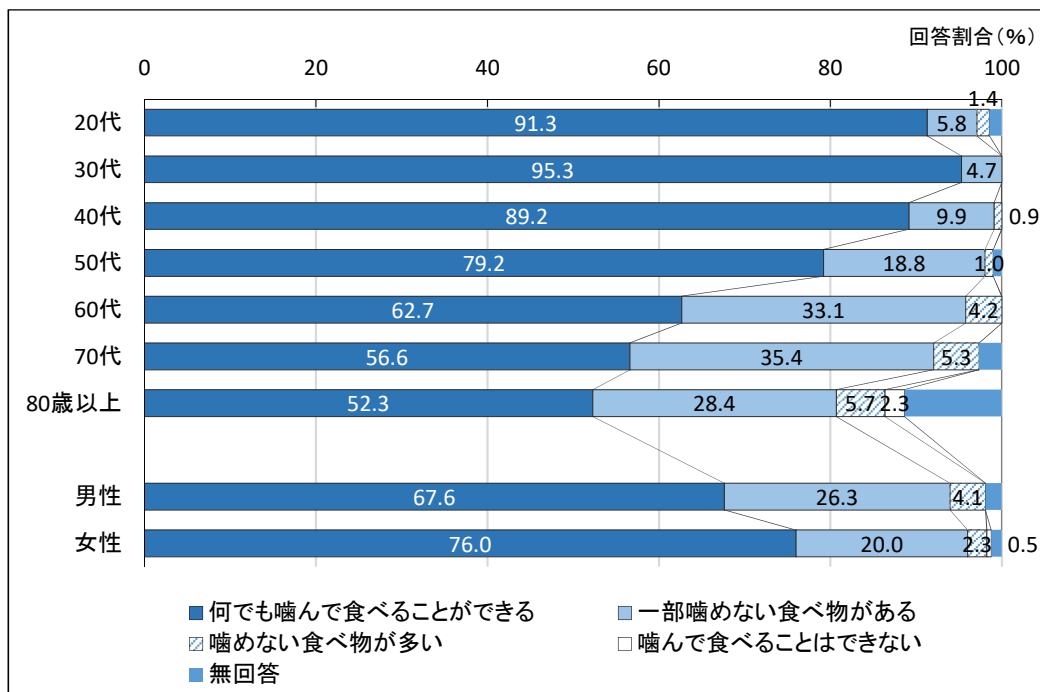
(40) 嚙んで食べる時の状態は、どれに当てはまりますか。

「何でも嚙んで食べることができる」の割合が71.5%でもっとも高く、次いで「一部嚙めない食べ物がある」が22.9%、「嚙めない食べ物が多い」が3.1%となった。



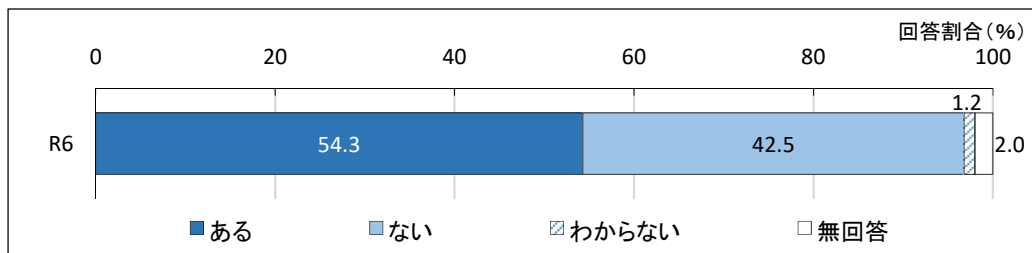
年代別にみると、「何でも嚙んで食べることができる」の割合は年代が上がるにつれて低下する傾向にあり、70代以降は5割台となった。

性別にみると、男女ともに「何でも嚙んで食べることができる」の割合がもっとも高く、女性では7割台、男性では6割台と、女性の方が高くなった。

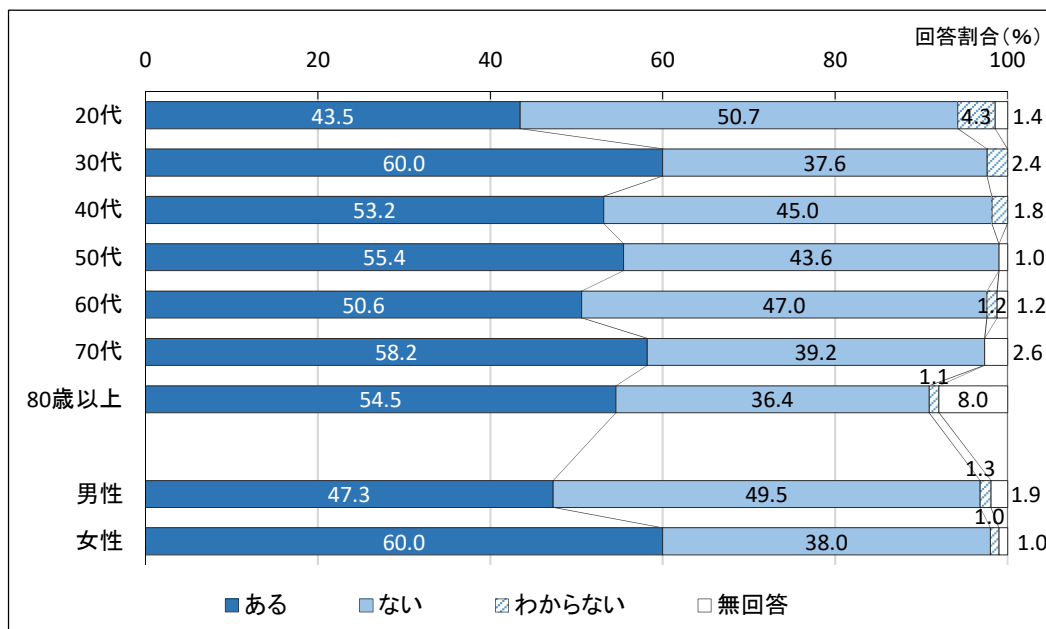


(41) ここ1年の間に、歯科医療機関で歯科検診を受けたことがありますか。

「ある」の割合が54.3%となり、「ない」(42.5%)を上回った。これは、概ね5割の方が年1回程度の歯科検診を受診していることが伺える。



年代別にみると、30代以降の年代で「ある」の割合が5割以上となり、「ない」の割合を上回った。性別にみると、女性では「ある」の割合がもっとも高く、男性では、「ない」の割合が「ある」の割合を上回った。「ある」の割合は、女性では6割台、男性では4割台と、女性の方が高くなった。

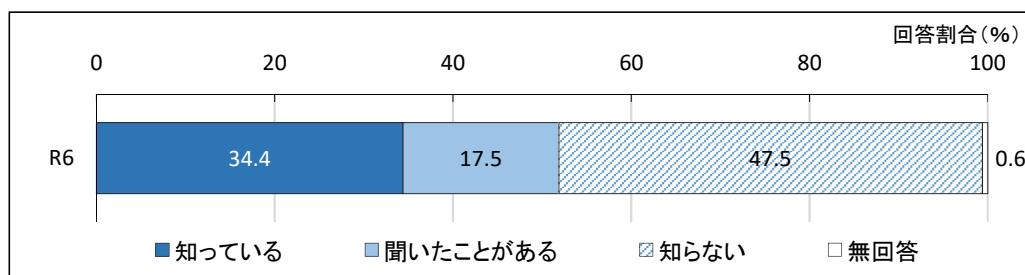


⑧ フレイル予防について

(42) 「フレイル」(*)という言葉を知っていますか。

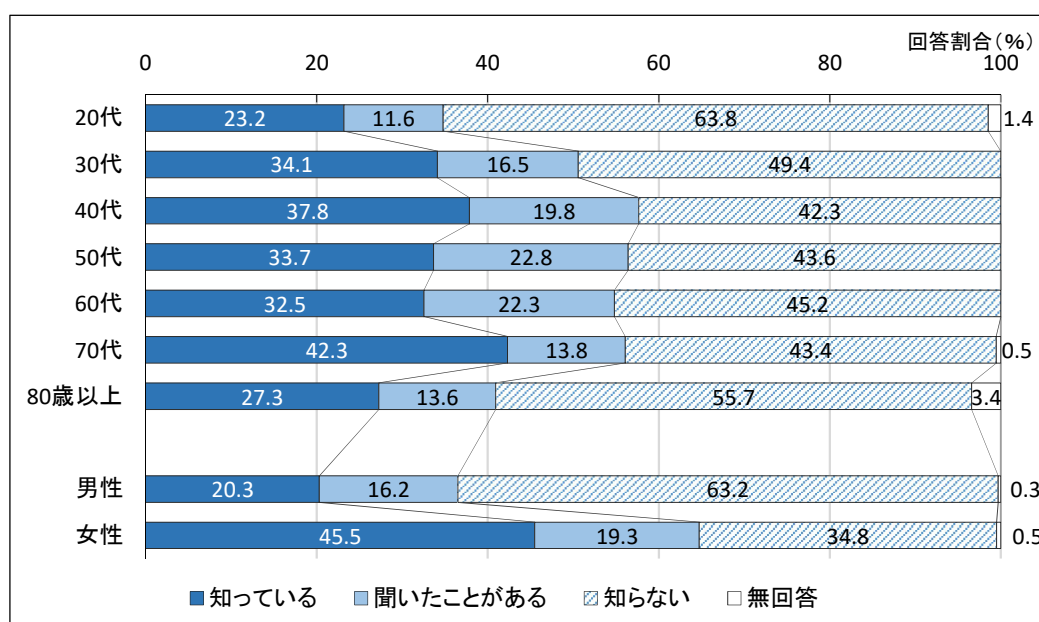
(*)「フレイル」とは、年齢とともに心身の機能が衰え始める状態をいい、「運動、栄養、口腔、社会・心理」の4つの機能低下によって起こります。

「知らない」の割合が47.5%でもっとも高く、次いで「知っている」(34.4%)、「聞いたことがある」(17.5%)と続いた。ほぼ5割の方が「知らない」という結果となり、認知度が低いことが伺える。



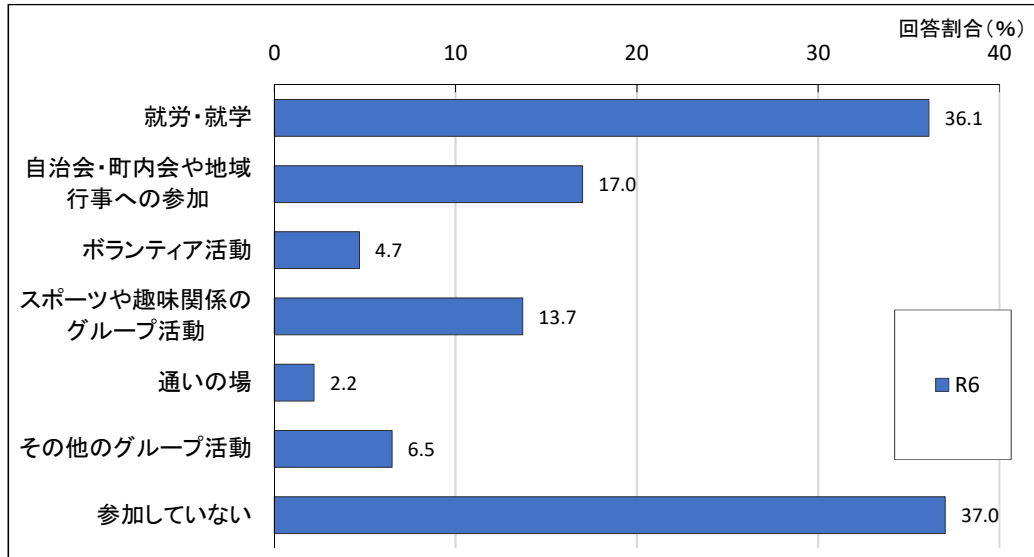
年代別にみると、すべての年代で「知らない」の割合がもっとも高くなった。「知っている」の割合は、70代で4割台、その他の年代は2割から3割台となった。

性別でみると、男性では「知らない」が63.2%でもっとも高い一方、女性では「知っている」が45.5%でもっとも高く、男性より女性の方が認知度が高いことが伺える。

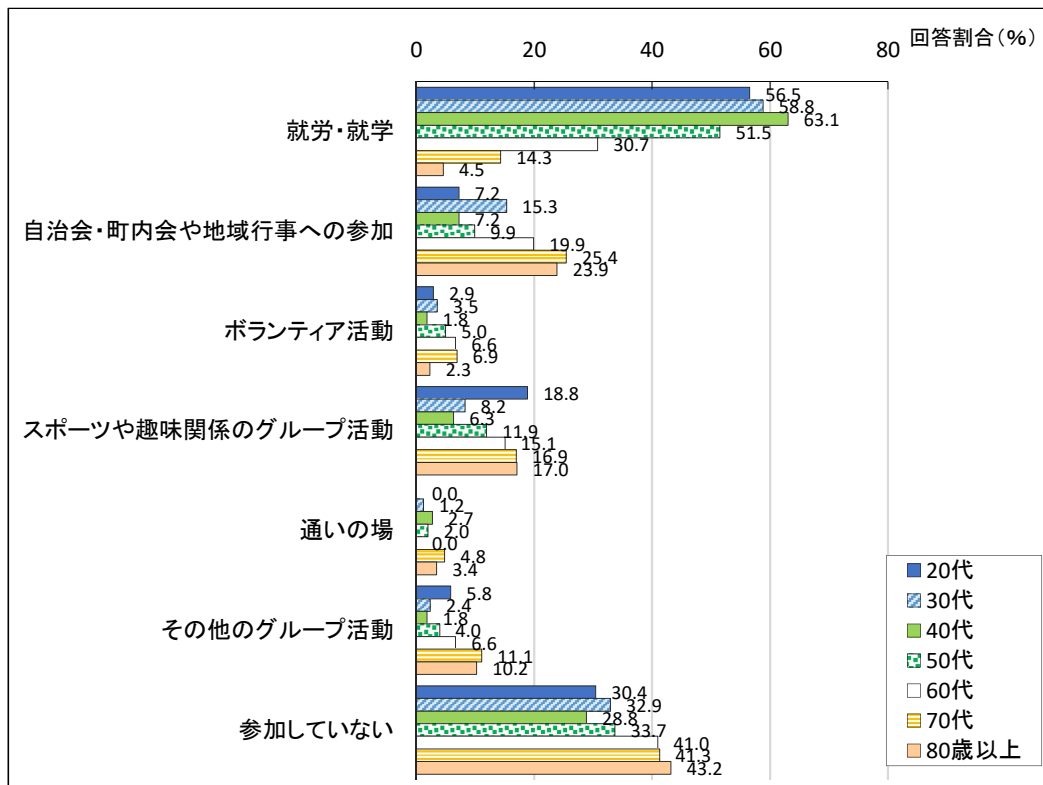


(43) 普段、どのような社会活動(就労・就学を含む)を行っていますか。
(複数回答可)

「参加していない」の割合が37.0%でもっとも高く、次いで「就労・就学」が36.1%で続き、この2項目の割合が突出して高くなった。



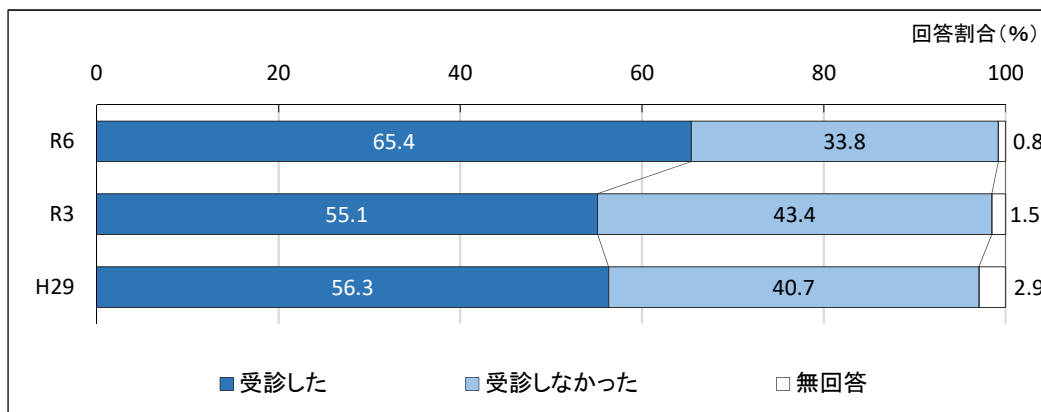
年代別にみると、20代から50代は「就労・就学」の割合がもっとも高く、次いで「参加していない」が続いた。60代以降は「参加していない」の割合がもっとも高くなった。



⑨ 健(検)診について

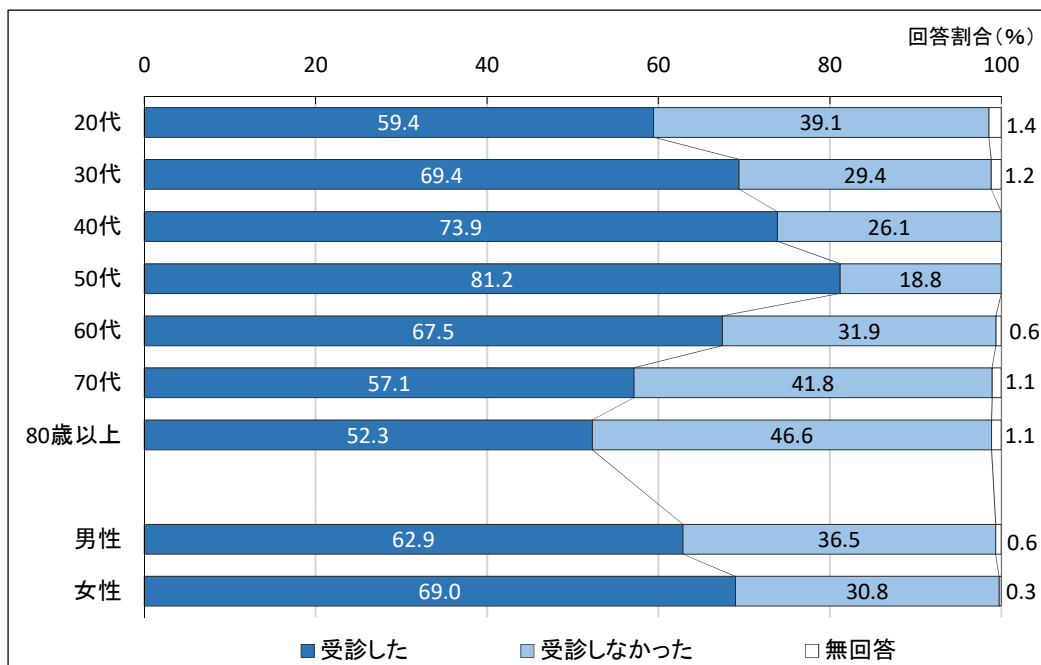
(44) 昨年度、健(検)診(特定健康診査・人間ドック・がん検診等)を受診しましたか。

「受診した」の割合が65.4%となり、「受診しなかった」(33.8%)を上回った。
過去調査と比べると、「受診した」の割合は上昇しており、コロナ禍での受診控えが回復してきていると推察される。



年代別にみると、すべての年代で「受診した」の割合が5割以上となり、「受診しなかった」を上回った。「受診した」の割合は、50代の8割台をピークに、60代以降は年代が上がるにつれて低下している。

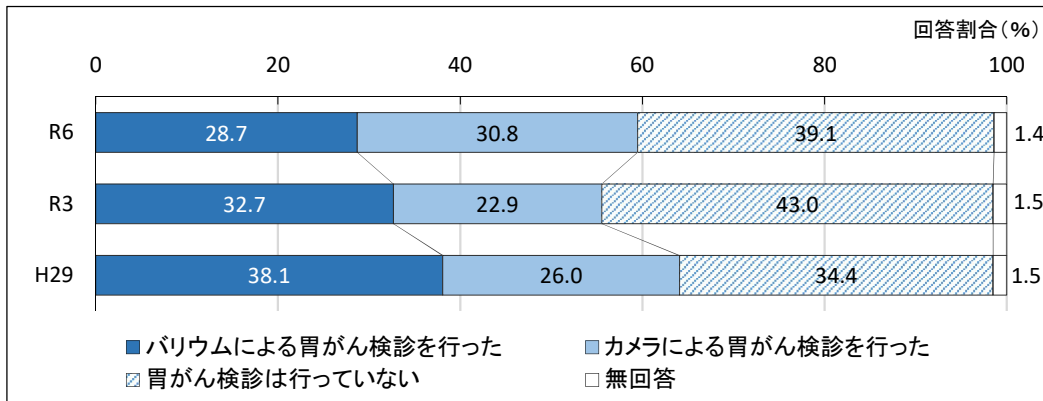
性別にみると、男女ともに「受診した」の割合が6割台となり、「受診しなかった」を上回った。



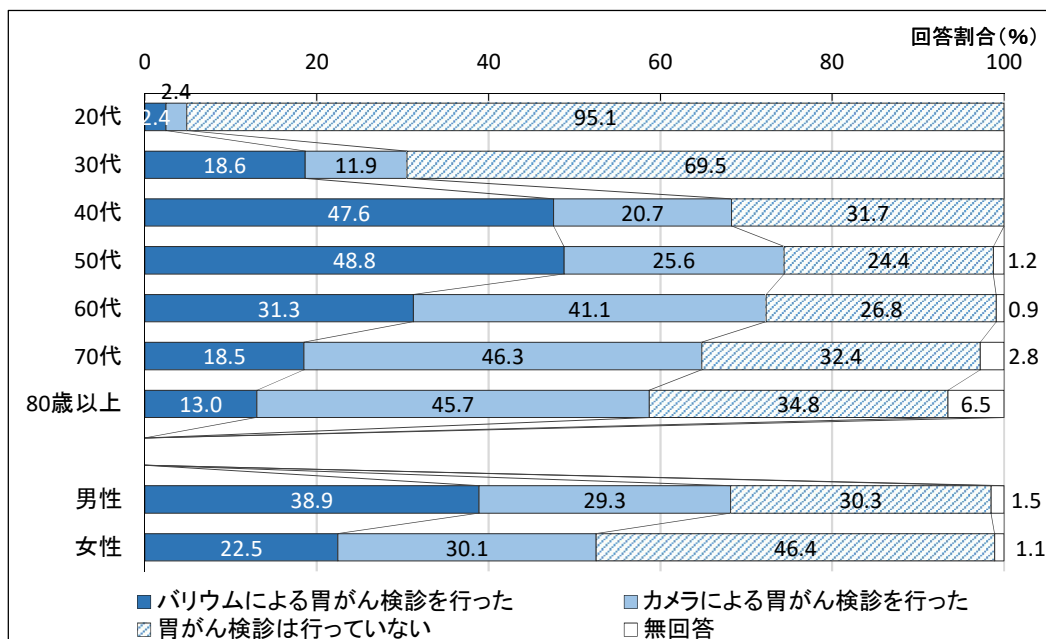
(45) (44)で「1. 受診した」とお答えになった方にお聞きします。
 健(検)診において、胃がん検診を行いましたか。

「バリウムによる胃がん検診を行った」の割合が28.7%、「カメラによる胃がん検診を行った」が30.8%となり、これらを合わせた『胃がん検診を行った』の割合は59.5%となった。一方、「胃がん検診は行っていない」は39.1%となった。

前回調査と比べると、『胃がん検診を行った』の割合は3.9ポイント高くなった。また、「カメラによる胃がん検診を行った」の割合が、「バリウムによる胃がん検診を行った」の割合より2.1ポイント高くなった。



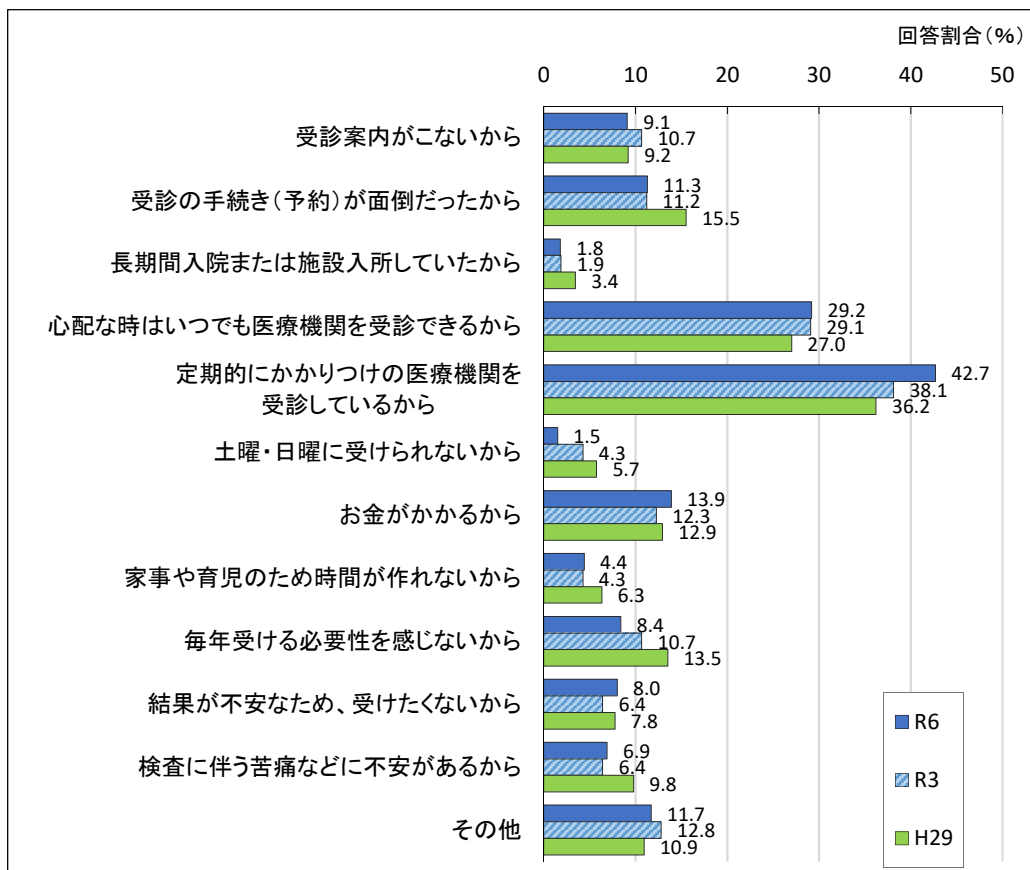
年代別にみると、40代と50代では「バリウムによる胃がん検診を行った」の割合が4割台でもっとも高く、60代以降では「カメラによる胃がん検診を行った」の割合が4割台でもっとも高くなった。その他の年代では「胃がん検診は行っていない」の割合がもっとも高く、特に20代では9割台と高くなっている。性別にみると、男性では「バリウムによる胃がん検診を行った」の割合が3割台でもっとも高くなった一方、女性では「胃がん検診は行っていない」の割合が4割台でもっとも高くなった。



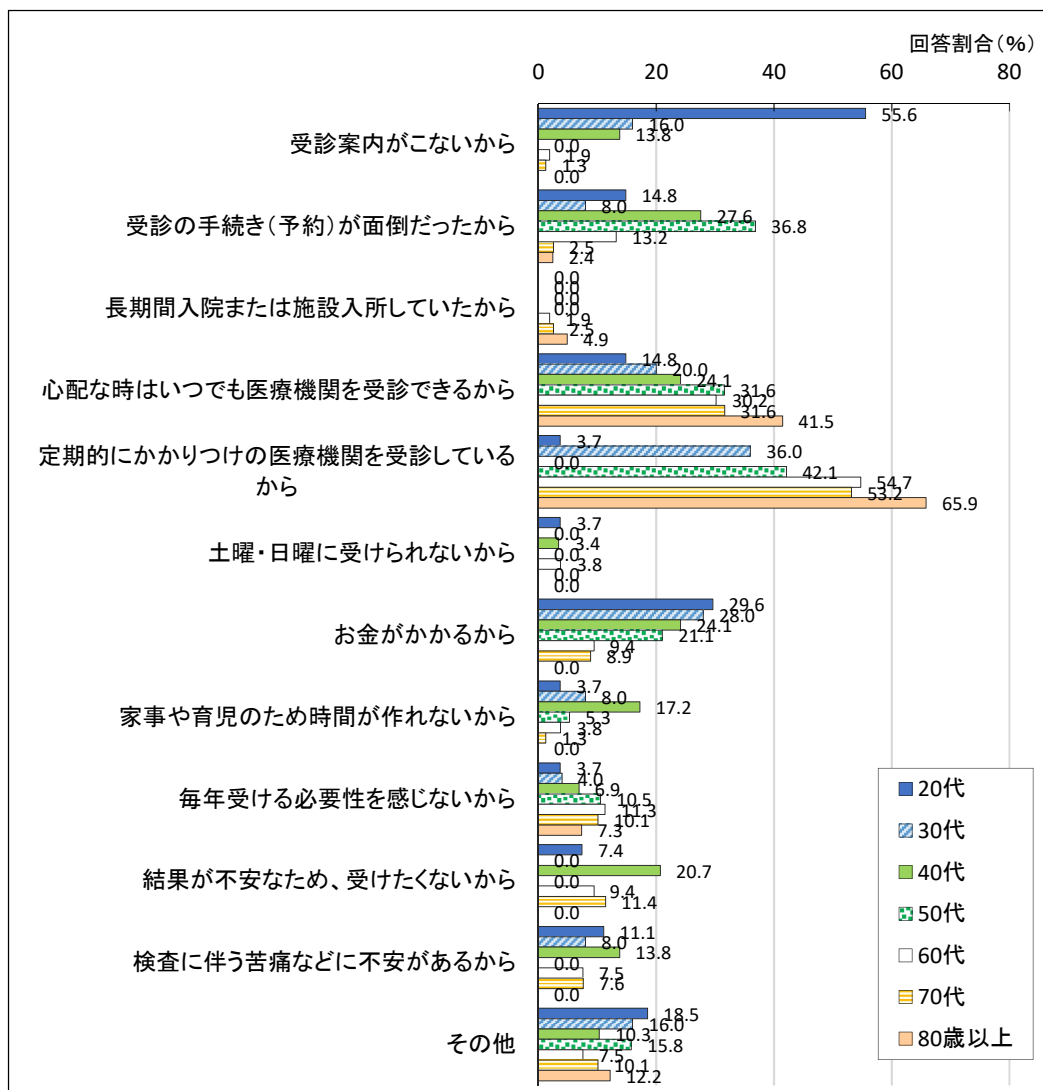
(46) (44)で「2. 受診しなかった」とお答えになった方にお聞きします。
 健(検)診を受診しなかった理由は何ですか。(複数回答可)

「定期的にかかりつけの医療機関を受診しているから」の割合が42.7%でもっとも高く、次いで「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が29.2%で続き、この2項目が突出した高い割合となった。「いつでも受診できる」「定期的に医者にかかっている」という安心感が健(検)診を受診しない大きな要因となっているが、疾患リスクや症状のないうちにがんを発見する重要性について周知が必要と考えられる。

前回調査と比べると、上位2項目の割合はともに上昇した。



年代別にみると、30代と50代以降の各年代では「定期的にかかりつけの医療機関を受診しているから」の割合がもっとも高く、20代では「受診案内が来ないから」、40代では「受診の手続き(予約)が面倒だったから」の割合がもっとも高くなった。

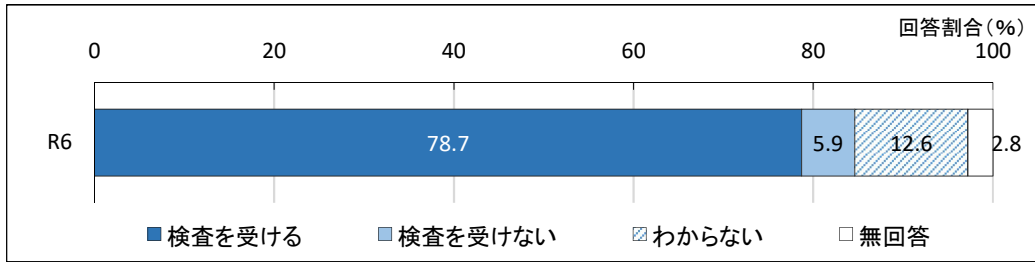


◆ その他を選択した方の回答

妊娠中→出産直後だったため。
理由は無し。
妊娠中だったため。
異常があるのに異常はないというようなことを言われることにつかれたから/免疫疾患患者はガンになりにくいから。
よくわからない。
仕事の休みが無いから。
自然に死にたいから、わざわざ病気を探したくない。
職場の健診を受けたから。
仕事と家事で時間が作れないから。(農繁期になるといけなくなる)
時間がないから。
2年に1回人間ドック。
通っている病院で差別されてるから。
県外の娘のところにでかけていたため。
バリウム検査では不十分だと思っているから。
毎日ランニングをしており健康には自信があるから。
日程が合わず。
かかりつけ機関で6か月ごとの検診がある。
毎年ドックうけていたが昨年だけ用事で行けなかった(予約キャンセル)。
私にとっては意味がないから。医者というものを信用していない、いや出来る人がいないから。
妻の病気が心配だから。
かかりつけ医は内科なので、眼科他は健診で受けたい。
難聴のためスタッフの声が聞き取れない。
両親の介護のため神奈川県から来ていたので(H19～H24)こちらでは受けていない。今年から(4月末から夫と二人で能代に住むことになったので)受けたと思っています。
この後はこのままでいようと。
頭を後ろに下げるとめまいがするため。
受付態度不十分。
定期的に病院へ行っている。
特定健康診査受診しませんが、ポリープがあつてとっていただきました。
不定期に行っている。

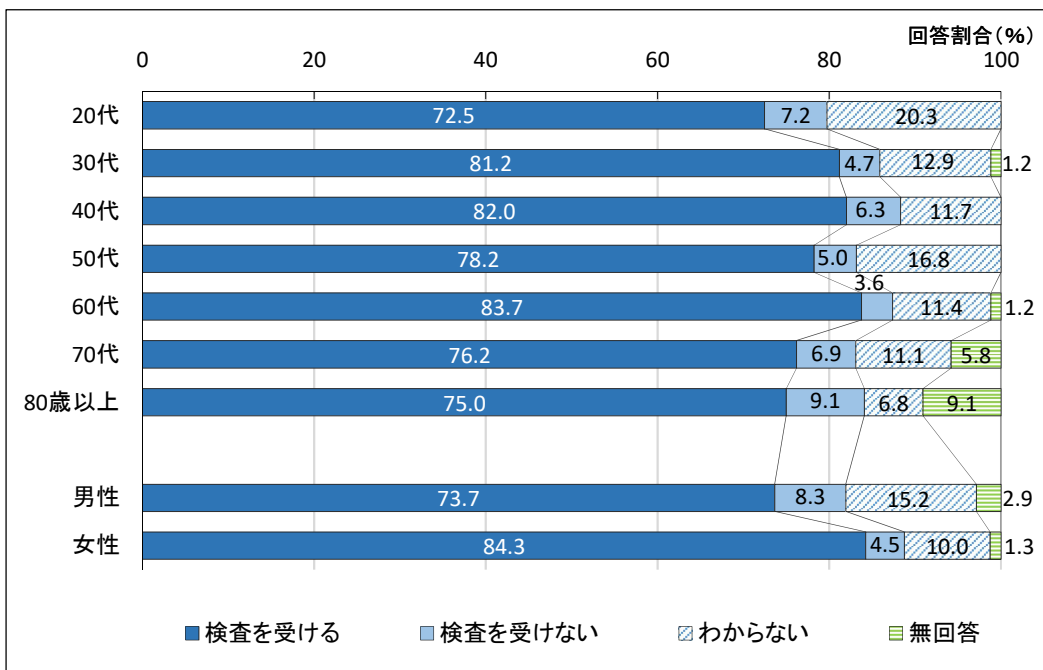
(47) 健(検)診の結果、精密検査の指示があった時はどうしますか。

「検査を受ける」の割合が78.7%となり、「検査を受けない」(5.9%)を大幅に上回った。



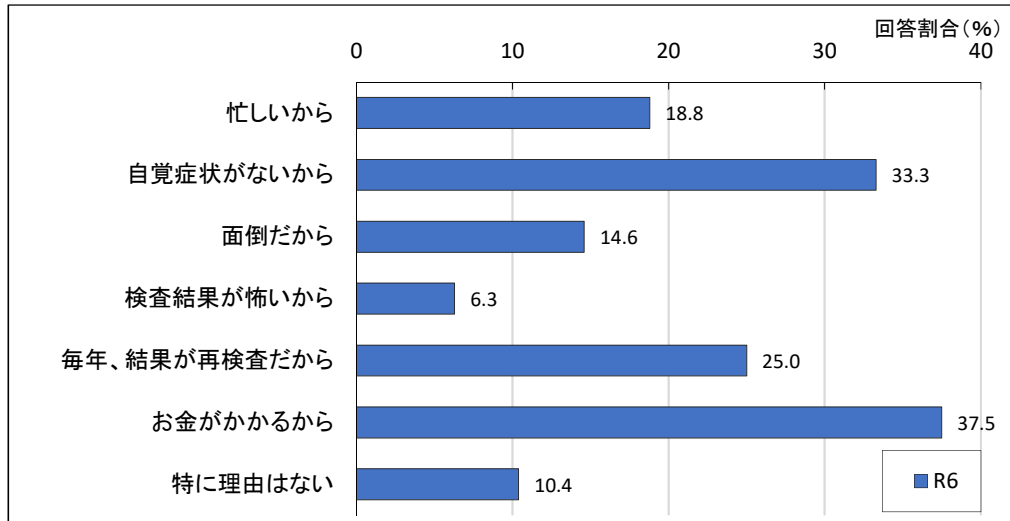
年代別にみると、すべての年代で「検査を受ける」の割合が7割以上となり、「検査を受けない」を大幅に上回った。

性別にみると、「検査を受ける」の割合は、男性が7割台、女性が8割台と女性が男性を上回った。

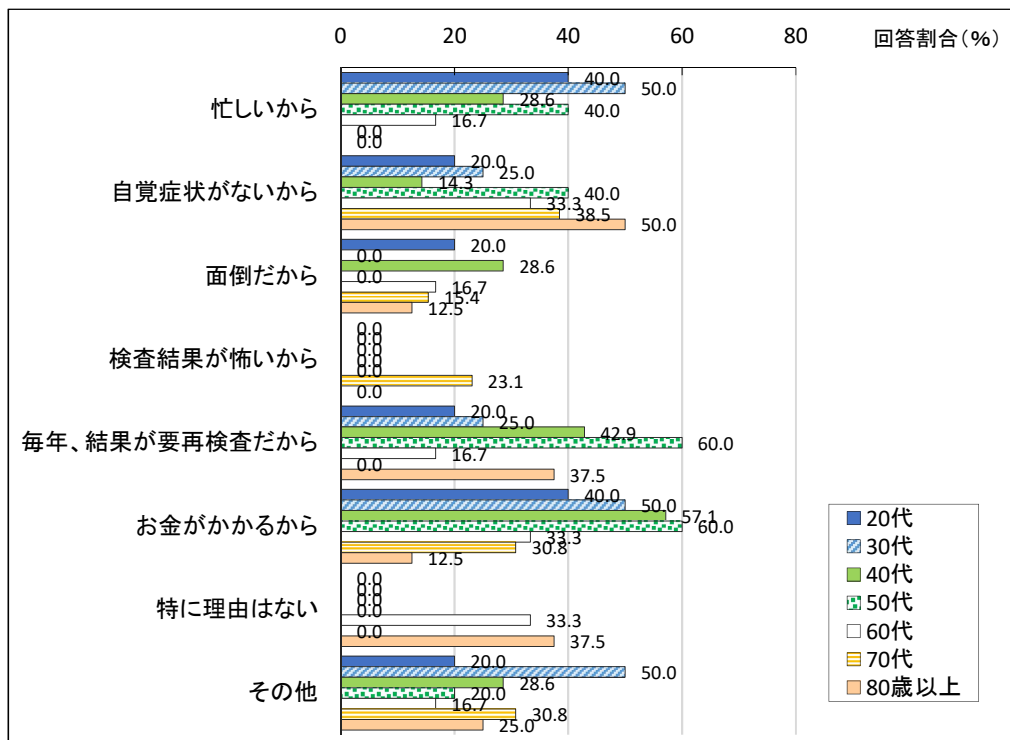


(48) (47)で「2. 検査を受けない」とお答えした方にお聞きします。
 精密検査を受けない理由は何ですか。(複数回答可)

「お金がかかるから」の割合が37.5%でもっとも高く、これに「自覚症状がないから」(33.3%)、「毎年、結果が再検査だから」(25.0%)が続いた。これは、精密検査にかかる費用が経済的な負担になるため、受診を控える傾向にあることが伺える。



年代別にみると、20代から60代では「お金がかかるから」の割合がもっとも高く、70代以降は「自覚症状がないから」の割合がもっとも高くなった。



◆ その他を選択した方の回答

癌になっても治療しようと思わないから。疼痛緩和のための麻薬は使いたい。
過度な治療・検査・延命の必要性を感じないから。健康に長生きしたところでこの市に老後の明るい未来はないと思う。健康のために1日野菜350g果物200g、主食のたんぱく質、バランスよく食べていたら経済的に不健康になります。まずは市民が暮らしに困らない政策を行ってほしい。働けない老人が増えてくるならそれを支える20～60代に経済的な支援を行っていかないと破綻すると思います。子育て支援ももっと増やしてほしい。`身体だけが健康`なアンケートは無意味だと思う。
別の病院で定期的にみてもらってるから。
かかりつけ医で治療中のため。
他の病院へ行くことができないから。
必要ない。
経過観察だから。
健診というものを信用していない。
受診中で把握している、ネットでもしらべてます！
かかりつけ医にかかっているのです。
あまり長生きしたいと思わないから。
定期的に医療機関を受診しているから。